

# マ テ リ ア ル 理 工 学 専 攻

## ＜前期課程＞

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期		
					分野		
					材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学
基礎科目	セミナー講義 実験・演習	マテリアル工学1	小橋 眞 准教授, 松宮 弘明 准教授	2	1年前期, 2年前期		
		マテリアル工学2	棚橋 満 講師	2	1年後期, 2年後期		
主専攻科目	セミナー	物性物理のすすめ	黒田 新一 教授, 田仲 由喜夫 教授	2	1年前期, 2年前期		
		エネルギー・物質工学	各教員 (マテリアル理工学専攻)	2	1年後期, 2年後期		
		エネルギー創成・貯蔵材料工学セミナー1A	元廣 友美 教授	2	1年前期		
		エネルギー創成・貯蔵材料工学セミナー1B	元廣 友美 教授	2	1年後期		
		エネルギー創成・貯蔵材料工学セミナー1C	元廣 友美 教授	2	2年前期		
		エネルギー創成・貯蔵材料工学セミナー1D	元廣 友美 教授	2	2年後期		
		高圧力物質科学セミナー1A	長谷川 正 教授, 丹羽 健 助教	2	1年前期		
		高圧力物質科学セミナー1B	長谷川 正 教授, 丹羽 健 助教	2	1年後期		
		高圧力物質科学セミナー1C	長谷川 正 教授, 丹羽 健 助教	2	2年前期		
		高圧力物質科学セミナー1D	長谷川 正 教授, 丹羽 健 助教	2	2年後期		
		結晶成長学セミナー1A	宇治原 徹 教授, 田川 美穂 准教授, 原田 俊太 助教	2	1年前期		
		結晶成長学セミナー1B	宇治原 徹 教授, 田川 美穂 准教授, 原田 俊太 助教	2	1年後期		
		結晶成長学セミナー1C	宇治原 徹 教授, 田川 美穂 准教授, 原田 俊太 助教	2	2年前期		
		結晶成長学セミナー1D	宇治原 徹 教授, 田川 美穂 准教授, 原田 俊太 助教	2	2年後期		
		材料再生プロセス工学セミナー1A	平澤 政廣 教授, 寺門 修 助教	2	1年前期		
		材料再生プロセス工学セミナー1B	平澤 政廣 教授, 寺門 修 助教	2	1年後期		
		材料再生プロセス工学セミナー1C	平澤 政廣 教授, 寺門 修 助教	2	2年前期		
		材料再生プロセス工学セミナー1D	平澤 政廣 教授, 寺門 修 助教	2	2年後期		
		表面工学セミナー1A	興戸 正純 教授, 黒田 健介 准教授	2	1年前期		
		表面工学セミナー1B	興戸 正純 教授, 黒田 健介 准教授	2	1年後期		
		表面工学セミナー1C	興戸 正純 教授, 黒田 健介 准教授	2	2年前期		
		表面工学セミナー1D	興戸 正純 教授, 黒田 健介 准教授	2	2年後期		
		ナノ集積工学セミナー1A	入山 恭寿 教授	2	1年前期		
		ナノ集積工学セミナー1B	入山 恭寿 教授	2	1年後期		
		ナノ集積工学セミナー1C	入山 恭寿 教授	2	2年前期		
		ナノ集積工学セミナー1D	入山 恭寿 教授	2	2年後期		
		材料設計工学セミナー1A	松永 克志 教授, 中村 篤智 准教授, 阿部 真之 准教授, 豊浦 和明 助教	2	1年前期		
		材料設計工学セミナー1B	松永 克志 教授, 中村 篤智 准教授, 阿部 真之 准教授, 豊浦 和明 助教	2	1年後期		
		材料設計工学セミナー1C	松永 克志 教授, 中村 篤智 准教授, 阿部 真之 准教授, 豊浦 和明 助教	2	2年前期		
		材料設計工学セミナー1D	松永 克志 教授, 中村 篤智 准教授, 阿部 真之 准教授, 豊浦 和明 助教	2	2年後期		
		シンクロトン光応用工学セミナー1A	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授, 山本 尚人 助教	2	1年前期		
		シンクロトン光応用工学セミナー1B	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授, 山本 尚人 助教	2	1年後期		
		シンクロトン光応用工学セミナー1C	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授, 山本 尚人 助教	2	2年前期		
		シンクロトン光応用工学セミナー1D	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授, 山本 尚人 助教	2	2年後期		
		材料加工工学セミナー1A	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授, 阿部 英嗣 助教, 石黒 太浩 助教	2	1年前期		
		材料加工工学セミナー1B	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授, 阿部 英嗣 助教, 石黒 太浩 助教	2	1年後期		
		材料加工工学セミナー1C	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授, 阿部 英嗣 助教, 石黒 太浩 助教	2	2年前期		
		材料加工工学セミナー1D	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授, 阿部 英嗣 助教, 石黒 太浩 助教	2	2年後期		
		材料強度学セミナー1A	田川 哲哉 准教授	2	1年前期		
		材料強度学セミナー1B	田川 哲哉 准教授	2	1年後期		
		材料強度学セミナー1C	田川 哲哉 准教授	2	2年前期		
		材料強度学セミナー1D	田川 哲哉 准教授	2	2年後期		
		材料物理化学セミナー1A	藤澤 敏治 教授, 佐野 浩行 助教	2	1年前期		
		材料物理化学セミナー1B	藤澤 敏治 教授, 佐野 浩行 助教	2	1年後期		
		材料物理化学セミナー1C	藤澤 敏治 教授, 佐野 浩行 助教	2	2年前期		
		材料物理化学セミナー1D	藤澤 敏治 教授, 佐野 浩行 助教	2	2年後期		
		材料開発工学セミナー1A	村田 純教 教授, 湯川 宏 助教	2	1年前期		
		材料開発工学セミナー1B	村田 純教 教授, 湯川 宏 助教	2	1年後期		
材料開発工学セミナー1C	村田 純教 教授, 湯川 宏 助教	2	2年前期				
材料開発工学セミナー1D	村田 純教 教授, 湯川 宏 助教	2	2年後期				
材料構造制御工学セミナー1A	金武 直幸 教授, 伊藤 孝至 准教授, 小橋 眞 准教授, 久米 裕二 助教	2	1年前期				
材料構造制御工学セミナー1B	金武 直幸 教授, 伊藤 孝至 准教授, 小橋 眞 准教授, 久米 裕二 助教	2	1年後期				
材料構造制御工学セミナー1C	金武 直幸 教授, 伊藤 孝至 准教授, 小橋 眞 准教授, 久米 裕二 助教	2	2年前期				
材料構造制御工学セミナー1D	金武 直幸 教授, 伊藤 孝至 准教授, 小橋 眞 准教授, 久米 裕二 助教	2	2年後期				
スピン物性工学セミナー1A	浅野 哲也 教授, 植田 研二 准教授, 宮脇 秀文 助教	2	1年前期				
スピン物性工学セミナー1B	浅野 哲也 教授, 植田 研二 准教授, 宮脇 秀文 助教	2	1年後期				
スピン物性工学セミナー1C	浅野 哲也 教授, 植田 研二 准教授, 宮脇 秀文 助教	2	2年前期				
スピン物性工学セミナー1D	浅野 哲也 教授, 植田 研二 准教授, 宮脇 秀文 助教	2	2年後期				

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期			
					分野			
					材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学	
主専攻科目	主分野科目	セミナー	環境調和型分離計測セミナー1A	松宮 弘明 准教授	2	1年前期		
			環境調和型分離計測セミナー1B	松宮 弘明 准教授	2	1年後期		
			環境調和型分離計測セミナー1C	松宮 弘明 准教授	2	2年前期		
			環境調和型分離計測セミナー1D	松宮 弘明 准教授	2	2年後期		
			低環境負荷材料工学セミナー 1A	市野 良一 教授, 神本 祐樹 助教	2	1年前期		
			低環境負荷材料工学セミナー 1B	市野 良一 教授, 神本 祐樹 助教	2	1年後期		
			低環境負荷材料工学セミナー 1C	市野 良一 教授, 神本 祐樹 助教	2	2年前期		
			低環境負荷材料工学セミナー 1D	市野 良一 教授, 神本 祐樹 助教	2	2年後期		
			材料分子科学セミナー 1A	齋藤 永宏 教授, 上野 智永 助教	2	1年前期		
			材料分子科学セミナー 1B	齋藤 永宏 教授, 上野 智永 助教	2	1年後期		
			材料分子科学セミナー 1C	齋藤 永宏 教授, 上野 智永 助教	2	2年前期		
			材料分子科学セミナー 1D	齋藤 永宏 教授, 上野 智永 助教	2	2年後期		
			ナノ構造評価学セミナー1A	山本 剛久 教授, 佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	1年前期		
			ナノ構造評価学セミナー1B	山本 剛久 教授, 佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	1年後期		
			ナノ構造評価学セミナー1C	山本 剛久 教授, 佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	2年前期		
			ナノ構造評価学セミナー1D	山本 剛久 教授, 佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	2年後期		
			材料解析学セミナー1A	香田 忍 教授, 松岡 辰郎 准教授, 齋藤 徹 准教授	2	1年前期		
			材料解析学セミナー1B	香田 忍 教授, 松岡 辰郎 准教授, 齋藤 徹 准教授	2	1年後期		
			材料解析学セミナー1C	香田 忍 教授, 松岡 辰郎 准教授, 齋藤 徹 准教授	2	2年前期		
			材料解析学セミナー1D	香田 忍 教授, 松岡 辰郎 准教授, 齋藤 徹 准教授	2	2年後期		
			無機材料設計セミナー1A	薩摩 篤 教授, 北 英紀 教授, 沢邊 恭一 講師, 棚橋 満 講師, 大山 順也 助教	2	1年前期		
			無機材料設計セミナー1B	薩摩 篤 教授, 北 英紀 教授, 沢邊 恭一 講師, 棚橋 満 講師, 大山 順也 助教	2	1年後期		
			無機材料設計セミナー1C	薩摩 篤 教授, 北 英紀 教授, 沢邊 恭一 講師, 棚橋 満 講師, 大山 順也 助教	2	2年前期		
			無機材料設計セミナー1D	薩摩 篤 教授, 北 英紀 教授, 沢邊 恭一 講師, 棚橋 満 講師, 大山 順也 助教	2	2年後期		
			物性基礎工学セミナー1A	田仲 由喜夫 教授, 佐藤昌利 准教授, 大成 誠一郎 助教	2		1年前期	
			物性基礎工学セミナー1B	田仲 由喜夫 教授, 佐藤昌利 准教授, 大成 誠一郎 助教	2		1年後期	
			物性基礎工学セミナー1C	田仲 由喜夫 教授, 佐藤昌利 准教授, 大成 誠一郎 助教	2		2年前期	
			物性基礎工学セミナー1D	田仲 由喜夫 教授, 佐藤昌利 准教授, 大成 誠一郎 助教	2		2年後期	
			光物理学セミナー1A	岸田 英夫 教授, 小山 剛史 講師, 鶴沼 毅也 助教	2		1年前期	
			光物理学セミナー1B	岸田 英夫 教授, 小山 剛史 講師, 鶴沼 毅也 助教	2		1年後期	
			光物理学セミナー1C	岸田 英夫 教授, 小山 剛史 講師, 鶴沼 毅也 助教	2		2年前期	
			光物理学セミナー1D	岸田 英夫 教授, 小山 剛史 講師, 鶴沼 毅也 助教	2		2年後期	
			量子物性工学セミナー1A	黒田 新一 教授, 伊東 裕 准教授, 田中 久睦 助教	2		1年前期	
			量子物性工学セミナー1B	黒田 新一 教授, 伊東 裕 准教授, 田中 久睦 助教	2		1年後期	
			量子物性工学セミナー1C	黒田 新一 教授, 伊東 裕 准教授, 田中 久睦 助教	2		2年前期	
			量子物性工学セミナー1D	黒田 新一 教授, 伊東 裕 准教授, 田中 久睦 助教	2		2年後期	
			計算数理工学セミナー1A	張 紹良 教授, 今堀 慎治 准教授, 宮田 考史 助教	2		1年前期	
			計算数理工学セミナー1B	張 紹良 教授, 今堀 慎治 准教授, 宮田 考史 助教	2		1年後期	
			計算数理工学セミナー1C	張 紹良 教授, 今堀 慎治 准教授, 宮田 考史 助教	2		2年前期	
			計算数理工学セミナー1D	張 紹良 教授, 今堀 慎治 准教授, 宮田 考史 助教	2		2年後期	
			構造物性工学セミナー1A	澤 博 教授, 片山 尚幸 助教	2		1年前期	
			構造物性工学セミナー1B	澤 博 教授, 片山 尚幸 助教	2		1年後期	
構造物性工学セミナー1C	澤 博 教授, 片山 尚幸 助教	2		2年前期				
構造物性工学セミナー1D	澤 博 教授, 片山 尚幸 助教	2		2年後期				
生体物性工学セミナー1A	横山 泰範 助教	2		1年前期				
生体物性工学セミナー1B	横山 泰範 助教	2		1年後期				
生体物性工学セミナー1C	横山 泰範 助教	2		2年前期				
生体物性工学セミナー1D	横山 泰範 助教	2		2年後期				

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期			
					分野			
					材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学	
主専攻科目	主分野科目	セミナー	電子物性工学セミナー1A	生田恒博 博志 准教授, 竹中康司 准教授, 竹内博志 准教授	2		1年前期	
			電子物性工学セミナー1B	生田恒博 博志 准教授, 竹中康司 准教授, 竹内博志 准教授	2		1年後期	
			電子物性工学セミナー1C	生田恒博 博志 准教授, 竹中康司 准教授, 竹内博志 准教授	2		2年前期	
			電子物性工学セミナー1D	生田恒博 博志 准教授, 竹中康司 准教授, 竹内博志 准教授	2		2年後期	
			計算物性工学セミナー1A	笹井浄慈 理生 助教, 寺田智樹 講師, 千見寺	2		1年前期	
			計算物性工学セミナー1B	笹井浄慈 理生 助教, 寺田智樹 講師, 千見寺	2		1年後期	
			計算物性工学セミナー1C	笹井浄慈 理生 助教, 寺田智樹 講師, 千見寺	2		2年前期	
			計算物性工学セミナー1D	笹井浄慈 理生 助教, 寺田智樹 講師, 千見寺	2		2年後期	
			計算流体力学セミナー1A	石井克則 克哉 助教, 石原卓 准教授, 芳松直也 助教	2		1年前期	
			計算流体力学セミナー1B	石井克則 克哉 助教, 石原卓 准教授, 芳松直也 助教	2		1年後期	
			計算流体力学セミナー1C	石井克則 克哉 助教, 石原卓 准教授, 芳松直也 助教	2		2年前期	
			計算流体力学セミナー1D	石井克則 克哉 助教, 石原卓 准教授, 芳松直也 助教	2		2年後期	
			結晶デバイスセミナー1A	財満満男 顕明 助教, 竹内和歌奈 助教, 中塚理 准教授, 坂下	2		1年前期	
			結晶デバイスセミナー1B	財満満男 顕明 助教, 竹内和歌奈 助教, 中塚理 准教授, 坂下	2		1年後期	
			結晶デバイスセミナー1C	財満満男 顕明 助教, 竹内和歌奈 助教, 中塚理 准教授, 坂下	2		2年前期	
			結晶デバイスセミナー1D	財満満男 顕明 助教, 竹内和歌奈 助教, 中塚理 准教授, 坂下	2		2年後期	
			ナノ構造解析学セミナー1A	齋藤仁 弥八 助教, 安坂幸師 講師, 中原	2		1年前期	
			ナノ構造解析学セミナー1B	齋藤仁 弥八 助教, 安坂幸師 講師, 中原	2		1年後期	
			ナノ構造解析学セミナー1C	齋藤仁 弥八 助教, 安坂幸師 講師, 中原	2		2年前期	
			ナノ構造解析学セミナー1D	齋藤仁 弥八 助教, 安坂幸師 講師, 中原	2		2年後期	
			エネルギー機能材料工学セミナー1A	長崎智明 正雅 准教授, 吉野正人 助教, 柚原淳司 准教授, 山田	2			1年前期
			エネルギー機能材料工学セミナー1B	長崎智明 正雅 准教授, 吉野正人 助教, 柚原淳司 准教授, 山田	2			1年後期
			エネルギー機能材料工学セミナー1C	長崎智明 正雅 准教授, 吉野正人 助教, 柚原淳司 准教授, 山田	2			2年前期
			エネルギー機能材料工学セミナー1D	長崎智明 正雅 准教授, 吉野正人 助教, 柚原淳司 准教授, 山田	2			2年後期
			極限環境エネルギー材料科学セミナー1A	武藤真弘 俊介 助教, 巽一徹 准教授, 大塚	2			1年前期
			極限環境エネルギー材料科学セミナー1B	武藤真弘 俊介 助教, 巽一徹 准教授, 大塚	2			1年後期
			極限環境エネルギー材料科学セミナー1C	武藤真弘 俊介 助教, 巽一徹 准教授, 大塚	2			2年前期
			極限環境エネルギー材料科学セミナー1D	武藤真弘 俊介 助教, 巽一徹 准教授, 大塚	2			2年後期
			中性子・原子核科学セミナー1A	瓜谷康明 章 教授, 渡辺賢一 准教授, 小島山崎 淳 助教	2			1年前期
			中性子・原子核科学セミナー1B	瓜谷康明 章 教授, 渡辺賢一 准教授, 小島山崎 淳 助教	2			1年後期
			中性子・原子核科学セミナー1C	瓜谷康明 章 教授, 渡辺賢一 准教授, 小島山崎 淳 助教	2			2年前期
			中性子・原子核科学セミナー1D	瓜谷康明 章 教授, 渡辺賢一 准教授, 小島山崎 淳 助教	2			2年後期
			エネルギー量子制御工学セミナー1A	山本章夫 教授, 遠藤知弘 助教	2			1年前期
			エネルギー量子制御工学セミナー1B	山本章夫 教授, 遠藤知弘 助教	2			1年後期
			エネルギー量子制御工学セミナー1C	山本章夫 教授, 遠藤知弘 助教	2			2年前期
			エネルギー量子制御工学セミナー1D	山本章夫 教授, 遠藤知弘 助教	2			2年後期
			環境機能材料セミナー1A	八木伸也 教授, 吉田朋子 准教授	2			1年前期
			環境機能材料セミナー1B	八木伸也 教授, 吉田朋子 准教授	2			1年後期
			環境機能材料セミナー1C	八木伸也 教授, 吉田朋子 准教授	2			2年前期
			環境機能材料セミナー1D	八木伸也 教授, 吉田朋子 准教授	2			2年後期
			エネルギー材料プロセスセミナー1A	榎田貴彦 洋一 教授, 澤田佳代 准教授, 杉山平林 大介 助教	2			1年前期
			エネルギー材料プロセスセミナー1B	榎田貴彦 洋一 教授, 澤田佳代 准教授, 杉山平林 大介 助教	2			1年後期
			エネルギー材料プロセスセミナー1C	榎田貴彦 洋一 教授, 澤田佳代 准教授, 杉山平林 大介 助教	2			2年前期
			エネルギー材料プロセスセミナー1D	榎田貴彦 洋一 教授, 澤田佳代 准教授, 杉山平林 大介 助教	2			2年後期
			熱エネルギーシステム工学セミナー1A	辻義之 教授, 伊藤高啓 准教授	2			1年前期
			熱エネルギーシステム工学セミナー1B	辻義之 教授, 伊藤高啓 准教授	2			1年後期
熱エネルギーシステム工学セミナー1C	辻義之 教授, 伊藤高啓 准教授	2			2年前期			
熱エネルギーシステム工学セミナー1D	辻義之 教授, 伊藤高啓 准教授	2			2年後期			
エネルギー環境工学セミナー1A	山澤茂一 弘実 助教, 森泉純 准教授, 平尾	2			1年前期			
エネルギー環境工学セミナー1B	山澤茂一 弘実 助教, 森泉純 准教授, 平尾	2			1年後期			
エネルギー環境工学セミナー1C	山澤茂一 弘実 助教, 森泉純 准教授, 平尾	2			2年前期			
エネルギー環境工学セミナー1D	山澤茂一 弘実 助教, 森泉純 准教授, 平尾	2			2年後期			

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期		
					分野		
					材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学
主 分 野 科 目	ゼ ミ ナ ー	エネルギー材料デバイス工学セミナー1A	藤田 隆明 教授, 庄司 多津男 准教授, 有本 英樹 助教	2			1年前期
		エネルギー材料デバイス工学セミナー1B	藤田 隆明 教授, 庄司 多津男 准教授, 有本 英樹 助教	2			1年後期
		エネルギー材料デバイス工学セミナー1C	藤田 隆明 教授, 庄司 多津男 准教授, 有本 英樹 助教	2			2年前期
		エネルギー材料デバイス工学セミナー1D	藤田 隆明 教授, 庄司 多津男 准教授, 有本 英樹 助教	2			2年後期
		量子ビーム物性工学セミナー1A	曾田 一雄 教授, 加藤 政彦 助教	2			1年前期
		量子ビーム物性工学セミナー1B	曾田 一雄 教授, 加藤 政彦 助教	2			1年後期
		量子ビーム物性工学セミナー1C	曾田 一雄 教授, 加藤 政彦 助教	2			2年前期
		量子ビーム物性工学セミナー1D	曾田 一雄 教授, 加藤 政彦 助教	2			2年後期
		量子ビーム計測工学セミナー1A	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 准教授	2			1年前期
		量子ビーム計測工学セミナー1B	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 准教授	2			1年後期
		量子ビーム計測工学セミナー1C	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 准教授	2			2年前期
		量子ビーム計測工学セミナー1D	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 准教授	2			2年後期
		エネルギー創成・貯蔵材料工学特論	元廣 友美 教授	2	1年前期		
		薄膜材料工学特論	元廣 友美 教授	2	2年後期		
	高圧力物質科学特論 I	長谷川 正 教授	2	1年後期			
	高圧力物質科学特論 II	長谷川 正 教授	2	2年後期			
	結晶成長プロセス特論	宇治原 徹 教授	2	1年前期			
	結晶成長工学特論	宇治原 徹 教授	2	2年前期			
	材料再生プロセス工学特論	平澤 政廣 教授	2	2年前期			
	材料反応工学特論	平澤 政廣 教授	2	1年後期			
	材料表面化学特論	興戸 正純 教授, 黒田 健介 准教授	2	2年後期			
	電気化学プロセス特論	興戸 正純 教授, 黒田 健介 准教授	2	1年前期			
	電気化学測定特論	入山 恭寿 教授	2	1年前期			
	固体イオニクス材料特論	入山 恭寿 教授	2	2年後期			
	材料計測工学特論	齋藤 永宏 教授	2	1年後期			
	プラズマ材料工学特論	齋藤 永宏 教授	2	2年前期			
	塑性計算力学特論	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授	2	2年後期			
	材料塑性加工工学特論	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授	2	1年前期			
	鍛造特論	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授, 非常勤講師	2	1年前期後期			
	材料強度学特論 I	田川 哲哉 准教授	2	1年後期			
	材料強度学特論 II	田川 哲哉 准教授	2	2年後期			
	高温物理化学特論	藤澤 敏治 教授	2	2年後期			
	材料分離・精製工学特論	藤澤 敏治 教授	2	1年前期			
	材料組織形成学特論	村田 純教 教授	2	2年前期			
	エネルギー材料組織学特論	村田 純教 教授	2	1年前期			
	複合材料設計学特論	金武 直幸 教授, 小橋 眞 准教授	2	2年後期			
	複合プロセス工学特論	金武 直幸 教授, 小橋 眞 准教授	2	1年後期			
	スピン物性工学特論 I	浅野 秀文 教授	2	2年後期			
	スピン物性工学特論 II	植田 研二 准教授	2	1年前期			
	材料ナノ構造設計学特論	松永 克志 教授, 中村 篤智 准教授	2	2年後期			
	材料機能設計学特論	松永 克志 教授, 中村 篤智 准教授, 阿部 真之 准教授	2	1年前期			
	ナノ構造評価学特論	山本 剛久 教授, 佐々木 勝寛 准教授	2	1年後期 2年後期			
	シンクロトン光物性学特論	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授	2	1年後期			
	シンクロトン光応用工学特論	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授	2	2年前期			
	分離計測特論	齋藤 徹 准教授, 松宮 弘明 准教授	2	2年前期			
	機能開発工学特論	北 英紀 教授, 棚橋 満 講師	2	1年前期			
	低環境負荷材料工学特論 I	市野 良一 教授	2	1年後期			
低環境負荷材料工学特論 II	市野 良一 教授	2	2年後期				
材料工学特論 I	非常勤講師 (マテリアル)	1	1年前期後期 2年前期後期				
材料工学特論 II	非常勤講師 (マテリアル)	1	1年前期後期 2年前期後期				
材料工学特論 III	非常勤講師 (マテリアル)	1	1年前期後期 2年前期後期				
材料工学特論 IV	非常勤講師 (マテリアル)	1	1年前期後期 2年前期後期				
量子基礎工学特論	佐藤 昌利 准教授	2		1年後期			
固体電子論特論	田仲 山喜夫 教授	2		2年前期			
光物性学特論	小山 剛史 講師	2		1年後期			
固体物性学特論	岸田 英夫 教授	2		2年前期			
凝縮系物性学特論	黒田 新一 教授	2		2年後期			
有機固体物性学特論	伊東 裕 准教授	2		1年後期			
構造物性学特論	未定	2		2年前期			
回折物理学特論	澤 博 教授	2		1年後期			
生体物理学特論	未定	2		2年後期			
ナノ構造物性学特論	未定	2		1年後期			
大規模並列数値計算特論	石井 克哉 教授, 石原 卓 准教授, 吉井 範行 特任准教授, 永井 亨 助教, 岡本 直也 助教	2		1年前期 2年前期			
計算科学フロンティア連続講義	計算科学連携教育研究センター関連教員	2		1年後期 2年後期			

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期			
					分野			
					材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学	
主 専 攻 科 目	講 義	応用物理学特論 I	非常勤講師 (マテリアル)	1		1年前期後期 2年前期後期		
		応用物理学特論 II	非常勤講師 (マテリアル)	1		1年前期後期 2年前期後期		
		応用物理学特論 III	非常勤講師 (マテリアル)	1		1年前期後期 2年前期後期		
		応用物理学特論 IV	非常勤講師 (マテリアル)	1		1年前期後期 2年前期後期		
		応用物理学特論 V	非常勤講師 (マテリアル)	1		1年前期後期 2年前期後期		
		応用物理学特論 VI	非常勤講師 (マテリアル)	2		1年前期		
		エネルギー機能材料工学特論	長崎 正雅 教授, 柚原 淳司 准教授, 山田 智明 准教授	2			1年前期	
		高エネルギー電子分光特論	武藤 俊介 教授, 巽 一敏 准教授	2			2年後期	
		中性子・原子核科学特論	瓜谷 章 教授, 渡辺 賢一 准教授, 小島 康明 講師	2			2年前期	
		エネルギー科学特論	藤田 隆明 教授	2			2年前期	
		エネルギー量子制御工学特論	山本 章夫 教授	2			1年後期 2年後期	
		核融合炉システム工学	藤田 隆明 教授, 杉山 貴彦 准教授	2			2年後期	
		エネルギー材料プロセス工学	榎田 洋一 教授, 澤田 佳代 准教授	2			1年前期 2年前期	
		環境機能材料特論	八木 伸也 教授, 吉田 朋子 准教授	2			1年前期	
		エネルギー熱流体工学特論	辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授	2			1年後期 2年後期	
		エネルギー環境安全工学特論	山澤 弘実 教授, 森泉 純 准教授	2			1年後期 2年後期	
		量子ビーム物性工学特論	曾田 一雄 教授	2			1年前期 2年前期	
		量子ビーム計測学特論	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授	2			1年後期 2年後期	
		量子エネルギー工学特別講義 I	非常勤講師 (マテリアル)	1				
		量子エネルギー工学特別講義 II	非常勤講師 (マテリアル)	1				
	実 験 ・ 演 習	材料工学特別実験及び演習 A	各教員 (マテリアル)	1	1年前期			
		材料工学特別実験及び演習 B	各教員 (マテリアル)	1	1年後期			
		応用物理学特別実験及び演習 A	各教員 (マテリアル)	1		1年前期		
		応用物理学特別実験及び演習 B	各教員 (マテリアル)	1		1年後期		
		量子エネルギー工学特別実験及び演習 A	各教員 (マテリアル)	1			1年前期	
		量子エネルギー工学特別実験及び演習 B	各教員 (マテリアル)	1			1年後期	
	原子炉実験	山本 章夫 教授	2			1年前期		
	他分野科目	セミナー 講義 実験・演習	当該専攻の主専攻科目の中で、基礎科目と主分野科目に該当しない科目					
	副専攻科目	セミナー 講義 実験・演習	当該専攻以外の工学研究科専攻で開講されている授業科目のうち、指導教員並びに専攻長が認めた科目					
	総 合 工 学 科 目 (*印はリー ディング大学 院科目)	高度総合工学創造実験	田川 智彦 教授	3			1年前期後期, 2年前期後期	
研究インターンシップ 1		田川 智彦 教授	2~8			1年前期後期, 2年前期後期		
最先端理工学特論		永野 修作 准教授	1			1年前期後期, 2年前期後期		
最先端理工学実験		永野 修作 准教授	1			1年前期後期, 2年前期後期		
コミュニケーション学		古谷 礼子 准教授	1			1年後期, 2年後期		
実践科学技術英語		未定	2			1年前期, 2年前期		
科学技術英語特論		非常勤講師	1			1年後期, 2年後期		
ベンチャービジネス特論 I		永野 修作 准教授	2			1年前期, 2年前期		
ベンチャービジネス特論 II		永野 修作 准教授, 枝川 明敬 客員教授	2			1年後期, 2年後期		
学外実習 A		各教員 (マテリアル)	1			1年前期後期, 2年前期後期		
学外実習 B		各教員 (マテリアル)	1			1年前期後期, 2年前期後期		
宇宙研究開発概論*		リーディング大学院事業 各推進担当者	2			1年前期, 2年前期		
国際プロジェクト研究		各教員	2~4			1年前期後期, 2年前期後期		
国際協働教育特別講義		未定	1			1年前期後期, 2年前期後期		
国際協働教育外国語演習		未定	1			1年前期後期, 2年前期後期		
他研究科等科目		本学大学院の他の研究科で開講される授業科目、大学院共通科目、単位互換協定による他の大学院の授業科目又は工学研究科入学時に おいて当該学生が未履修の学問分野に関する本学学部の授業科目のうち、指導教員及び専攻長が認めた科目						
研究指導								
履 修 方 法 及 び 研 究 指 導								
<p>1. 以下の一〜四の各項を満たし、合計30単位以上</p> <p>一 主専攻科目：</p> <p>イ 基礎科目 2単位以上</p> <p>ロ 主分野科目の中から、セミナー4単位、実験・演習2単位を含む12単位以上</p> <p>ハ 他分野科目の中から2単位以上</p> <p>二 副専攻科目の中から2単位以上</p> <p>三 総合工学科目の中から2単位以上。ただし、6単位までを修了要件単位として認め、6単位を超えた分は随意科目の単位として扱う。</p> <p>四 他研究科等科目は4単位までを修了要件単位として認め、4単位を超えた分は随意科目の単位として扱う</p> <p>2. 研究指導については、専攻において定めるところにより、指導教員の指示によること</p>								

マテリアル理工学専攻

<後期課程>

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期		
					分野		
					材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学
主専攻科目	セミナー	エネルギー創成・貯蔵材料工学セミナー2A	元廣 友美 教授	2	1年前期		
		エネルギー創成・貯蔵材料工学セミナー2B	元廣 友美 教授	2	1年後期		
		エネルギー創成・貯蔵材料工学セミナー2C	元廣 友美 教授	2	2年前期		
		エネルギー創成・貯蔵材料工学セミナー2D	元廣 友美 教授	2	2年後期		
		エネルギー創成・貯蔵材料工学セミナー2E	元廣 友美 教授	2	3年前期		
		高圧力物質科学セミナー2A	長谷川 正 教授, 丹羽 健 助教	2	1年前期		
		高圧力物質科学セミナー2B	長谷川 正 教授, 丹羽 健 助教	2	1年後期		
		高圧力物質科学セミナー2C	長谷川 正 教授, 丹羽 健 助教	2	2年前期		
		高圧力物質科学セミナー2D	長谷川 正 教授, 丹羽 健 助教	2	2年後期		
		高圧力物質科学セミナー2E	長谷川 正 教授, 丹羽 健 助教	2	3年前期		
		結晶成長学セミナー2A	宇治原 徹 教授, 田川 美穂 准教授, 原田 俊太 助教	2	1年前期		
		結晶成長学セミナー2B	宇治原 徹 教授, 田川 美穂 准教授, 原田 俊太 助教	2	1年後期		
		結晶成長学セミナー2C	宇治原 徹 教授, 田川 美穂 准教授, 原田 俊太 助教	2	2年前期		
		結晶成長学セミナー2D	宇治原 徹 教授, 田川 美穂 准教授, 原田 俊太 助教	2	2年後期		
		結晶成長学セミナー2E	宇治原 徹 教授, 田川 美穂 准教授, 原田 俊太 助教	2	3年前期		
		材料再生プロセス工学セミナー2A	平澤 政廣 教授, 寺門 修 助教	2	1年前期		
		材料再生プロセス工学セミナー2B	平澤 政廣 教授, 寺門 修 助教	2	1年後期		
		材料再生プロセス工学セミナー2C	平澤 政廣 教授, 寺門 修 助教	2	2年前期		
		材料再生プロセス工学セミナー2D	平澤 政廣 教授, 寺門 修 助教	2	2年後期		
		材料再生プロセス工学セミナー2E	平澤 政廣 教授, 寺門 修 助教	2	3年前期		
		表面工学セミナー2A	興戸 正純 教授, 黒田 健介 准教授	2	1年前期		
		表面工学セミナー2B	興戸 正純 教授, 黒田 健介 准教授	2	1年後期		
		表面工学セミナー2C	興戸 正純 教授, 黒田 健介 准教授	2	2年前期		
		表面工学セミナー2D	興戸 正純 教授, 黒田 健介 准教授	2	2年後期		
		表面工学セミナー2E	興戸 正純 教授, 黒田 健介 准教授	2	3年前期		
		ナノ集積工学セミナー2A	入山 恭寿 教授	2	1年前期		
		ナノ集積工学セミナー2B	入山 恭寿 教授	2	1年後期		
		ナノ集積工学セミナー2C	入山 恭寿 教授	2	2年前期		
		ナノ集積工学セミナー2D	入山 恭寿 教授	2	2年後期		
		ナノ集積工学セミナー2E	入山 恭寿 教授	2	3年前期		
		材料設計工学セミナー2A	松永 真之 教授, 中村 篤智 准教授, 阿部 和明 助教	2	1年前期		
		材料設計工学セミナー2B	松永 真之 教授, 中村 篤智 准教授, 阿部 和明 助教	2	1年後期		
		材料設計工学セミナー2C	松永 真之 教授, 中村 篤智 准教授, 阿部 和明 助教	2	2年前期		
		材料設計工学セミナー2D	松永 真之 教授, 中村 篤智 准教授, 阿部 和明 助教	2	2年後期		
		材料設計工学セミナー2E	松永 真之 教授, 中村 篤智 准教授, 阿部 和明 助教	2	3年前期		
		シンクロトン光応用工学セミナー2A	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授, 山本 尚人 助教	2	1年前期		
		シンクロトン光応用工学セミナー2B	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授, 山本 尚人 助教	2	1年後期		
		シンクロトン光応用工学セミナー2C	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授, 山本 尚人 助教	2	2年前期		
		シンクロトン光応用工学セミナー2D	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授, 山本 尚人 助教	2	2年後期		
		シンクロトン光応用工学セミナー2E	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授, 山本 尚人 助教	2	3年前期		
		材料加工工学セミナー2A	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授, 阿部 英嗣 助教, 石黒 太浩 助教	2	1年前期		
		材料加工工学セミナー2B	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授, 阿部 英嗣 助教, 石黒 太浩 助教	2	1年後期		
		材料加工工学セミナー2C	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授, 阿部 英嗣 助教, 石黒 太浩 助教	2	2年前期		
		材料加工工学セミナー2D	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授, 阿部 英嗣 助教, 石黒 太浩 助教	2	2年後期		
		材料加工工学セミナー2E	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授, 阿部 英嗣 助教, 石黒 太浩 助教	2	3年前期		
		材料強度学セミナー2A	田川 哲哉 准教授	2	1年前期		
		材料強度学セミナー2B	田川 哲哉 准教授	2	1年後期		
		材料強度学セミナー2C	田川 哲哉 准教授	2	2年前期		
		材料強度学セミナー2D	田川 哲哉 准教授	2	2年後期		
		材料強度学セミナー2E	田川 哲哉 准教授	2	3年前期		
材料物理化学セミナー2A	藤澤 敏治 教授, 佐野 浩行 助教	2	1年前期				
材料物理化学セミナー2B	藤澤 敏治 教授, 佐野 浩行 助教	2	1年後期				
材料物理化学セミナー2C	藤澤 敏治 教授, 佐野 浩行 助教	2	2年前期				
材料物理化学セミナー2D	藤澤 敏治 教授, 佐野 浩行 助教	2	2年後期				
材料物理化学セミナー2E	藤澤 敏治 教授, 佐野 浩行 助教	2	3年前期				

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期		
					分野		
					材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学
主 専 攻 科 目	セ ミ ナ ー	材料開発工学セミナー2A	村田 純教 教授, 湯川 宏 助教	2	1年前期		
		材料開発工学セミナー2B	村田 純教 教授, 湯川 宏 助教	2	1年後期		
		材料開発工学セミナー2C	村田 純教 教授, 湯川 宏 助教	2	2年前期		
		材料開発工学セミナー2D	村田 純教 教授, 湯川 宏 助教	2	2年後期		
		材料開発工学セミナー2E	村田 純教 教授, 湯川 宏 助教	2	3年前期		
		材料構造制御工学セミナー2A	金武 直幸 教授, 伊藤 孝至 准教授, 小橋 真 准教授, 久米 裕二 助教	2	1年前期		
		材料構造制御工学セミナー2B	金武 直幸 教授, 伊藤 孝至 准教授, 小橋 真 准教授, 久米 裕二 助教	2	1年後期		
		材料構造制御工学セミナー2C	金武 直幸 教授, 伊藤 孝至 准教授, 小橋 真 准教授, 久米 裕二 助教	2	2年前期		
		材料構造制御工学セミナー2D	金武 直幸 教授, 伊藤 孝至 准教授, 小橋 真 准教授, 久米 裕二 助教	2	2年後期		
		材料構造制御工学セミナー2E	金武 直幸 教授, 伊藤 孝至 准教授, 小橋 真 准教授, 久米 裕二 助教	2	3年前期		
		スピ物性工学セミナー2A	浅野 秀文 教授, 植田 研二 准教授, 宮脇 哲也 助教	2	1年前期		
		スピ物性工学セミナー2B	浅野 秀文 教授, 植田 研二 准教授, 宮脇 哲也 助教	2	1年後期		
		スピ物性工学セミナー2C	浅野 秀文 教授, 植田 研二 准教授, 宮脇 哲也 助教	2	2年前期		
		スピ物性工学セミナー2D	浅野 秀文 教授, 植田 研二 准教授, 宮脇 哲也 助教	2	2年後期		
		スピ物性工学セミナー2E	浅野 秀文 教授, 植田 研二 准教授, 宮脇 哲也 助教	2	3年前期		
		環境調和型分離計測セミナー2A	松宮 弘明 准教授	2	1年前期		
		環境調和型分離計測セミナー2B	松宮 弘明 准教授	2	1年後期		
		環境調和型分離計測セミナー2C	松宮 弘明 准教授	2	2年前期		
		環境調和型分離計測セミナー2D	松宮 弘明 准教授	2	2年後期		
		環境調和型分離計測セミナー2E	松宮 弘明 准教授	2	3年前期		
		低環境負荷材料工学セミナー2A	市野 良一 教授, 神本 祐樹 助教	2	1年前期		
		低環境負荷材料工学セミナー2B	市野 良一 教授, 神本 祐樹 助教	2	1年後期		
		低環境負荷材料工学セミナー2C	市野 良一 教授, 神本 祐樹 助教	2	2年前期		
		低環境負荷材料工学セミナー2D	市野 良一 教授, 神本 祐樹 助教	2	2年後期		
		低環境負荷材料工学セミナー2E	市野 良一 教授, 神本 祐樹 助教	2	3年前期		
		材料分子科学セミナー2A	齋藤 永安 教授, 是津 信行 准教授, 上野 智永 助教	2	1年前期		
		材料分子科学セミナー2B	齋藤 永安 教授, 是津 信行 准教授, 上野 智永 助教	2	1年後期		
		材料分子科学セミナー2C	齋藤 永安 教授, 是津 信行 准教授, 上野 智永 助教	2	2年前期		
		材料分子科学セミナー2D	齋藤 永安 教授, 是津 信行 准教授, 上野 智永 助教	2	2年後期		
		材料分子科学セミナー2E	齋藤 永安 教授, 是津 信行 准教授, 上野 智永 助教	2	3年前期		
		ナノ構造評価学セミナー2A	山本 剛久 教授, 佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	1年前期		
		ナノ構造評価学セミナー2B	山本 剛久 教授, 佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	1年後期		
		ナノ構造評価学セミナー2C	山本 剛久 教授, 佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	2年前期		
		ナノ構造評価学セミナー2D	山本 剛久 教授, 佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	2年後期		
		ナノ構造評価学セミナー2E	山本 剛久 教授, 佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	3年前期		
		材料解析学セミナー2A	香田 忍 教授, 松岡 辰郎 准教授, 齋藤 徹 准教授	2	1年前期		
		材料解析学セミナー2B	香田 忍 教授, 松岡 辰郎 准教授, 齋藤 徹 准教授	2	1年後期		
		材料解析学セミナー2C	香田 忍 教授, 松岡 辰郎 准教授, 齋藤 徹 准教授	2	2年前期		
		材料解析学セミナー2D	香田 忍 教授, 松岡 辰郎 准教授, 齋藤 徹 准教授	2	2年後期		
		材料解析学セミナー2E	香田 忍 教授, 松岡 辰郎 准教授, 齋藤 徹 准教授	2	3年前期		
無機材料設計セミナー2A	薩摩 篤 教授, 北 英紀 教授, 沢 邊 恭一 講師, 棚橋 満 講師, 大山 順也 助教	2	1年前期				
無機材料設計セミナー2B	薩摩 篤 教授, 北 英紀 教授, 沢 邊 恭一 講師, 棚橋 満 講師, 大山 順也 助教	2	1年後期				
無機材料設計セミナー2C	薩摩 篤 教授, 北 英紀 教授, 沢 邊 恭一 講師, 棚橋 満 講師, 大山 順也 助教	2	2年前期				
無機材料設計セミナー2D	薩摩 篤 教授, 北 英紀 教授, 沢 邊 恭一 講師, 棚橋 満 講師, 大山 順也 助教	2	2年後期				
無機材料設計セミナー2E	薩摩 篤 教授, 北 英紀 教授, 沢 邊 恭一 講師, 棚橋 満 講師, 大山 順也 助教	2	3年前期				

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期		
					分野		
					材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学
主 専 攻 科 目	セ ミ ナ ー	物性基礎工学セミナー2A	田仲 由喜夫 教授, 佐藤昌利 准教授, 大成 誠一郎 助教	2		1年前期	
		物性基礎工学セミナー2B	田仲 由喜夫 教授, 佐藤昌利 准教授, 大成 誠一郎 助教	2		1年後期	
		物性基礎工学セミナー2C	田仲 由喜夫 教授, 佐藤昌利 准教授, 大成 誠一郎 助教	2		2年前期	
		物性基礎工学セミナー2D	田仲 由喜夫 教授, 佐藤昌利 准教授, 大成 誠一郎 助教	2		2年後期	
		物性基礎工学セミナー2E	田仲 由喜夫 教授, 佐藤昌利 准教授, 大成 誠一郎 助教	2		3年前期	
		光物理工学セミナー2A	岸田 英夫 教授, 小山 剛史 講師, 鶴沼 毅也 助教	2		1年前期	
		光物理工学セミナー2B	岸田 英夫 教授, 小山 剛史 講師, 鶴沼 毅也 助教	2		1年後期	
		光物理工学セミナー2C	岸田 英夫 教授, 小山 剛史 講師, 鶴沼 毅也 助教	2		2年前期	
		光物理工学セミナー2D	岸田 英夫 教授, 小山 剛史 講師, 鶴沼 毅也 助教	2		2年後期	
		光物理工学セミナー2E	岸田 英夫 教授, 小山 剛史 講師, 鶴沼 毅也 助教	2		3年前期	
		量子物性工学セミナー2A	黒田 新一 教授, 伊東 裕 准教授, 田中 久旻 助教	2		1年前期	
		量子物性工学セミナー2B	黒田 新一 教授, 伊東 裕 准教授, 田中 久旻 助教	2		1年後期	
		量子物性工学セミナー2C	黒田 新一 教授, 伊東 裕 准教授, 田中 久旻 助教	2		2年前期	
		量子物性工学セミナー2D	黒田 新一 教授, 伊東 裕 准教授, 田中 久旻 助教	2		2年後期	
		量子物性工学セミナー2E	黒田 新一 教授, 伊東 裕 准教授, 田中 久旻 助教	2		3年前期	
		計算数理工学セミナー2A	張 紹良 教授, 今堀 慎治 准教授, 富田 考史 助教	2		1年前期	
		計算数理工学セミナー2B	張 紹良 教授, 今堀 慎治 准教授, 富田 考史 助教	2		1年後期	
		計算数理工学セミナー2C	張 紹良 教授, 今堀 慎治 准教授, 富田 考史 助教	2		2年前期	
		計算数理工学セミナー2D	張 紹良 教授, 今堀 慎治 准教授, 富田 考史 助教	2		2年後期	
		計算数理工学セミナー2E	張 紹良 教授, 今堀 慎治 准教授, 富田 考史 助教	2		3年前期	
		構造物性工学セミナー2A	澤 博 教授, 片山 尚幸 助教	2		1年前期	
		構造物性工学セミナー2B	澤 博 教授, 片山 尚幸 助教	2		1年後期	
		構造物性工学セミナー2C	澤 博 教授, 片山 尚幸 助教	2		2年前期	
		構造物性工学セミナー2D	澤 博 教授, 片山 尚幸 助教	2		2年後期	
		構造物性工学セミナー2E	澤 博 教授, 片山 尚幸 助教	2		3年前期	
		生体物性工学セミナー2A	横山 泰範 助教	2		1年前期	
		生体物性工学セミナー2B	横山 泰範 助教	2		1年後期	
		生体物性工学セミナー2C	横山 泰範 助教	2		2年前期	
		生体物性工学セミナー2D	横山 泰範 助教	2		2年後期	
		生体物性工学セミナー2E	横山 泰範 助教	2		3年前期	
		電子物性工学セミナー2A	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2		1年前期	
		電子物性工学セミナー2B	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2		1年後期	
		電子物性工学セミナー2C	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2		2年前期	
		電子物性工学セミナー2D	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2		2年後期	
		電子物性工学セミナー2E	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2		3年前期	
		計算物性工学セミナー2A	笹井 理生 教授, 寺田 智樹 講師, 千見寺 淨慈 助教	2		1年前期	
		計算物性工学セミナー2B	笹井 理生 教授, 寺田 智樹 講師, 千見寺 淨慈 助教	2		1年後期	
		計算物性工学セミナー2C	笹井 理生 教授, 寺田 智樹 講師, 千見寺 淨慈 助教	2		2年前期	
		計算物性工学セミナー2D	笹井 理生 教授, 寺田 智樹 講師, 千見寺 淨慈 助教	2		2年後期	
		計算物性工学セミナー2E	笹井 理生 教授, 寺田 智樹 講師, 千見寺 淨慈 助教	2		3年前期	
計算流体力学セミナー2A	石井 克哉 教授, 石原 卓 准教授, 芳松 克則 助教, 岡本 直也 助教	2		1年前期			
計算流体力学セミナー2B	石井 克哉 教授, 石原 卓 准教授, 芳松 克則 助教, 岡本 直也 助教	2		1年後期			
計算流体力学セミナー2C	石井 克哉 教授, 石原 卓 准教授, 芳松 克則 助教, 岡本 直也 助教	2		2年前期			
計算流体力学セミナー2D	石井 克哉 教授, 石原 卓 准教授, 芳松 克則 助教, 岡本 直也 助教	2		2年後期			
計算流体力学セミナー2E	石井 克哉 教授, 石原 卓 准教授, 芳松 克則 助教, 岡本 直也 助教	2		3年前期			



科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期		
					分野		
					材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学
主 専 攻 科 目	セ ミ ナ ー	結晶デバイスセミナー2A	財満 顕明 教授, 中塚 理 准教授, 坂下 満男 助教, 竹内 和歌奈 助	2		1年前期	
		結晶デバイスセミナー2B	財満 顕明 教授, 中塚 理 准教授, 坂下 満男 助教, 竹内 和歌奈 助	2		1年後期	
		結晶デバイスセミナー2C	財満 顕明 教授, 中塚 理 准教授, 坂下 満男 助教, 竹内 和歌奈 助	2		2年前期	
		結晶デバイスセミナー2D	財満 顕明 教授, 中塚 理 准教授, 坂下 満男 助教, 竹内 和歌奈 助	2		2年後期	
		結晶デバイスセミナー2E	財満 顕明 教授, 中塚 理 准教授, 坂下 満男 助教, 竹内 和歌奈 助	2		3年前期	
		ナノ構造解析学セミナー2A	齋藤 弥八 教授, 安坂 幸師 講師, 中原 仁 講師	2		1年前期	
		ナノ構造解析学セミナー2B	齋藤 弥八 教授, 安坂 幸師 講師, 中原 仁 講師	2		1年後期	
		ナノ構造解析学セミナー2C	齋藤 弥八 教授, 安坂 幸師 講師, 中原 仁 講師	2		2年前期	
		ナノ構造解析学セミナー2D	齋藤 弥八 教授, 安坂 幸師 講師, 中原 仁 講師	2		2年後期	
		ナノ構造解析学セミナー2E	齋藤 弥八 教授, 安坂 幸師 講師, 中原 仁 講師	2		3年前期	
		エネルギー機能材料工学セミナー2A	長崎 正雅 教授, 柚原 淳司 准教授, 山田 智明 准教授, 吉野 正人 助教	2			1年前期
		エネルギー機能材料工学セミナー2B	長崎 正雅 教授, 柚原 淳司 准教授, 山田 智明 准教授, 吉野 正人 助教	2			1年後期
		エネルギー機能材料工学セミナー2C	長崎 正雅 教授, 柚原 淳司 准教授, 山田 智明 准教授, 吉野 正人 助教	2			2年前期
		エネルギー機能材料工学セミナー2D	長崎 正雅 教授, 柚原 淳司 准教授, 山田 智明 准教授, 吉野 正人 助教	2			2年後期
		エネルギー機能材料工学セミナー2E	長崎 正雅 教授, 柚原 淳司 准教授, 山田 智明 准教授, 吉野 正人 助教	2			3年前期
		極限環境エネルギー材料科学セミナー2A	武藤 俊介 教授, 巽 一歳 准教授, 大塚真弘 助教	2			1年前期
		極限環境エネルギー材料科学セミナー2B	武藤 俊介 教授, 巽 一歳 准教授, 大塚真弘 助教	2			1年後期
		極限環境エネルギー材料科学セミナー2C	武藤 俊介 教授, 巽 一歳 准教授, 大塚真弘 助教	2			2年前期
		極限環境エネルギー材料科学セミナー2D	武藤 俊介 教授, 巽 一歳 准教授, 大塚真弘 助教	2			2年後期
		極限環境エネルギー材料科学セミナー2E	武藤 俊介 教授, 巽 一歳 准教授, 大塚真弘 助教	2			3年前期
		中性子・原子核科学セミナー2A	瓜谷 章 教授, 渡辺 賢一 准教授, 小島 康明講師, 山崎 淳 助教	2			1年前期
		中性子・原子核科学セミナー2B	瓜谷 章 教授, 渡辺 賢一 准教授, 小島 康明講師, 山崎 淳 助教	2			1年後期
		中性子・原子核科学セミナー2C	瓜谷 章 教授, 渡辺 賢一 准教授, 小島 康明講師, 山崎 淳 助教	2			2年前期
		中性子・原子核科学セミナー2D	瓜谷 章 教授, 渡辺 賢一 准教授, 小島 康明講師, 山崎 淳 助教	2			2年後期
		中性子・原子核科学セミナー2E	瓜谷 章 教授, 渡辺 賢一 准教授, 小島 康明講師, 山崎 淳 助教	2			3年前期
		エネルギー量子制御工学セミナー2A	山本 章夫 教授, 遠藤 知弘 助教	2			1年前期
		エネルギー量子制御工学セミナー2B	山本 章夫 教授, 遠藤 知弘 助教	2			1年後期
		エネルギー量子制御工学セミナー2C	山本 章夫 教授, 遠藤 知弘 助教	2			2年前期
		エネルギー量子制御工学セミナー2D	山本 章夫 教授, 遠藤 知弘 助教	2			2年後期
		エネルギー量子制御工学セミナー2E	山本 章夫 教授, 遠藤 知弘 助教	2			3年前期
環境機能材料セミナー2A	八木 伸也 教授, 吉田 朋子 准教授	2			1年前期		
環境機能材料セミナー2B	八木 伸也 教授, 吉田 朋子 准教授	2			1年後期		
環境機能材料セミナー2C	八木 伸也 教授, 吉田 朋子 准教授	2			2年前期		
環境機能材料セミナー2D	八木 伸也 教授, 吉田 朋子 准教授	2			2年後期		
環境機能材料セミナー2E	八木 伸也 教授, 吉田 朋子 准教授	2			3年前期		

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期		
					分野		
					材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学
主 専 攻 科 目	セ ミ ナ ー	エネルギー材料プロセスセミナー2A	榎田 洋一 教授, 澤田 佳代 准教授, 杉山 貴彦 准教授, 平林 大介 助教	2			1年前期
		エネルギー材料プロセスセミナー2B	榎田 洋一 教授, 澤田 佳代 准教授, 杉山 貴彦 准教授, 平林 大介 助教	2			1年後期
		エネルギー材料プロセスセミナー2C	榎田 洋一 教授, 澤田 佳代 准教授, 杉山 貴彦 准教授, 平林 大介 助教	2			2年前期
		エネルギー材料プロセスセミナー2D	榎田 洋一 教授, 澤田 佳代 准教授, 杉山 貴彦 准教授, 平林 大介 助教	2			2年後期
		エネルギー材料プロセスセミナー2E	榎田 洋一 教授, 澤田 佳代 准教授, 杉山 貴彦 准教授, 平林 大介 助教	2			3年前期
		熱エネルギーシステム工学セミナー2A	辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授	2			1年前期
		熱エネルギーシステム工学セミナー2B	辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授	2			1年後期
		熱エネルギーシステム工学セミナー2C	辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授	2			2年前期
		熱エネルギーシステム工学セミナー2D	辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授	2			2年後期
		熱エネルギーシステム工学セミナー2E	辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授	2			3年前期
		エネルギー環境工学セミナー2A	山澤 弘実 教授, 森泉 純 准教授, 平尾 茂一 助教	2			1年前期
		エネルギー環境工学セミナー2B	山澤 弘実 教授, 森泉 純 准教授, 平尾 茂一 助教	2			1年後期
		エネルギー環境工学セミナー2C	山澤 弘実 教授, 森泉 純 准教授, 平尾 茂一 助教	2			2年前期
		エネルギー環境工学セミナー2D	山澤 弘実 教授, 森泉 純 准教授, 平尾 茂一 助教	2			2年後期
		エネルギー環境工学セミナー2E	山澤 弘実 教授, 森泉 純 准教授, 平尾 茂一 助教	2			3年前期
		エネルギー材料デバイス工学セミナー2A	藤田 隆明 教授, 庄司 多津男 准教授, 有本 英樹 助教	2			1年前期
		エネルギー材料デバイス工学セミナー2B	藤田 隆明 教授, 庄司 多津男 准教授, 有本 英樹 助教	2			1年後期
		エネルギー材料デバイス工学セミナー2C	藤田 隆明 教授, 庄司 多津男 准教授, 有本 英樹 助教	2			2年前期
		エネルギー材料デバイス工学セミナー2D	藤田 隆明 教授, 庄司 多津男 准教授, 有本 英樹 助教	2			2年後期
		エネルギー材料デバイス工学セミナー2E	藤田 隆明 教授, 庄司 多津男 准教授, 有本 英樹 助教	2			3年前期
		量子ビーム物性工学セミナー2A	曾田 一雄 教授, 加藤 政彦 助教	2			1年前期
		量子ビーム物性工学セミナー2B	曾田 一雄 教授, 加藤 政彦 助教	2			1年後期
		量子ビーム物性工学セミナー2C	曾田 一雄 教授, 加藤 政彦 助教	2			2年前期
		量子ビーム物性工学セミナー2D	曾田 一雄 教授, 加藤 政彦 助教	2			2年後期
		量子ビーム物性工学セミナー2E	曾田 一雄 教授, 加藤 政彦 助教	2			3年前期
		量子ビーム計測工学セミナー2A	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 准教授	2			1年前期
		量子ビーム計測工学セミナー2B	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 准教授	2			1年後期
		量子ビーム計測工学セミナー2C	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 准教授	2			2年前期
		量子ビーム計測工学セミナー2D	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 准教授	2			2年後期
		量子ビーム計測工学セミナー2E	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 准教授	2			3年前期
副専攻科目	セミナー 講義 実験・演習	当該専攻以外の工学研究科専攻で開講されている授業科目のうち、指導教員並びに専攻長が認めた科目					
総合工学科目	実験指導体験実習 1	次年度教務委員長	1			1年前期後期, 2年前期後期	
	実験指導体験実習 2	永野 修作 准教授	1			1年前期後期, 2年前期後期	
	研究インターンシップ 2	次年度教務委員長	2~8			1年前期後期, 2年前期後期	
他研究科等科目	本学大学院の他の研究科で開講される授業科目, 大学院共通科目, 単位互換協定による他の大学院の授業科目又は工学研究科入学時において当該学生が未履修の学問分野に関する本学学部の授業科目のうち、指導教員及び専攻長が認めた科目						
研究指導							
履修方法及び研究指導							
1. 上記の授業科目及び前期課程の授業科目(既修のものを除く)の中から8単位以上 ただし、上表の主専攻科目セミナーの中から4単位以上							
2. 研究指導については、専攻において定めるところにより、指導教員の指示によること							

## 2. マテリアル理工学専攻

### <材料工学分野>

マテリアル工学1 (2.0単位)			
科目区分	主専攻科目	基礎科目	
課程区分	前期課程		
授業形態	講義及び実験		
全専攻・分野	材料工学分野	量子エネルギー工学分野	応用物理学分野
開講時期1	1年前期	1年前期	1年前期
開講時期2	2年前期	2年前期	2年前期
教員	小橋 眞 准教授	松宮 弘明 准教授	
<p>●本講座の目的およびねらい マテリアル工学1と2では、材料工学の基礎的事柄について、いくつかのトピックスを通して、講義および演習により学ぶ。とくに、学部では材料工学以外の学科で学び、大学院で材料工学を専攻する学生にとって、この授業は、大学院において、材料工学の素養を学ぶ機会になることが期待される。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 学部において学んだ工学の各科目</p> <p>●授業内容 トピックスは前半、後半の授業開始時に紹介される</p> <p>●教科書 特に無し</p> <p>●参考書 特に無し</p> <p>●評価方法と基準 レポートまたは試験にて評価する（両方とも実施する場合もある）。 評価方法： 100点満点で60点以上が合格。 &lt;平成23年度以降入・進学者&gt; 100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：F &lt;平成22年度以前入・進学者&gt; 100～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：D</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 時間外の質問は、講義終了後、教室で受け付ける。 それ以外は、事前に担当教員にメールで時間を打ち合わせることを 松宮 弘明 (h-matsu@nunse.nagoya-u.ac.jp) 小橋 眞 (kobashi@nunse.nagoya-u.ac.jp)</p>			

マテリアル工学2 (2.0単位)			
科目区分	主専攻科目	基礎科目	
課程区分	前期課程		
授業形態	講義及び実験		
対象履修コース	材料工学分野	量子エネルギー工学分野	応用物理学分野
開講時期1	1年後期	1年後期	1年後期
開講時期2	2年後期	2年後期	2年後期
教員	橋本 浩 講師		
<p>●本講座の目的およびねらい マテリアル工学1と2では、材料工学の基礎的事柄について、いくつかのトピックスを通して、講義および演習により学ぶ。とくに、学部では材料工学以外の学科で学び、大学院で材料工学を専攻する学生にとって、この授業は、大学院において、材料工学の素養を学ぶ機会になることが期待される。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 学部において学んだ工学の各科目</p> <p>●授業内容 【薄膜プロセス】 担当 是津 薄膜材料は、単原子層から数十<math>\mu\text{m}</math>までの厚さを有する材料の一形態であり、表面保護膜、光学機能膜、磁性膜、エレクトロニクス素子等、様々な分野で広く利用されている。特に、半導体デバイス作製の分野では、薄膜を作製する技術、結晶を作製する技術の両方が不可欠で、非常に高度化されたこの二つの技術の上に、現在の情報社会、ひいては我々の生活そのものが成り立っている。 本講義では、薄膜の特殊性や必要性など一般的な特徴を概観する。熱統計力学に基づいた気体分子運動論について復習した後、乾式プロセスを中心に、薄膜作製手法、薄膜材料の諸特性を評価する為の手法について講義する。</p> <p>【微粒子の分散・凝集制御と材料プロセス】 担当 棚橋 微粒子特性の理解と制御は、材料工学分野、中でもセラミックスや複合材料といった無機系・有機系機能材料の特性解明・設計・開発において欠かすことのできないトピックスである。本講義では、界面科学やDLVO理論といった微粒子制御に不可欠な基礎理論ならびに微粒子制御の材料分野における応用事例を学習する。</p> <p>達成目標 1. 微粒子の界面科学の基礎理論を理解し、説明できる。動作原理、基本性能の関連性を深く理解し、説明できる。 2. 微粒子の分散凝集現象の基礎理論を理解し、説明できる。 3. 微粒子制御技術と材料設計・開発および材料プロセスへの応用に関して知識を広げ、応用事例を挙げて説明できる。</p> <p>●教科書 【薄膜プロセス】 Thin-Film Deposition: Principles and Practice Donald Smith (著) 出版社: McGraw-Hill Professional; 1版 (1995/3/1)</p> <p>【微粒子の分散・凝集制御と材料プロセス】 特に指定しないが、必要に応じて講義資料を適宜配布する。</p> <p>●参考書 【微粒子の分散・凝集制御と材料プロセス】 例えば、J. N. Israelachvili: Intermolecular and Surface Forces, Second Edition: With Applications to Colloidal and Biological Systems, Academic Press, 1992</p>			

マテリアル工学2 (2.0単位)	
●評価方法と基準	レポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
●履修条件・注意事項	
●質問への対応	講義終了時または時間打ち合わせの上対応 担当教員連絡先：是津 nobu@eco-t.esi.nagoya-u.ac.jp、棚橋 mtana@nunse.nagoya-u.ac.jp

物性物理のすすめ (2.0単位)			
科目区分	主専攻科目	基礎科目	
課程区分	前期課程		
授業形態	講義及び実験		
対象履修コース	材料工学分野	量子エネルギー工学分野	応用物理学分野
開講時期1	1年前期	1年前期	1年前期
開講時期2	2年前期	2年前期	2年前期
教員	黒田 新一 教授	田仲 由喜夫 教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 固体物理から 分子性物質にいたる広い意味での物性物理の素養をつける。</p> <p>1 金属、半導体、絶縁体に関する違いを説明できる。 2 固体中の電子の運動を量子力学に基づいて理解する。 3 固体、分子中の電子の運動を量子力学に基づいて理解する。 4 有機分子でつくられる半導体や金属のおもしろさに触れる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 力学 電磁気学 統計力学 量子力学などの物理の基礎知識があると望ましい。</p> <p>●授業内容 1 量子力学、固体の性質の復習 2 自由電子モデル 3 結晶中の電子 4 半導体 5 輸送現象 6 磁性の基礎 7 超伝導の基礎 8 分子と化学結合 9 分子軌道 10 高分子の分子軌道 11 分子固体の電気伝導 12 光学的性質 13 分子エレクトロニクス I 14 分子エレクトロニクス II</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 物性物理 家泰弘 産業図書</p> <p>●評価方法と基準 レポートにより評価する。 質問は授業終了後受け付ける。 平成23年度以降入学者 100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：F 平成22年度以前入学者 100～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：D</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>			

エネルギー・物質工学 (2.0単位)			
科目区分	主専攻科目	主分野科目	
課程区分	前期課程		
授業形態	講義及び演習		
対象履修コース	材料工学分野	量子エネルギー工学分野	応用物理学分野
開講時期1	1年後期	1年後期	1年後期
開講時期2	2年後期	2年後期	2年後期
教員	各教員 (材料)	各教員 (量1)	
●本講座の目的およびねらい			
「量子エネルギー工学」を特徴づける「原子力学」、「量子科学」、「エネルギー科学」の三本柱における先端的研究成果とこれを支える基盤技術の広がりを、基礎から最先端に至るまで講義することにより、本分野への新たな参画を志す若手研究者を養成することを目的とする。この講義を通して、量子エネルギー工学における応用力、創造力を身につける。			
●バックグラウンドとなる科目			
特になし			
●授業内容			
三本柱の各分野からそれぞれ一名の教員が3-4回で以下の学問領域に関わる基礎と最先端技術を講義する。1. 原子力学 \ 2. 量子科学 \ 3. エネルギー科学			
●教科書			
●参考書			
特になし			
●評価方法と基準			
課題に対するレポートあるいは試験により評価する。			
〈平成23年度以降入学者〉			
100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：F			
〈平成22年度以前入学者〉			
100～80点：優, 79～70点：良, 69～60点：可, 59点以下：不可			
●履修条件・注意事項			
●質問への対応			

エネルギー創成・貯蔵材料工学セミナー1A (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	元廣 友美 教授	
●本講座の目的およびねらい		
次世代のエネルギー創成および貯蔵に関するいくつかのトピックスにつき、その最新成果論文の輪読から始め、その歴史を辿ります。その過程で、どんなアイデアが、どのように検証されていたかを把握しながら、残された研究課題を浮き彫りにし、研究テーマの創造力を身につける。達成目標：①担当したトピックスにつき、その歴史的経緯も含めて、全体像を把握できる。②担当したトピックスの周辺で、残された研究課題を複数、リストアップできる。		
●バックグラウンドとなる科目		
半導体材料学、機能材料学、固体電子論、材料物性学		
●授業内容		
トピックス① 色素増感型太陽電池の最先端動向とその歴史的経緯② 超電導磁気エネルギー貯蔵の最先端動向とその歴史的経緯③ 太陽光励起レーザーの最先端動向とその歴史的経緯④ 核融合の最先端動向とその歴史的経緯⑤ その他、セミナー議論の中でうまれてきたトピックス		
●教科書		
教科書は指定しない。キーとなる必要な資料は、配布し、セミナーの進行にあわせて適宜、選定する。		
●参考書		
セミナーの進行に合わせ、適宜、紹介する。		
●評価方法と基準		
口頭発表 (50%) と、それに対する質疑応答 (50%) により目標達成度を評価する。		
●履修条件・注意事項		
特に無いが、本質を把握するための簡単な計算見積もりや、モデリングを行う場合があるので、パソコンをもっていることと便利。科目に捉われないフレキシブルな発想推奨		
●質問への対応		
セミナー中/終了後随時。電子メール motohiro@gvm.nagoya-u.ac.jp担当教員連絡先：内線4643 (工学部3号館南577室)		

エネルギー創成・貯蔵材料工学セミナー1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	元廣 友美 教授	
●本講座の目的およびねらい		
次世代のエネルギー創成および貯蔵に関するいくつかのトピックスにつき、その残された研究課題への取り組み方法を明確化、具体化していきます。それぞれのトピックスに固有な実験技術・手法に具体的に接していき、その応用力を身につけます。達成目標：①残された研究課題から、一つを選択し、研究の方針や具体的な方法を設定できる。②各テーマに固有の実験技術・手法を体得する。③コンパクトな研究のまとめを体験する。		
●バックグラウンドとなる科目		
半導体材料学、機能材料学、固体電子論、材料物性学		
●授業内容		
トピックス		
① 色素増感型太陽電池周辺の研究課題と、研究方法		
② 超電導磁気エネルギー貯蔵の研究課題と、研究方法		
③ 太陽光励起レーザーの研究課題と、研究方法。		
④ 核融合関連の研究課題と、研究方法。		
⑤ その他、セミナー議論の中でうまれてきた研究課題と、研究方法。		
●教科書		
教科書は指定しない。キーとなる必要な資料は、配布し、セミナーの進行にあわせて適宜、選定する。		
●参考書		
セミナーの進行に合わせ、適宜、紹介する。固有の実験手法につき、外部機関、講師と交流して、体得する。		
●評価方法と基準		
口頭発表 (50%) と、それに対する質疑応答 (50%) により目標達成度を評価する。全体で60%以上のポイント単位認定の基準とする。		
●履修条件・注意事項		
特に無いが、本質を把握するための簡単な計算見積もりや、モデリングを行う場合があるので、パソコンをもっていることと便利。科目に捉われないフレキシブルな発想推奨。		
●質問への対応		
セミナー中/終了後随時。電子メール motohiro@gvm.nagoya-u.ac.jp担当教員連絡先：内線4643 (工学部3号館南577室)		

エネルギー創成・貯蔵材料工学セミナー1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	元廣 友美 教授	
●本講座の目的およびねらい		
次世代のエネルギー創成および貯蔵に関するいくつかのトピックスにつき、その残された研究課題への取り組み方法を具体化していく過程で、輪読を通じ、課題の把握を深化させる。具体的、実験結果に基づき、議論を通じて理解を深める、研究に対する総合力を強化する。		
達成目標：		
①選択した研究課題について、研究経験を頼らうえ、研究成果をイメージできる。		
②外部機関も含め、複数の研究手法を体験する。		
●バックグラウンドとなる科目		
半導体材料学、機能材料学、固体電子論、材料物性学		
●授業内容		
トピックス例		
① 色素増感型太陽電池周辺課題の研究推進。		
② 超電導磁気エネルギー貯蔵周辺課題の研究推進		
③ 太陽光励起レーザー周辺課題の研究推進。		
④ 核融合関連の研究課題の研究推進。		
⑤ その他、セミナー議論の中でうまれてきた研究課題の研究推進。		
●教科書		
教科書は指定しない。キーとなる必要な資料は、配布し、セミナーの進行にあわせて適宜、選定する。		
●参考書		
セミナーの進行に合わせ、適宜、紹介する。固有の実験手法につき、外部機関、講師と交流して、体得する。		
●評価方法と基準		
口頭発表 (50%) と、それに対する質疑応答 (50%) により目標達成度を評価する。		
●履修条件・注意事項		
特に無いが、本質を把握するための簡単な計算見積もりや、モデリングを行う場合があるので、パソコンをもっていることと便利。科目に捉われないフレキシブルな発想推奨		
●質問への対応		
セミナー中/終了後随時。電子メール motohiro@gvm.nagoya-u.ac.jp担当教員連絡先：内線4643 (工学部3号館南577室)		

**エネルギー創成・貯蔵材料工学セミナー1D (2.0単位)**

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	元廣 友美 教授	

●本講座の目的およびねらい  
次世代のエネルギー創成および貯蔵に関するいくつかのトピックスにつき、その残された研究課題への取り組みを進める過程で、輪講を通じ、課題の把握を深化させる。具体的、実験結果に基づき、研究をまとめるための議論をする。また、その研究体験を足場に、今後の展開を見据えた応用力を身に付ける。  
達成目標：研究の背景、動機、着目点（新規性）、方法、結果、結論、今後の展望を10分で説明できる。

●バックグラウンドとなる科目  
半導体材料科学、機能材料科学、固体電子論、材料物理学

●授業内容  
トピックス例  
① 色素増感型太陽電池周辺課題の研究推進・まとめ。  
② 超電導磁気エネルギー貯蔵周辺課題の研究推進・まとめ  
③ 太陽光励起レーザー周辺課題の研究推進・まとめ。  
④ 核融合関連の研究課題の研究推進・まとめ。  
⑤ その他、セミナー議論の中でうまれてきた研究課題の研究推進・まとめ。

●教科書  
教科書は指定しない。キーとなる必要な資料は、配布し、セミナーの進行にあわせて適宜、選定する。

●参考書  
セミナーの進行に合わせて、適宜、紹介する。固有の実験手法につき、外部機関、講師と交流して、体得する。

●評価方法と基準  
口頭発表（50%）と、それに対する質疑応答（50%）により目標達成度を評価する。

●履修条件・注意事項  
特に無いが、本質を把握するための簡単な計算見積りや、モデリングを行う場合があるので、パソコンをもってると便利。科目に捉われないフレキシブルな発想推奨

●質問への対応  
セミナー中/終了後随時。電子メール motohiro@gvn.nagoya-u.ac.jp  
担当教員連絡先：内線4643（工学部3号館南577室）

**高圧力物質科学セミナー1A (2.0単位)**

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	結晶材料工学専攻
開講時期1	1年前期	1年前期
教員	長谷川 正 教授	丹羽 健 助教

●本講座の目的およびねらい  
高圧高温合成・育成プロセスに関わる研究動向と各自の研究進捗状況について発表、討論して理解を深め、関連分野の動向について分析するとともに独創的な研究の進め方を習得する。

●バックグラウンドとなる科目  
結晶物理学、移動現象論、材料物理化学、統計力学A、無機化学、材料力学、材料物理学、プロセス数学・数値解析学、材料物性学、分析化学第2、材料設計学、材料強度学、相変換工学、セラミック材料科学、光機能材料科学、電子材料科学、薄膜・結晶成長論、有機材料科学

●授業内容  
1. 高圧高温発生に関わる原理と技術および装置 2. 高圧高温材料合成および単結晶育成 \ 3. 高圧下および高圧高温下での構造および特性の評価技術と装置および解析方法 \ 4. 高圧高温下での現象と相安定性

●教科書  
使用しない

●参考書

●評価方法と基準  
口頭発表と質疑応答

●履修条件・注意事項

●質問への対応

**高圧力物質科学セミナー1B (2.0単位)**

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	結晶材料工学専攻
開講時期1	1年後期	1年前期
教員	長谷川 正 教授	丹羽 健 助教

●本講座の目的およびねらい  
高圧高温合成・育成プロセスに関わる研究動向と各自の研究進捗状況について発表、討論して理解を深め、関連分野の動向について分析するとともに独創的な研究の進め方を習得する。

●バックグラウンドとなる科目  
結晶物理学、移動現象論、材料物理化学、統計力学A、無機化学、材料力学、材料物理学、プロセス数学・数値解析学、材料物性学、分析化学第2、材料設計学、材料強度学、相変換工学、セラミック材料科学、光機能材料科学、電子材料科学、薄膜・結晶成長論、有機材料科学

●授業内容  
1. 高圧高温発生に関わる原理と技術および装置; 2. 高圧高温材料合成および単結晶育成; 3. 高圧下および高圧高温下での構造および特性の評価技術と装置および解析方法; 4. 高圧高温下での現象と相安定性

●教科書  
使用しない

●参考書

●評価方法と基準  
口頭発表と質疑応答

●履修条件・注意事項

●質問への対応

**高圧力物質科学セミナー1C (2.0単位)**

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	結晶材料工学専攻
開講時期1	2年前期	2年前期
教員	長谷川 正 教授	丹羽 健 助教

●本講座の目的およびねらい  
高圧高温合成・育成プロセスに関わる研究動向と各自の研究進捗状況について発表、討論して理解を深め、関連分野の動向について分析するとともに独創的な研究の進め方を習得する。

●バックグラウンドとなる科目  
結晶物理学、移動現象論、材料物理化学、統計力学A、無機化学、材料力学、材料物理学、プロセス数学・数値解析学、材料物性学、分析化学第2、材料設計学、材料強度学、相変換工学、セラミック材料科学、光機能材料科学、電子材料科学、薄膜・結晶成長論、有機材料科学

●授業内容  
1. 高圧高温発生に関わる原理と技術および装置; 2. 高圧高温材料合成および単結晶育成; 3. 高圧下および高圧高温下での構造および特性の評価技術と装置および解析方法; 4. 高圧高温下での現象と相安定性

●教科書  
使用しない

●参考書

●評価方法と基準  
口頭発表と質疑応答

●履修条件・注意事項

●質問への対応

高圧力物質科学セミナー1D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	結晶材料工学専攻
開講時期1	2年後期	2年後期
教員	長谷川 正 教授	丹羽 健 助教

- 本講座の目的およびねらい  
高圧高温合成・育成プロセスに関わる研究動向と各自の研究進捗状況について発表、討論して理解を深め、関連分野の動向について分析するとともに独創的な研究の進め方を習得する。
- バックグラウンドとなる科目  
結晶物理学、移動現象論、材料物理化学、統計学A、無機化学、材料力学、材料物理学、プロセス数学・数値解析学、材料物性学、分析化学第2、材料設計学、材料強度学、相変換工学、セラミック材料学、光機能材料学、電子材料学、薄膜・結晶成長論、有機材料学
- 授業内容  
1. 高圧高温発生に関わる原理と技術および装置:2. 高圧高温材料合成および単結晶育成:3. 高圧下および高圧高温下での構造および特性の評価技術と装置および解析方法:4. 高圧高温下での現象と相安定性
- 教科書  
使用しない
- 参考書  
特になし
- 評価方法と基準  
口頭発表と質疑応答
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

結晶成長学セミナー1A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	宇治原 徹 教授	田川 美穂 准教授 原田 俊太 助教

- 本講座の目的およびねらい  
多くの材料創成において結晶成長が活用されている。本セミナーでは、各種材料における結晶成長を学習する。また、結晶成長を駆使するには、成長装置の革新と、最新評価技術が必須である。本セミナーでは、結晶成長装置の基本と、応用として結晶評価技術の習得も併せて行う。  
(1) さまざまな結晶成長技術を理解する。(2) 結晶評価技術を理解する。
- バックグラウンドとなる科目  
相変換工学、材料物理化学、材料物理学、移動現象論、結晶物理学、数学2及び演習
- 授業内容  
1. 溶液成長に関する成長技術 2. 融液成長に関する成長技術 3. 気相成長に関する成長技術 4. 結晶成長装置 5. 結晶評価技術
- 教科書  
配布
- 参考書  
特になし
- 評価方法と基準  
レポート100%で評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

結晶成長学セミナー1B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	宇治原 徹 教授	田川 美穂 准教授 原田 俊太 助教

- 本講座の目的およびねらい  
多くの材料創成において結晶成長が活用されている。本セミナーでは、各種材料における結晶成長を学習する。また、結晶成長を駆使するには、成長装置の革新と、最新評価技術が必須である。本セミナーでは、結晶成長装置の基本と、応用として結晶評価技術の習得も併せて行う。  
(1) さまざまな結晶成長技術を理解する。(2) 結晶評価技術を理解する。
- バックグラウンドとなる科目  
相変換工学、材料物理化学、材料物理学、移動現象論、結晶物理学、数学2及び演習
- 授業内容  
1. 溶液成長に関する成長技術 2. 融液成長に関する成長技術 3. 気相成長に関する成長技術 4. 結晶成長装置 5. 結晶評価技術
- 教科書  
配布
- 参考書  
特になし
- 評価方法と基準  
レポート100%で評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

結晶成長学セミナー1C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	宇治原 徹 教授	田川 美穂 准教授 原田 俊太 助教

- 本講座の目的およびねらい  
多くの材料創成において結晶成長が活用されている。本セミナーでは、各種材料における結晶成長を学習する。また、結晶成長を駆使するには、成長装置の革新と、最新評価技術が必須である。本セミナーでは、結晶成長装置の基本と、応用として結晶評価技術の習得も併せて行う。  
(1) さまざまな結晶成長技術を理解する。(2) 結晶評価技術を理解する。
- バックグラウンドとなる科目  
相変換工学、材料物理化学、材料物理学、移動現象論、結晶物理学、数学2及び演習
- 授業内容  
1. 溶液成長に関する成長技術 2. 融液成長に関する成長技術 3. 気相成長に関する成長技術 4. 結晶成長装置 5. 結晶評価技術
- 教科書  
配布
- 参考書  
特になし
- 評価方法と基準  
レポート100%で評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

結晶成長学セミナー1D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年後期
教員	宇治原 徹 教授 田川 美穂 准教授 原田 俊太 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 多くの材料創成において結晶成長が活用されている。本セミナーでは、各種材料における結晶成長を学習する。また、結晶成長を駆使するには、成長装置の革新と、最新評価技術が必須である。本セミナーでは、結晶成長装置の基本と、応用として結晶評価技術の習得も併せて行う。 (1) さまざまな結晶成長技術を理解する。(2) 結晶評価技術を理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 相変換工学、材料物理化学、材料物理学、移動現象論、結晶物理学、数学2及び演習</p> <p>●授業内容 1. 溶液成長に関する成長技術 2. 融液成長に関する成長技術 3. 気相成長に関する成長技術 4. 結晶成長装置 5. 結晶評価技術</p> <p>●教科書 配布</p> <p>●参考書 特になし</p> <p>●評価方法と基準 レポート100%で評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応</p>	

材料再生プロセス工学セミナー 1A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年前期
教員	平澤 政廣 教授 寺門 修助教
<p>●本講座の目的およびねらい 材料再生プロセスに関する文献を輪読し、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方、研究方法などについて習得するとともに、関連分野の研究動向について調査し、理解を深める。達成目標：1. いくつかの廃棄物の材料再生プロセスの原理について説明できる。2. 材料再生プロセスの背景にある反応工学とプロセス工学の基礎について理解し、説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 化学基礎1・11、無機化学、物理化学、材料物理化学、応用熱力学、移動現象論、金属反応論、素材プロセス工学第1・第2</p> <p>●授業内容 主として、以下の分野に関する材料再生プロセスにかかわる文献の講読を行う。1. プラスチックのリサイクル2. 金属・無機素材のリサイクル3. バイオマス、高分子の分解反応4. 各種廃棄物処理プロセス5. 反応工学の基礎分野</p> <p>●教科書 教科書は特に定めない。輪読する文献は、セミナーの進行に合わせて適宜選択する。適宜、プリントを配布する。</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 口頭発表(50%)とそれに対する質疑応答(50%)により目標達成度を評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 質問への対応：セミナー時に対応する。</p>	

材料再生プロセス工学セミナー 1B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年後期
教員	平澤 政廣 教授 寺門 修助教
<p>●本講座の目的およびねらい 材料再生プロセスに関連する最近の研究および諸問題をプロセス工学の立場から取り上げ、輪読演習を行うことにより、最新の研究動向を把握するとともに、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方、研究方法などについて習得し、修士論文テーマの位置づけを明確にする。達成目標：1. 修士論文のテーマと関わる材料再生プロセスの原理について説明できる。2. 反応工学とプロセス工学の基礎について理解し、材料再生プロセスの基本的な設計に活用できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 化学基礎1・11、無機化学、物理化学、材料物理化学、応用熱力学、移動現象論、金属反応論、素材プロセス工学第1・第2</p> <p>●授業内容 主として、受講生の修士論文テーマに関する以下の分野に関する材料再生プロセスにかかわる研究論文の講読を行う。1. プラスチックの分解反応2. 製・精練ダストのリサイクルプロセス3. 木質バイオマスの分解反応4. 各種廃棄物処理プロセス</p> <p>●教科書 教科書は特に定めない。輪読する文献は、セミナーの進行に合わせて適宜選択する。適宜、プリントを配布する。</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 口頭発表(50%)とそれに対する質疑応答(50%)により目標達成度を評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 質問への対応：セミナー時に対応する。</p>	

材料再生プロセス工学セミナー 1C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年前期
教員	平澤 政廣 教授 寺門 修助教
<p>●本講座の目的およびねらい 材料再生プロセスに関連する最近の研究および諸問題をプロセス工学の立場から取り上げ、輪読演習を行うことにより、最新の研究動向を把握するとともに、修士論文の完成に向けての議論をする。達成目標：1. 種々の材料再生プロセスの原理と実際の応用について説明できる。2. 反応工学とプロセス工学の基礎について理解し、材料再生プロセスの基本的な設計と解析に活用できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 化学基礎1・11、無機化学、物理化学、材料物理化学、応用熱力学、移動現象論、金属反応論、素材プロセス工学第1・第2</p> <p>●授業内容 主として、受講生の修士論文テーマに関する以下の分野に関する材料再生プロセスにかかわる研究論文の講読を行う。1. プラスチックの分解反応2. 製・精練ダストのリサイクルプロセス3. 木質バイオマスの分解反応4. 各種廃棄物処理プロセス5. 有機、無機材料製造プロセス</p> <p>●教科書 教科書は特に定めない。輪読する文献は、セミナーの進行に合わせて適宜選択する。適宜、プリントを配布する。</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 口頭発表(50%)とそれに対する質疑応答(50%)により目標達成度を評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 質問への対応：セミナー時に対応する。</p>	

材料再生プロセス工学セミナー 1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	平澤 政廣 教授 寺門 修 助教	
<p>●本講座の目的およびねらい 材料再生プロセスに関連する最近の研究および諸問題をプロセス工学の立場から取り上げ、輪読演習を行うことにより、最新の研究動向を把握するとともに、修士論文の位置づけを明確にする。また、修士論文のテーマに沿った実験研究の計画および結果に基づき、論文の完成に向けての議論をする。：達成目標：：1. 種々の材料再生プロセスの原理と実際の応用について説明できる。：2. 反応工学とプロセス工学の基礎に基づき、研究結果の解析ができる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 化学基礎1・11、無機化学、物理化学、材料物理化学、応用熱力学、移動現象論、金属反応論、素材プロセス工学第1・第2</p> <p>●授業内容 主として、受講生の修士論文テーマに関する以下の分野に関する材料再生プロセスにかかわる研究論文の講読を行う。：1. プラスチックの分解反応：2. 製・精錬ダストのリサイクルプロセス：3. 木質バイオマスの分解反応：4. 各種廃棄物処理プロセス：5. 有機、無機材料製造プロセス</p> <p>●教科書 教科書は特に定めない。：輪読する文献は、セミナーの進行に合わせて適宜選択する。：適宜、プリントを配布する。</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 口頭発表(50%)とそれに対する質疑応答(50%)により目標達成度を評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 質問への対応：セミナー時に対応する。</p>		

表界面工学セミナー1 A (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	興戸 正純 教授 黒田 健介 准教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 表界面工学に関するテキストにより基礎を理解するとともに、最近の研究論文の輪読を行い、下記の課題についての知識を養う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 物理化学、材料物理化学、表面物理化学、素材プロセス工学第2</p> <p>●授業内容 水溶液からの機能性薄膜電析 湿式法による人工資源分離プロセス \ 金属材料の腐食反応機構と腐食抑制 \ 溶融塩からの電析プロセス \ 機能表面の電気化学計測法 \ 水素吸蔵材料の電気化学的特性 \ 化成処理</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書 Modern Electrochemistry 1&amp;amp;2 (J.Bockris)</p> <p>●評価方法と基準 レポートあるいは口述試験</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

表界面工学セミナー1 B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	興戸 正純 教授 黒田 健介 准教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 表界面工学に関するテキストにより基礎を理解するとともに、最近の研究論文の輪読を行い、下記の課題についての知識を養う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 物理化学、材料物理化学、表面物理化学、素材プロセス工学第2</p> <p>●授業内容 水溶液からの機能性薄膜電析 湿式法による人工資源分離プロセス \ 金属材料の腐食反応機構と腐食抑制 \ 溶融塩からの電析プロセス \ 機能表面の電気化学計測法 \ 水素吸蔵材料の電気化学的特性 \ 化成処理</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書 Modern Electrochemistry 1&amp;amp;2 (J.Bockris)</p> <p>●評価方法と基準 レポートあるいは口述試験</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

表界面工学セミナー1 C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	興戸 正純 教授 黒田 健介 准教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 表界面工学に関連する各研究テーマに沿った議論を行うことによって、論文を完成させる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 物理化学、材料物理化学、表面物理化学、素材プロセス工学第2</p> <p>●授業内容 金属材料の腐食反応機構と腐食抑制 水溶液からの機能性薄膜電析 \ 溶融塩からの電析プロセス \ 表面改質法 \ 機能表面の電気化学計測法</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書 Modern Electrochemistry 1&amp;amp;2 (J.Bockris)</p> <p>●評価方法と基準 レポートあるいは口述試験</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		



表面工学セミナー1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	興戸 正純 教授	黒田 健介 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 表面工学に関連する各研究テーマに沿った議論を行うことによって、論文を完成させる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 物理化学, 材料物理化学, 表面物理化学, 素材プロセス工学第2</p> <p>●授業内容 金属材料の腐食反応機構と腐食抑制 水溶液からの機能性薄膜電析 \ 熔融塩からの電析プロセス \ 表面改質法 \ 機能表面の電気化学計測法</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書 Modern Electrochemistry 1&amp;amp;2 (J.Bockris)</p> <p>●評価方法と基準 レポートあるいは口述試験</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

ナノ集積工学セミナー1A (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	入山 恭寿 教授	
<p>●本講座の目的およびねらい ナノ集積工学に関連する文献を輪講し、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方、研究方法などについて習得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 統計力学A、量子力学A、表面物理化学、材料物性学、半導体材料学、材料プロセス計測工学、薄膜・結晶成長論</p> <p>●授業内容 センシングの基礎と応用</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポートおよび口頭試験</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 授業中</p>		

ナノ集積工学セミナー1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	入山 恭寿 教授	
<p>●本講座の目的およびねらい ナノ集積工学に関連する文献を輪講し、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方、研究方法などについて習得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 統計力学A、量子力学A、表面物理化学、材料物性学、半導体材料学、材料プロセス計測工学、薄膜・結晶成長論</p> <p>●授業内容 固体電気化学及び薄膜材料の基礎と応用</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポートおよび口頭試験</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

ナノ集積工学セミナー1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	入山 恭寿 教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 蓄電池のナノ集積工学に関連する文献を輪講し、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方、研究方法などについて習得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 統計力学A、量子力学A、表面物理化学、材料物性学、半導体材料学、材料プロセス計測工学、薄膜・結晶成長論、電気化学</p> <p>●授業内容 薄膜材料の合成・評価 と 電気化学的計測手法</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポートおよび口頭試験</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

ナノ集積工学セミナー1D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年後期
教員	入山 恭寿 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 蓄電池のナノ集積工学に関連する文献を輪読し、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方、研究方法などについて習得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 統計力学A、量子力学A、表面物理化学、材料物性学、半導体材料学、材料プロセス計測工学、薄膜・結晶成長論、電気化学</p> <p>●授業内容 交流インピーダンス法を用いた電気化学計測の基礎と等価回路による解析</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポートおよび口頭試問</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

材料設計工学セミナー1A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年前期
教員	松永 克志 教授 中村 篤智 准教授 阿部 真之 准教授 豊浦 和明 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 電子状態理論や計算材料設計に関する文献の輪読を行い、研究に必要な基礎力の養成するとともに最新の研究動向を理解する。さらに材料設計工学に関する研究発表を行い討論することで、研究遂行のための応用力を習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子力学1、量子力学2、固体電子論、量子化学、無機化学、セラミックス材料学、半導体材料学、化学熱力学1、化学熱力学2</p> <p>●授業内容 ・結晶のバンド構造 ・格子欠陥の原子・電子構造 ・バンド計算手法 ・材料科学へ応用するための解析手法</p> <p>●教科書 特に指定しない。 セミナー中に必要に応じて、適切な資料・文献を指示する。</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 自らの研究発表に際しては十分に準備をすること。また、適宜文献を読むなどして、幅広い学習を心がけること。</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応する。</p>	

材料設計工学セミナー1B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年後期
教員	松永 克志 教授 中村 篤智 准教授 阿部 真之 准教授 豊浦 和明 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 電子状態理論や計算材料設計に関する文献の輪読を行い、研究に必要な基礎力の養成するとともに最新の研究動向を理解する。さらに材料設計工学に関する研究発表を行い討論することで、研究遂行のための応用力を習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子力学1、量子力学2、固体電子論、量子化学、無機化学、セラミックス材料学、半導体材料学、化学熱力学1、化学熱力学2</p> <p>●授業内容 ・結晶のバンド構造・格子欠陥の原子・電子構造・バンド計算手法・材料科学へ応用するための解析手法</p> <p>●教科書 特に指定しない。セミナー中に必要に応じて、適切な資料・文献を指示する。</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 自らの研究発表に際しては十分に準備をすること。また、適宜文献を読むなどして、幅広い学習を心がけること。</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応する。</p>	

材料設計工学セミナー1C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年前期
教員	松永 克志 教授 中村 篤智 准教授 阿部 真之 准教授 豊浦 和明 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 電子状態理論や計算材料設計に関する文献の輪読を行い、研究に必要な基礎力の養成するとともに最新の研究動向を理解する。さらに材料設計工学に関する研究発表を行い討論することで、研究遂行のための応用力を習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子力学1、量子力学2、固体電子論、量子化学、無機化学、セラミックス材料学、半導体材料学、化学熱力学1、化学熱力学2</p> <p>●授業内容 ・結晶のバンド構造・格子欠陥の原子・電子構造・バンド計算手法・材料科学へ応用するための解析手法</p> <p>●教科書 特に指定しない。セミナー中に必要に応じて、適切な資料・文献を指示する。</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 自らの研究発表に際しては十分に準備をすること。また、適宜文献を読むなどして、幅広い学習を心がけること。</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応する。</p>	

**材料設計工学セミナー1D (2.0単位)**

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	松永 克志 教授	中村 篤智 准教授 阿部 真之 准教授 松浦 和明 助教

●本講座の目的およびねらい  
電子状態理論や計算材料設計に関する文献の輪読を行い、研究に必要な基礎力の養成するとともに最新の研究動向を理解する。さらに材料設計工学に関する研究発表を行い討論することで、研究遂行のための応用力を習得する。

●バックグラウンドとなる科目  
量子力学1, 量子力学2, 固体電子論, 量子化学, 無機化学, セラミックス材料学, 半導体材料学, 化学熱力学1, 化学熱力学2

●授業内容  
・結晶のバンド構造・格子欠陥の原子・電子構造・バンド計算手法・材料科学へ応用するための解析手法

●教科書  
特に指定しない。セミナー中に必要に応じて、適切な資料・文献を指示する。

●参考書

●評価方法と基準  
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項  
自らの研究発表に際しては十分に準備をすること。また、適宜文献を読むなどして、幅広い学習を心がけること。

●質問への対応  
セミナー時に対応する。

**シンクロトロン光応用工学セミナー1A (2.0単位)**

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	高崎 圭史 教授	伊藤 孝寛 准教授 山本 尚人 助教

●本講座の目的およびねらい  
[加速器科学研究分野]  
シンクロトロン光源としての電子加速器と、そこから発生する光の基礎的性質を理解するために必要な教科書・文献を輪読・発表する。(達成目標)：1. 粒子加速器の種類と基礎的な原理を理解する。：2. 電子蓄積リングにおける電子ビームの振る舞いを理解する。：3. 電子蓄積リングから発生する光の性質について理解する。

[物性研究分野]  
シンクロトロン光を初めとする光を利用した電子分光により、材料における電子状態と物性の関わりを総合的に理解するために必要な教科書・文献を輪読・発表する。(達成目標)：1. 電子分光の基礎的な原理を理解する。：2. 材料の電子状態、特にバンド構造およびフェルミ面と材料の性質の関係を理解する。3. シンクロトロン光を用いた電子分光による材料分析の特徴と利用手法について理解する。

●バックグラウンドとなる科目  
力学1、II、電磁気学1、II、量子力学、固体物理学

●授業内容  
[加速器科学研究分野]  
1. 特殊相対性理論：2. 加速器物理学：3. 電磁波の発生

[物性研究分野]  
1. 材料物性；2. シンクロトロン光応用工学

●教科書  
輪読する教科書については、適宜選定する。

●参考書  
必要に応じてセミナーで紹介する。

●評価方法と基準  
口頭発表、質疑応答、レポートを総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを得た学生に単位を認定する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
質問への対応：電話あるいは電子メール  
連絡先：[加速器科学研究分野]内線5687 takasina@nunse.nagoya-u.ac.jp；[物性研究分野]内線5347 t.ito@nunse.nagoya-u.ac.jp

**シンクロトロン光応用工学セミナー1B (2.0単位)**

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	高崎 圭史 教授	伊藤 孝寛 准教授 山本 尚人 助教

●本講座の目的およびねらい  
[加速器科学研究分野]  
シンクロトロン光源としての電子加速器と、そこから発生する光の基礎的性質を理解するために必要な教科書・文献を輪読・発表する。(達成目標)：1. 粒子加速器の種類と基礎的な原理を理解する。：2. 電子蓄積リングにおける電子ビームの振る舞いを理解する。：3. 電子蓄積リングから発生する光の性質について理解する。

[物性研究分野]  
シンクロトロン光を初めとする光を利用した電子分光により、材料における電子状態と物性の関わりを総合的に理解するために必要な教科書・文献を輪読・発表する。(達成目標)：1. 電子分光の基礎的な原理を理解する。：2. 材料の電子状態、特にバンド構造およびフェルミ面と材料の性質の関係を理解する。3. シンクロトロン光を用いた電子分光による材料分析の特徴と利用手法について理解する。

●バックグラウンドとなる科目  
力学1、II、電磁気学1、II、量子力学、固体物理学

●授業内容  
[加速器科学研究分野]  
1. 特殊相対性理論：2. 加速器物理学：3. 電磁波の発生

[物性研究分野]  
1. 材料物性；2. シンクロトロン光応用工学

●教科書  
輪読する教科書については、適宜選定する。

●参考書  
必要に応じてセミナーで紹介する。

●評価方法と基準  
口頭発表、質疑応答、レポートを総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを得た学生に単位を認定する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
質問への対応：電話あるいは電子メール  
連絡先：[加速器科学研究分野]内線5687 takasina@nunse.nagoya-u.ac.jp；[物性研究分野]内線5347 t.ito@nunse.nagoya-u.ac.jp

**シンクロトロン光応用工学セミナー1C (2.0単位)**

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	高崎 圭史 教授	伊藤 孝寛 准教授 山本 尚人 助教

●本講座の目的およびねらい  
[加速器科学研究分野]  
シンクロトロン光源としての電子加速器と、そこから発生する光の基礎的性質を理解するために必要な教科書・文献を輪読・発表する。(達成目標)：1. 粒子加速器の種類と基礎的な原理を理解する。：2. 電子蓄積リングにおける電子ビームの振る舞いを理解する。：3. 電子蓄積リングから発生する光の性質について理解する。

[物性研究分野]  
シンクロトロン光を初めとする光を利用した電子分光により、材料における電子状態と物性の関わりを総合的に理解するために必要な教科書・文献を輪読・発表する。(達成目標)：1. 電子分光の基礎的な原理を理解する。：2. 材料の電子状態、特にバンド構造およびフェルミ面と材料の性質の関係を理解する。3. シンクロトロン光を用いた電子分光による材料分析の特徴と利用手法について理解する。

●バックグラウンドとなる科目  
力学1、II、電磁気学1、II、量子力学、固体物理学

●授業内容  
[加速器科学研究分野]  
1. 特殊相対性理論：2. 加速器物理学：3. 電磁波の発生

[物性研究分野]  
1. 材料物性；2. シンクロトロン光応用工学

●教科書  
輪読する教科書については、適宜選定する。

●参考書  
必要に応じてセミナーで紹介する。

●評価方法と基準  
口頭発表、質疑応答、レポートを総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを得た学生に単位を認定する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
質問への対応：電話あるいは電子メール  
連絡先：[加速器科学研究分野]内線5687 takasina@nunse.nagoya-u.ac.jp；[物性研究分野]内線5347 t.ito@nunse.nagoya-u.ac.jp

シンクロトロン光応用工学セミナー1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	高崎 圭史 教授 伊藤 孝寛 准教授 山本 尚人 助教	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>[加速器科学研究分野]</p> <p>シンクロトロン光源としての電子加速器と、そこから発生する光の基礎的性質を理解するために必要な教科書・文献を輪読・発表する。(達成目標): 1. 粒子加速器の種類と基礎的な原理を理解する。: 2. 電子蓄積リングにおける電子ビームの振る舞いを理解する。: 3. 電子蓄積リングから発生する光の性質について理解する。</p> <p>[物性研究分野]</p> <p>シンクロトロン光を初めとする光を利用した電子分光により、材料における電子状態と物性の関わりを総合的に理解するために必要な教科書・文献を輪読・発表する。(達成目標): 1. 電子分光の基礎的な原理を理解する。: 2. 材料の電子状態、特にバンド構造およびフェルミ面と材料の性質の関係を理解する。 3. シンクロトロン光を用いた電子分光による材料分析の特徴と利用手法について理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>力学I、II、電磁気学I、II、量子力学、固体物理学</p> <p>●授業内容</p> <p>[加速器科学研究分野]</p> <p>1. 特殊相対性理論: 2. 加速器物理学: 3. 電磁波の発生</p> <p>[物性研究分野]</p> <p>1. 材料物性: 2. シンクロトロン光応用工学</p> <p>●教科書</p> <p>輪読する教科書については、適宜選定する。</p> <p>●参考書</p> <p>必要に応じてセミナーで紹介する。</p> <p>●評価方法と基準</p> <p>口頭発表、質疑応答、レポートを総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを得た学生に単位を認定する。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> <p>質問への対応: 電話あるいは電子メール 連絡先: [加速器科学研究分野]内線5687 takasima@nuase.nagoya-u.ac.jp: [物性研究分野]内線5347 t.ito@nuase.nagoya-u.ac.jp</p>		

材料加工工学セミナー1A (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	石川 孝司 教授 湯川 伸樹 准教授 阿部 英嗣 助教 石黒 太浩 助教	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>材料塑性加工に関する最近の研究および技術上の諸問題について、国内外の研究論文を輪読して、理解を深めるとともに、研究の進め方、まとめ方、発表方法等について学ぶ、塑性加工のための材料選択、工程設計、条件最適化について基礎力、応用力を養う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>材料力学、構造材料学、材料塑性加工学</p> <p>●授業内容</p> <p>連続体の塑性、加工材の性質、塑性流れの不安定、加工限界、各種加工法、net shape 加工、CAD/CAM/CAEの適用例、FEMの適用例、新しい数値モデリング</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>塑性加工: 鈴木弘, 裳華房: Metal Forming and the Finite-Element Method: S. Kobayashi et al, Oxford Univ. Press</p> <p>●評価方法と基準</p> <p>レポート、プレゼン</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

材料加工工学セミナー1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	石川 孝司 教授 湯川 伸樹 准教授 阿部 英嗣 助教 石黒 太浩 助教	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>材料塑性加工に関する最近の研究および技術上の諸問題について、国内外の研究論文を輪読して、理解を深めるとともに、研究の進め方、まとめ方、発表方法等について学ぶ、塑性加工のための材料選択、工程設計、条件最適化について基礎力、応用力を養う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>材料力学、構造材料学、材料塑性加工学</p> <p>●授業内容</p> <p>連続体の塑性、加工材の性質、塑性流れの不安定、加工限界、各種加工法、net shape 加工、CAD/CAM/CAEの適用例、FEMの適用例、新しい数値モデリング</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>塑性加工: 鈴木弘, 裳華房: Metal Forming and the Finite-Element Method: S. Kobayashi et al, Oxford Univ. Press</p> <p>●評価方法と基準</p> <p>レポート、プレゼン</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

材料加工工学セミナー1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	石川 孝司 教授 湯川 伸樹 准教授 阿部 英嗣 助教 石黒 太浩 助教	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>材料塑性加工に関する最近の研究および技術上の諸問題について、国内外の研究論文を輪読して、理解を深めるとともに、研究の進め方、まとめ方、発表方法等について学ぶ、塑性加工のための材料選択、工程設計、条件最適化について基礎力、応用力を養う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>材料力学第1, 材料力学第2, 弾塑性学, 材料塑性加工学</p> <p>●授業内容</p> <p>連続体の塑性、加工材の性質、塑性流れの不安定、加工限界、各種加工法、net shape 加工、CAD/CAM/CAEの適用例、FEMの適用例、新しい数値モデリング</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>塑性加工: 鈴木弘, 裳華房: Metal Forming and the Finite-Element Method: S. Kobayashi et al, Oxford Univ. Press</p> <p>●評価方法と基準</p> <p>レポート、プレゼン</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

材料加工工学セミナー1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	石川 季司 教授 湯川 伸樹 准教授 阿部 英嗣 助教 石黒 太浩 助教	
<p>●本講座の目的およびねらい 材料塑性加工に関する最近の研究および技術上の諸問題について、国内外の研究論文を輪読して、理解を深めるとともに、研究の進め方、まとめ方、発表方法等について学ぶ。塑性加工のための材料選択、工程設計、条件最適化について基礎力、応用力を養う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 材料力学、構造材料学、材料塑性加工学</p> <p>●授業内容 連続体の塑性、加工材の性質、塑性流れの不安定、加工限界、各種加工法、net shape 加工、CAD/CAM/CAEの適用例、FEMの適用例、新しい数値モデリング</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 「材料強度学」：(日本材料学会)、:Fracture Mechanics -second edition- (CRC press)</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 なし</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応する。:担当教員連絡先:内線 3 5 7 7 tagawa@nunse.nagoya-u.ac.jp</p>		

材料強度学セミナー1A (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	田川 哲哉 准教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 材料の破壊現象、破壊力学評価手法に関する最近の研究および技術課題について、国内外の研究論文を輪読し理解を深めるとともに、自身の研究課題への応用力を養う。同時に研究結果のまとめ方、発表方法など、研究を行う上での総合力を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 材料強度学、材料力学、構造材料学</p> <p>●授業内容 材料の疲労と破壊と破壊力学による評価手法に関する文献の輪講、演習を行う。</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 「材料強度学」：(日本材料学会)、:Fracture Mechanics -second edition- (CRC press)</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 なし</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応する。:担当教員連絡先:内線 3 5 7 7 tagawa@nunse.nagoya-u.ac.jp</p>		

材料強度学セミナー1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	田川 哲哉 准教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 材料の破壊現象、破壊力学評価手法に関する最近の研究および技術課題について、国内外の研究論文を輪読し理解を深めるとともに、自身の研究課題への応用力を養う。同時に研究結果のまとめ方、発表方法など、研究を行う上での総合力を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 材料強度学、材料力学、構造材料学</p> <p>●授業内容 材料の疲労と破壊と破壊力学による評価手法に関する文献の輪講、演習を行う。</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 「材料強度学」：(日本材料学会)、:Fracture Mechanics -second edition- (CRC press)</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 なし</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応する。:担当教員連絡先:内線 3 5 7 7 tagawa@nunse.nagoya-u.ac.jp</p>		

材料強度学セミナー1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	田川 哲哉 准教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 材料の破壊現象、破壊力学評価手法に関する最近の研究および技術課題について、国内外の研究論文を輪読し理解を深めるとともに、自身の研究課題への応用力を養う。同時に研究結果のまとめ方、発表方法など、研究を行う上での総合力を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 材料強度学、材料力学、材料物理学、弾塑性学、格子欠陥論</p> <p>●授業内容 構造材料の疲労と破壊に関する文献の輪講、演習を行う。</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 「材料強度学」：(日本材料学会)、:Fracture Mechanics -second edition- (CRC press)</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 なし</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応する。:担当教員連絡先:内線 3 5 7 7 tagawa@nunse.nagoya-u.ac.jp</p>		

材料強度学セミナー1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	田川 哲哉 准教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 材料の破壊現象、破壊力学評価手法に関する最近の研究および技術課題について、国内外の研究論文を輪読し理解を深めるとともに、自身の研究課題への応用力を養う。同時に研究結果のまとめ方、発表方法など、研究を行う上での総合力を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 材料強度学、材料力学、構造材料学</p> <p>●授業内容 構造材料の疲労と破壊に関する文献の輪読、演習を行う。</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 「材料強度学」：(日本材料学会)：Fracture Mechanics -second edition- (CRC press)</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 なし</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応する。：担当教員連絡先：内線 3 5 7 7 tagawa@munse.nagoya-u.ac.jp</p>		

材料物理化学セミナー1A (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	藤澤 敏治 教授 佐野 浩行 助教	
<p>●本講座の目的およびねらい 材料のプロセッシングに関連する文献を輪読し、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方、研究方法などについて習得すると共に、関連分野の研究動向についても理解を深め、研究テーマを選定する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 化学基礎1・II、物理化学、材料物理化学、応用熱力学、移動現象論、金属反応論、素材プロセス工学第2</p> <p>●授業内容 材料プロセッシングに関する文献(素材製造プロセス、廃棄物処理・リサイクル、異相間化学反応平衡および反応速度、など)</p> <p>●教科書 使用しない(必要に応じてプリント資料を配布する)</p> <p>●参考書 1. 金属化学入門シリーズ1 金属物理化学 編集・発行 日本金属学会 発売 丸善 2. Introduction to the Thermodynamics of Materials, Third Edition by David R. Gaskell, Taylor and Francis Publishers 3. Physical Chemistry of Melts in Metallurgy, F.D. Richardson, A.P.</p> <p>●評価方法と基準 達成目標に対する評価の重みは同等。 レポート及び口頭発表にて総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。</p> <p>●履修条件・注意事項 特になし。</p> <p>●質問への対応 セミナー時、あるいは教員室(事前に電話かメールで時間を打合せること)にて受け付ける。 担当教員連絡先：内線 3613 E-mail fujisawa@munse.nagoya-u.ac.jp</p>		

材料物理化学セミナー1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	藤澤 敏治 教授 佐野 浩行 助教	
<p>●本講座の目的およびねらい 材料のプロセッシングに関連する最近の研究および諸問題を材料物理化学の立場から取り上げ、輪読演習を行うことにより、最新の研究動向を把握するとともに、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方、研究方法などについて習得し、修士論文テーマの位置づけを明確にする。これらを通じて、材料工学に関する基礎力並びに応用力を養う。</p> <p>達成目標 1. 修士論文研究テーマの位置づけを明確にすると共に、研究への取り組み方、進め方、研究方法などについて決定する。 2. 関連分野の研究動向に関する理解を深める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 化学基礎1・II、物理化学、材料物理化学、応用熱力学、移動現象論、金属反応論、素材プロセス工学第2</p> <p>●授業内容 材料プロセッシングに関する文献(素材製造プロセス、廃棄物処理・リサイクル、異相間化学反応平衡および反応速度、混合融体の理論的取り扱い方、など) 各学生の修士論文テーマ</p> <p>●教科書 使用しない(必要に応じてプリント資料を配布する)</p> <p>●参考書 1. 金属化学入門シリーズ1 金属物理化学 編集・発行 日本金属学会 発売 丸善 2. Introduction to the Thermodynamics of Materials, Third Edition by David R. Gaskell, Taylor and Francis Publishers 3. Physical Chemistry of Melts in Metallurgy, F.D. Richardson, A.P.</p> <p>●評価方法と基準 達成目標に対する評価の重みは同等。 レポート及び口頭発表にて総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。</p> <p>●履修条件・注意事項 特になし。</p> <p>●質問への対応 セミナー時、あるいは教員室(事前に電話かメールで時間を打合せること)にて受け付ける。 担当教員連絡先：内線 3613 E-mail fujisawa@munse.nagoya-u.ac.jp</p>		

材料物理化学セミナー1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	藤澤 敏治 教授 佐野 浩行 助教	
<p>●本講座の目的およびねらい 材料のプロセッシングに関連する最近の研究および諸問題を材料物理化学の立場から取り上げ、輪読演習を行うことにより、最新の研究動向を把握するとともに、修士論文の完成に向けての議論をする。これらを通じて、材料工学に関する基礎力並びに応用力を養う。</p> <p>達成目標 1. 修士論文研究テーマの研究計画とその結果に基づき、論文完成のために残された課題を抽出しその対応法を決定する。 2. 関連分野の研究動向に関する理解を深める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 化学基礎1・II、物理化学、材料物理化学、応用熱力学、移動現象論、金属反応論、素材プロセス工学第2、高温物理化学特論</p> <p>●授業内容 材料プロセッシングに関する文献(素材製造プロセス、廃棄物処理・リサイクル、異相間化学反応平衡および反応速度、混合融体の理論的取り扱い方、素材の高純度化、素材の新製造プロセスの開発、など) 各学生の修士論文テーマ</p> <p>●教科書 使用しない(必要に応じてプリント資料を配布する)</p> <p>●参考書 1. 金属化学入門シリーズ1 金属物理化学 編集・発行 日本金属学会 発売 丸善 2. Introduction to the Thermodynamics of Materials, Third Edition by David R. Gaskell, Taylor and Francis Publishers 3. Physical Chemistry of Melts in Metallurgy, F.D. Richardson, A.P.</p> <p>●評価方法と基準 達成目標に対する評価の重みは同等。 レポート及び口頭発表にて総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。</p> <p>●履修条件・注意事項 特になし。</p> <p>●質問への対応 セミナー時、あるいは教員室(事前に電話かメールで時間を打合せること)にて受け付ける。 担当教員連絡先：内線 3613 fujisawa@munse.nagoya-u.ac.jp</p>		

材料物理化学セミナー1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	藤澤 敏治 教授	佐野 浩行 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 材料のプロセッシングに関連する最近の研究および諸問題を材料物理化学の立場から取り上げ、輪講演習を行うことにより、最新の研究動向を把握するとともに、修士論文の位置づけを明確にする。また、修士論文のテーマに沿った実験研究の計画および結果に基づき、論文の完成に向けての議論をする。 これらを通じて、材料工学に関する基礎力並びに応用力を養う。</p> <p>達成目標 1. 修士論文研究テーマの研究結果のまとめ方を決定する。 2. 関連分野の研究動向に関する理解を深める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 化学基礎I・II、物理化学、材料物理化学、応用熱力学、移動現象論、金属反応論、素材プロセス工学第2、高温物理化学特論</p> <p>●授業内容 材料プロセッシングに関する文献（素材製造プロセス、廃棄物処理・リサイクル、異相間化学反応平衡および反応速度、混合液体の理論的取り扱い方、素材の高純度化、素材の新製造プロセスの開発、など）各学生の修士論文テーマ</p> <p>●教科書 使用しない（必要に応じてプリント資料を配布する）</p> <p>●参考書 1. 金属化学入門シリーズ1 金属物理化学 編集・発行 日本金属学会 発売 丸善 2. Introduction to the Thermodynamics of Materials, Third Edition by David R. Gaskell, Taylor and Francis Publishers 3. Physical Chemistry of Melts in Metallurgy, F.D. Richardson, A.P.</p> <p>●評価方法と基準 達成目標に対する評価の重みは同等。 レポート及び口頭発表表にて総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。</p> <p>●履修条件・注意事項 特になし。</p> <p>●質問への対応 セミナー時、あるいは教員室（事前に電話かメールで時間を打合せること）にて受け付ける。 担当教員連絡先：内線 3613 E-mail fujisawa@munse.nagoya-u.ac.jp</p>		

材料開発工学セミナー1A (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	村田 純教 教授	湯川 宏 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 構造材料の材料開発に関する基礎的文献を輪読し、関連分野の研究動向について理解を深める。 達成目標：1. 構造材料の特徴について理解する。：2. 材料開発の考え方、方法を理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 金属材料学</p> <p>●授業内容 ミクロ組織制御による構造材料の開発</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 試験および演習レポートをもとに、目標達成度を評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項 なし</p> <p>●質問への対応 電子メール</p>		

材料開発工学セミナー1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	村田 純教 教授	湯川 宏 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 構造材料開発に関する基礎的文献を輪読し、関連分野の研究動向について理解を深める。達成目標：1. 構造材料の特徴を理解し、説明することができる。：2. 構造材料の材料設計を理解し説明することができる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 金属材料学</p> <p>●授業内容 ミクロ組織に基づく構造材料開発</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 試験および演習レポートにより、目標達成度を評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項 なし</p> <p>●質問への対応 電子メール</p>		

材料開発工学セミナー1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	村田 純教 教授	湯川 宏 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 構造材料の材料開発に関する基礎的文献を輪読し、関連分野の研究動向について理解を深める。達成目標：1. 材料開発についての見方を深め、新規な材料の開発について考え、意見を述べることができる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 金属材料学</p> <p>●授業内容 材料ミクロ組織形成とフェーズフィールド・シミュレーション</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 試験および演習レポートにより、達成度を評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項 なし</p> <p>●質問への対応 電子メール</p>		

材料開発工学セミナー1D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	村田 純教 教授	湯川 宏 助教

- 本講座の目的およびねらい  
構造材料の材料開発に関する基礎的文献を輪読し、関連分野の研究動向について理解を深める。  
達成目標: 1. 材料開発について理解し、新規な開発問題に対しても適用できる総合能力をもつ。
- バックグラウンドとなる科目  
金属材料学
- 授業内容  
材料ミクロ組織形成とフェーズフィールド・シミュレーション
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準  
試験および演習レポートより、目標達成度を評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応  
電子メール

材料構造制御工学セミナー1A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	金武 直幸 教授	伊藤 孝至 准教授 小橋 真 准教授 久米 裕二 助教

- 本講座の目的およびねらい  
複合材料、ポーラス材料、金属材料の製造加工技術及び組織・材質の評価に、関連する文献を調査報告し、材料内部の微視構造と機能特性との関係について習得するとともに、修士論文に関連する研究開発動向について理解する。
- バックグラウンドとなる科目  
結晶物理学、材料物理学、材料物理化学、材料力学第1、第2、金属材料学第1、第2、複合材料工学、材料強度学、材料塑性加工学、セラミック材料学
- 授業内容  
1. 複合材料の微視構造と諸特性 2. 複合材料の製造プロセスと微視構造 \ 3. ポーラス材料の微視構造と諸特性 \ 4. ポーラス材料の製造プロセスと微視構造 \ 5. 金属材料の微視構造と諸特性 \ 6. 金属材料の微視構造制御プロセス
- 教科書  
調査報告する文献については、各自の修士論文の研究内容に合わせて適宜選定する。
- 参考書
- 評価方法と基準  
口頭発表、質疑応答、討論への参加、報告資料作成などを総合的に評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

材料構造制御工学セミナー1B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	金武 直幸 教授	伊藤 孝至 准教授 小橋 真 准教授 久米 裕二 助教

- 本講座の目的およびねらい  
複合材料、ポーラス材料、金属材料の製造加工技術及び組織・材質の評価に、関連する文献を調査報告し、材料内部の微視構造と機能特性との関係について習得するとともに、修士論文に関連する研究開発動向について理解する。
- バックグラウンドとなる科目  
結晶物理学、材料物理学、材料物理化学、材料力学第1・第2、金属材料学第1・第2、複合材料工学、材料強度学、材料塑性加工学、セラミック材料学
- 授業内容  
1. 複合材料の微視構造と諸特性 2. 複合材料の製造プロセスと微視構造 \ 3. ポーラス材料の微視構造と諸特性 \ 4. ポーラス材料の製造プロセスと微視構造 \ 5. 金属材料の微視構造と諸特性 \ 6. 金属材料の微視構造制御プロセス
- 教科書  
調査報告する文献については、各自の修士論文の研究内容に合わせて適宜選定する。
- 参考書
- 評価方法と基準  
口頭発表、質疑応答、討論への参加、報告資料作成などを総合的に評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

材料構造制御工学セミナー1C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	金武 直幸 教授	伊藤 孝至 准教授 小橋 真 准教授 久米 裕二 助教

- 本講座の目的およびねらい  
金属材料、複合材料、ポーラス材料を中心に、材料内部の微視構造と機能特性との関係について、関連する文献を輪読して関連分野の研究開発状況の理解を深めると共に、修士論文の研究の位置付けを明確にする。また、関連文献および修士論文の研究内容について整理報告および討論して、研究の進め方、まとめ方、発表の仕方について習得する。
- バックグラウンドとなる科目  
結晶物理学、材料物理学、材料物理化学、材料力学第1・第2、金属材料学第1・第2、複合材料工学、材料強度学、材料塑性加工学、セラミック材料学
- 授業内容  
1. 複合材料の微視構造と諸特性 2. 複合材料の製造プロセスと微視構造 \ 3. ポーラス材料の微視構造と諸特性 \ 4. ポーラス材料の製造プロセスと微視構造 \ 5. 金属材料の微視構造と諸特性 \ 6. 金属材料の微視構造制御プロセス
- 教科書  
調査報告する文献については、各自の修士論文の研究内容に合わせて適宜選定する。
- 参考書
- 評価方法と基準  
口頭発表、質疑応答、討論への参加、報告資料作成などを総合的に評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応



材料構造制御工学セミナー1D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年後期
教員	金武 直幸 教授 伊藤 孝至 准教授 小橋 真 准教授 久米 裕二 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 金属材料、複合材料、ポーラス材料を中心に、材料内部の微視構造と機能特性との関係について、関連する文献を輪読して関連分野の研究開発状況の理解を深めると共に、修士論文の研究の位置付けを明確にする。また、関連文献および修士論文の研究内容について整理報告および討論して、研究の進め方、まとめ方、発表の仕方について習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 結晶物理学、材料物理学、材料物理化学、材料力学第1・第2、金属材料学第1・第2、複合材料工学、材料強度学、材料塑性加工学、セラミック材料学</p> <p>●授業内容 1. 複合材料の微視構造と諸特性 2. 複合材料の製造プロセスと微視構造 3. ポーラス材料の微視構造と諸特性 4. ポーラス材料の製造プロセスと微視構造 5. 金属材料の微視構造と諸特性 6. 金属材料の微視構造制御プロセス</p> <p>●教科書 調査報告する文献については、各自の修士論文の研究内容に合わせて適宜選定する。</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 口頭発表、質疑応答、討論への参加、報告資料作成などを総合的に評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

スピントロニクス材料研究の世界の動向の概略を説明できる。	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 結晶材料工学専攻
開講時期1	1年前期 1年前期
教員	浅野 秀文 教授 植田 研二 准教授 宮脇 哲也 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 電子物性、特にスピントロニクスに関する基礎理論を学習する。また試料作製法、物性測定法、物性解析法を習得する。スピントロニクス材料研究の世界的動向について学ぶ。:達成目標: 1) 材料物性の基礎理論を説明できる。: 2) スピントロニクス材料研究の世界的動向の概略を説明できる。: 3) スピントロニクス材料研究の世界的動向の概略を説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電磁気学A、結晶物理学、量子力学A、材料物性学、磁性材料学</p> <p>●授業内容 1. 物質の結晶構造、磁気的性質、電気的性質の基礎: 理論と実験法: 2. 物質の熱的性質、弾性的性質、光学的性質の基礎: 理論と実験法: 3. 磁性超薄膜、磁性ナノ粒子の作製: 4. 結晶構造解析: 5. 表・界面構造解析: 6. 磁気物性の先端的研究課題</p> <p>●教科書 毎回プリントを配布して、課題について討論する</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 達成目標に対する評価は同等である。:課題論文レポート50%、研究発表50%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

スピントロニクス材料研究の世界の動向の概略を説明できる。	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 結晶材料工学専攻
開講時期1	1年後期 1年後期
教員	浅野 秀文 教授 植田 研二 准教授 宮脇 哲也 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 電子物性、特にスピントロニクスに関する基礎理論を学習する。また試料作製法、物性測定法、物性解析法を習得する。スピントロニクス材料研究の世界的動向について学ぶ。:達成目標: 1) 材料物性の基礎理論を説明できる。: 2) スピントロニクス材料研究の世界的動向の概略を説明できる。: 3) スピントロニクス材料研究の世界的動向の概略を説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電磁気学A、結晶物理学、量子力学A、材料物性学、磁性材料学、スピントロニクス材料研究の世界の動向の概略を説明できる。</p> <p>●授業内容 1. 物質の結晶構造、磁気的性質、電気的性質の基礎: 理論と実験法: 2. 物質の熱的性質、弾性的性質、光学的性質の基礎: 理論と実験法: 3. 超薄膜・ナノ粒子の作製: 4. 結晶構造解析: 5. 表・界面構造解析: 6. 磁気物性の先端的研究課題</p> <p>●教科書 毎回プリントを配布して、課題について討論する</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 達成目標に対する評価は同等である。:課題論文レポート50%、研究発表50%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

スピントロニクス材料研究の世界の動向の概略を説明できる。	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 結晶材料工学専攻
開講時期1	2年前期 2年前期
教員	浅野 秀文 教授 植田 研二 准教授 宮脇 哲也 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 電子物性、特にスピントロニクスに関する基礎理論を学習する。また試料作製法、物性測定法、物性解析法を習得する。スピントロニクス材料研究の世界的動向について学ぶ。:達成目標: 1) 材料物性の基礎理論を説明できる。: 2) スピントロニクス材料研究の世界的動向の概略を説明できる。: 3) スピントロニクス材料研究の世界的動向の概略を説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電磁気学A、結晶物理学、量子力学A、材料物性学、磁性材料学、磁気物性機能学セミナー1A~1B</p> <p>●授業内容 1. 物質の結晶構造、磁気的性質、電気的性質の基礎: 理論と実験法: 2. 物質の熱的性質、弾性的性質、光学的性質の基礎: 理論と実験法: 3. 超薄膜・ナノ粒子の作製: 4. 結晶構造解析: 5. 表・界面構造解析: 6. 磁気物性の先端的研究課題</p> <p>●教科書 毎回プリントを配布して、課題について討論する</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 達成目標に対する評価は同等である。:課題論文レポート50%、研究発表50%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

**\_\_\_\_\_ スピン物性工学セミナー1D (2.0単位) \_\_\_\_\_**

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	結晶材料工学専攻
開講時期1	2年後期	2年後期
教員	浅野 秀文 教授	植田 研二 准教授 宮脇 哲也 助教

---

●本講座の目的およびねらい  
電子物性、特にスピン物性に関する基礎理論を学習する。また試料作製法、物性測定法、物性解析法を習得する。スピン物性工学を中心に最近の世界の研究、スピントロニクス材料開発動向について学ぶ。:達成目標:1) 材料物性の基礎理論を説明できる。:2) スピン物性の物理的概念を説明できる。:3) スピントロニクス材料研究の世界の動向の概略を説明できる。

●バックグラウンドとなる科目  
電磁気学A、結晶物理学、量子力学A、材料物理学、磁性材料学、スピン物性工学セミナー1A~1C

●授業内容  
1. 物質の結晶構造、磁気的性質、電気的性質の基礎:理論と実験法:2. 物質の熱的性質、弾性的性質、光学的性質の基礎:理論と実験法:3. 超薄膜・ナノ粒子の先進的作製法:4. 結晶構造解析法:5. 表・界面構造解析法:6. 磁気物性の先進的研究課題

●教科書  
毎回プリントを配布して、課題について討論する

●参考書

●評価方法と基準  
達成目標に対する評価は同等である。:課題論文レポート50%、研究発表50%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

**\_\_\_\_\_ 環境調和型分離計測セミナー1A (2.0単位) \_\_\_\_\_**

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	松宮 弘明 准教授	

---

●本講座の目的およびねらい  
環境との関わりを念頭に置きながら、各種分離および分析法に関する英文テキストを輪読し、また専門誌に掲載された関連論文の紹介と討論を通して、研究の進め方やまとめ方を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。

達成目標  
1. 各種分離および分析法に関して基本的事項を理解し、他者に分りやすく解説できる。  
2. 英語文献から情報を正確に読み取り、俯瞰的かつ総合的に内容を判断し、自身の創造的研究に何かしら応用できる。

●バックグラウンドとなる科目  
分析化学、無機化学、有機化学、生化学、物理化学、原子物理学

●授業内容  
主に極微量成分分析や存在形態別分離の基礎と応用について議論し、環境汚染物質の動態や除去、無害化、また、廃棄物資源や未利用資源の回収や有効利用に関する話題を扱う。

●教科書  
セミナーの進行に合わせて、輪読するテキストや文献を適宜選定する。

●参考書  
必要に応じて適宜紹介するが、参加学生も自ら探索することが大切である。

●評価方法と基準  
セミナーにおける口頭発表内容(作成した資料も含む)とそれに対する質疑応答、また討論への参加の積極性から評価する。100点満点(発表50点、質疑応答30点、討論参加20点)で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項  
しっかりとした準備と幅広い学習を心掛けること。

●質問への対応  
セミナー時または時間打合せのうえ対応する。

**\_\_\_\_\_ 環境調和型分離計測セミナー1B (2.0単位) \_\_\_\_\_**

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	松宮 弘明 准教授	

---

●本講座の目的およびねらい  
環境との関わりを念頭に置きながら、各種分離および分析法に関する英文テキストを輪読し、また専門誌に掲載された関連論文の紹介と討論を通して、研究の進め方やまとめ方を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。

達成目標  
1. 各種分離および分析法に関して基本的事項を理解し、他者に分りやすく解説できる。  
2. 英語文献から情報を正確に読み取り、俯瞰的かつ総合的に内容を判断し、自身の創造的研究に何かしら応用できる。

●バックグラウンドとなる科目  
分析化学、無機化学、有機化学、生化学、物理化学、原子物理学

●授業内容  
主に極微量成分分析や存在形態別分離の基礎と応用について議論し、環境汚染物質の動態や除去、無害化、また、廃棄物資源や未利用資源の回収や有効利用に関する話題を扱う。

●教科書  
セミナーの進行に合わせて、輪読するテキストや文献を適宜選定する。

●参考書  
必要に応じて適宜紹介するが、参加学生も自ら探索することが大切である。

●評価方法と基準  
セミナーにおける口頭発表内容(作成した資料も含む)とそれに対する質疑応答、また討論への参加の積極性から評価する。100点満点(発表50点、質疑応答30点、討論参加20点)で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項  
しっかりとした準備と幅広い学習を心掛けること。

●質問への対応  
セミナー時または時間打合せのうえ対応する。

**\_\_\_\_\_ 環境調和型分離計測セミナー1C (2.0単位) \_\_\_\_\_**

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	松宮 弘明 准教授	

---

●本講座の目的およびねらい  
環境との関わりを念頭に置きながら、各種分離および分析法に関する英文テキストを輪読し、また専門誌に掲載された関連論文の紹介と討論を通して、研究の進め方やまとめ方を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。

達成目標  
1. 各種分離および分析法に関して基本的事項を理解し、他者に分りやすく解説できる。  
2. 英語文献から情報を正確に読み取り、俯瞰的かつ総合的に内容を判断し、自身の創造的研究に何かしら応用できる。

●バックグラウンドとなる科目  
分析化学、無機化学、有機化学、生化学、物理化学、原子物理学

●授業内容  
主に極微量成分分析や存在形態別分離の基礎と応用について議論し、環境汚染物質の動態や除去、無害化、また、廃棄物資源や未利用資源の回収や有効利用に関する話題を扱う。

●教科書  
セミナーの進行に合わせて、輪読するテキストや文献を適宜選定する。

●参考書  
必要に応じて適宜紹介するが、参加学生も自ら探索することが大切である。

●評価方法と基準  
セミナーにおける口頭発表内容(作成した資料も含む)とそれに対する質疑応答、また討論への参加の積極性から評価する。100点満点(発表50点、質疑応答30点、討論参加20点)で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項  
しっかりとした準備と幅広い学習を心掛けること。

●質問への対応  
セミナー時または時間打合せのうえ対応する。

——環境調和型分離計測セミナー1D (2.0単位)——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	松宮 弘明 准教授	

●本講座の目的およびねらい  
環境との関わりを念頭に置きながら、各種分離および分析法に関する英文テキストを輪読し、また専門誌に掲載された関連論文の紹介と討論を通して、研究の進め方やまとめ方を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。

達成目標  
1. 各種分離および分析法に関して基本的事項を理解し、他者に分りやすく解説できる。  
2. 英語文献から情報を正確に読み取り、俯瞰的かつ総合的に内容を判断し、自身の創造的研究に何かしら応用できる。

●バックグラウンドとなる科目  
分析化学、無機化学、有機化学、生化学、物理化学、原子物理学

●授業内容  
主に微量量成分分析や存在形態別分離の基礎と応用について議論し、環境汚染物質の動態や除去、無害化、また、廃棄物資源や未利用資源の回収や有効利用に関する話題を扱う。

●教科書  
セミナーの進行に合わせて、輪読するテキストや文献を適宜選定する。

●参考書  
必要に応じて適宜紹介するが、参加学生も自ら探索することが大切である。

●評価方法と基準  
セミナーにおける口頭発表内容（作成した資料も含む）とそれに対する質疑応答、また討論への参加の積極性から評価する。100点満点（発表50点、質疑応答30点、討論参加20点）で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項  
しっかりとした準備と幅広い学習を心掛けること。

●質問への対応  
セミナー時または時間打合せのうえ対応する。

——低環境負荷材料工学セミナー1A (2.0単位)——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	市野 良一 教授 神本 祐樹 助教	

●本講座の目的およびねらい  
低環境負荷を基盤とする資源循環について独自に調査・収集する。資源循環を見据えた分離工学の基礎から新規分離技術開発・応用、さらには環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発の重要性について理解する。

●バックグラウンドとなる科目  
物理化学、素材プロセス工学第2、化学基礎1、2

●授業内容  
低環境負荷を基盤とする資源循環技術、分離工学技術の基礎、環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発等について、基礎から応用にわたり調査討論する。

●教科書  
なし

●参考書  
適宜指示する

●評価方法と基準  
口頭試験にて60ポイント以降獲得した者に成績を与える

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
担当教員の都合をメールにて確認したのち、進める。

——低環境負荷材料工学セミナー1B (2.0単位)——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	市野 良一 教授 神本 祐樹 助教	

●本講座の目的およびねらい  
低環境負荷を基盤とする資源循環について独自に調査・収集する。資源循環を見据えた分離工学の基礎から新規分離技術開発・応用、さらには環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発の重要性について理解する。

●バックグラウンドとなる科目  
物理化学、素材プロセス工学第2、化学基礎1、2

●授業内容  
低環境負荷を基盤とする資源循環技術、分離工学技術の基礎、環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発等について、基礎から応用にわたり調査討論する。

●教科書  
なし

●参考書  
適宜指示する

●評価方法と基準  
口頭試験にて60ポイント以降獲得した者に成績を与える

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
担当教員の都合をメールにて確認したのち、進める。

——低環境負荷材料工学セミナー1C (2.0単位)——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	市野 良一 教授 神本 祐樹 助教	

●本講座の目的およびねらい  
低環境負荷を基盤とする資源循環について独自に調査・収集する。資源循環を見据えた分離工学の基礎から新規分離技術開発・応用、さらには環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発の重要性について理解する。

●バックグラウンドとなる科目  
物理化学、素材プロセス工学第2、化学基礎1、2

●授業内容  
低環境負荷を基盤とする資源循環技術、分離工学技術の基礎、環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発等について、基礎から応用にわたり調査討論する。

●教科書  
なし

●参考書  
適宜指示する

●評価方法と基準  
口頭試験にて60ポイント以降獲得した者に成績を与える

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
担当教員の都合をメールにて確認したのち、進める。

低環境負荷材料工学セミナー1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	市野 良一 教授 神本 祐樹 助教	
<p>●本講座の目的およびねらい 低環境負荷を基盤とする資源循環について独自に調査・収集する。資源循環を見据えた分離工学の基礎から新規分離技術開発・応用、さらには環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発の重要性について理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 物理化学、素材プロセス工学第2、化学基礎1、2</p> <p>●授業内容 低環境負荷を基盤とする資源循環技術、分離工学技術の基礎、環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発等について、基礎から応用にわたり調査討論する。</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 適宜指示する</p> <p>●評価方法と基準 口頭試問にて60ポイント以降獲得した者に成績を与える</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 担当教員の都合をメールにて確認したのち、進める。</p>		

材料分子科学セミナー1A (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	齋藤 永宏 教授 上野 智永 助教	
<p>●本講座の目的およびねらい 材料分子科学の理解</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 分子化学、量子化学、物理化学</p> <p>●授業内容 演習形式</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 出席</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

材料分子科学セミナー1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	齋藤 永宏 教授 上野 智永 助教	
<p>●本講座の目的およびねらい 材料分子科学の理解</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 分子科学、量子化学、物理化学</p> <p>●授業内容 演習形式</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 出席</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

材料分子科学セミナー1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	齋藤 永宏 教授 上野 智永 助教	
<p>●本講座の目的およびねらい 材料分子科学の理解</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 分子科学、量子化学、物理化学</p> <p>●授業内容 演習形式</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 出席</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

材料分子科学セミナー1D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年後期
教員	齋藤 永宏 教授 上野 智永 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 材料分子科学の理解</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 分子科学、量子化学、物理化学</p> <p>●授業内容 演習形式</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 出席</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

ナノ構造評価学セミナー1A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 量子工学専攻
開講時期1	1年前期 1年前期
教員	山本 剛久 教授 佐々木 勝寛 准教授 徳永 智春 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 材料の特性を微細構造から理解するための理論的・実験的基礎を修得するため、下記の課題に関するテキスト、学術論文などを輪読・発表する。とくに、電子顕微鏡法の基礎を理解し、自ら電顕を操作して材料評価を行える基礎を築く。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 結晶物理学、格子欠陥論、材料物理学</p> <p>●授業内容 1. 構造敏感な材料特性 2. 電子顕微鏡による材料の組織の評価 3. 分析電子顕微鏡法による材料の評価</p> <p>●教科書 輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 随時 5号館南館 317号室, Tel:789-3349, khsasaki@nagoya-u.jp</p>	

ナノ構造評価学セミナー1B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 量子工学専攻
開講時期1	1年後期 1年後期
教員	山本 剛久 教授 佐々木 勝寛 准教授 徳永 智春 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 材料の特性を微細構造から理解するための理論的・実験的基礎を修得するため、下記の課題に関するテキスト、学術論文などを選び輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 結晶物理学、格子欠陥論、材料物理学</p> <p>●授業内容 1. 構造敏感な材料特性 2. 電子顕微鏡による材料の組織の評価 3. X線による材料の評価</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 随時 5号館南館 317号室, Tel:789-3349, khsasaki@nagoya-u.jp</p>	

ナノ構造評価学セミナー1C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 量子工学専攻
開講時期1	2年前期 2年前期
教員	山本 剛久 教授 佐々木 勝寛 准教授 徳永 智春 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 材料の特性を微細構造から理解するための理論的・実験的基礎を修得するため、下記の課題に関するテキスト、学術論文などを輪読・発表する。とくに、電子顕微鏡法の基礎および応用を理解し、自ら電顕を操作して材料評価を展開できるようになる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 結晶物理学、格子欠陥論、材料物理学</p> <p>●授業内容 1. 構造敏感な材料特性 2. 電子顕微鏡による材料の組織の評価 3. 分析電子顕微鏡法による材料の評価</p> <p>●教科書 輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 随時 5号館南館 317号室, Tel:789-3349, khsasaki@nagoya-u.jp</p>	

—— ナノ構造評価セミナー1D (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	量子工学専攻
開講時期1	2年後期	2年後期
教員	山本 剛久 教授	佐々木 勝寛 准教授 徳永 智春 助教

---

●本講座の目的およびねらい  
 材料の特性を微細構造から理解するための理論的・実験的基礎を修得するため、下記の課題に関するテキスト、学術論文などを輪読・発表する。とくに、電子顕微鏡法の基礎および応用を理解し、自ら電顕を操作して材料評価を展開できるようにする。

●バックグラウンドとなる科目  
 結晶物理学、格子欠陥論、材料物理学

●授業内容  
 1. 構造敏感な材料特性  
 2. 電子顕微鏡による材料の組織の評価  
 3. 分析電子顕微鏡法による材料の評価

●教科書  
 輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。

●参考書  
 ●評価方法と基準  
 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする

●履修条件・注意事項  
 ●質問への対応  
 随時  
 5号館南館 317号室, Tel:789-3349, khsasaki@nagoya-u.jp

—— 材料解析学セミナー1A (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	物質制御工学専攻
開講時期1	1年前期	1年前期
教員	齋藤 徹 准教授	

---

●本講座の目的およびねらい  
 物質のキャラクタリゼーションに関連する新しい計測手法の開発、その理論的解析、新しい計測機器の設計と製作、などに関する討論と最新の関連文献についてのセミナーを行い、材料解析に関する基礎力と応用力に加えて、目的に応じて分析系を設計し、さらには新たな分析法を提案するための創造力・総合力・協働力を養う。 達成目標 1. 最新の文献を正確に読み、説明することができる。 2. 必要に応じて参考文献を調べ、わかりやすく解説できる。

●バックグラウンドとなる科目  
 化学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学実験、分析化学Ⅰ&Ⅱ、無機化学、物理化学、原子物理学、生化学

●授業内容  
 1. キャラクタリゼーションの方法論  
 2. 高感度分析法に関する最新の進歩  
 3. 表面分析法に関する最新の進歩  
 4. センサー技術に関する最新の進歩

●教科書  
 セミナーに先立って分析化学やその周辺に関する最新の文献を紹介する。担当者は必要に応じて資料を作成し、文献の内容を説明する。

●参考書  
 セミナー担当者が探索する。

●評価方法と基準  
 資料調査・作成と口述試験。100点満点で60点以上を合格とする。  
 <平成23年度入・進学者>  
 S: 100-90点、A: 89-80点、B: 79-70点、C: 69-60点、F: 59点以下  
 <平成22年度以前入・進学者>  
 A: 100-80点、B: 79-70点、C: 69-60点、D: 59点以下

●履修条件・注意事項  
 ●質問への対応  
 セミナー中または時間打合せのうえ対応 齋藤 saitoh@nurse.nagoya-u.ac.jp

—— 材料解析学セミナー1A (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	物質制御工学専攻
開講時期1	1年前期	1年前期
教員	香田 忍 教授	松岡 辰郎 准教授 山口 毅 助教

---

●本講座の目的およびねらい  
 材料解析学の発展に不可欠な「統計力学」、「熱力学」、「物理学」、「ソフトマテリアル」、「ソノケミストリー」などの分野に関する論文類のセミナーにより、関連分野に対する深い理解力を涵養するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。また、これらの理解のもとに自らの研究成果について考察する能力とプレゼンテーションの能力を身につける。

●バックグラウンドとなる科目  
 学部における物理化学の分野の講義

●授業内容  
 1. 統計力学的手法による液体および溶液の物性研究に関するセミナー  
 2. 高分子、液晶などのソフトマテリアルの物性研究に関するセミナー  
 3. 音波と光を組み合わせた物性測定技術に関するセミナー  
 4. 音響的手法によるソフトマテリアルの材料評価に関するセミナー  
 5. ソノケミストリーの基礎と応用に関するセミナー  
 6. 自らの研究成果についてのプレゼンテーション

●教科書  
 なし

●参考書  
 野村・川泉・香田「液体および溶液の音波物性」名古屋大学出版会 久保「大学演習 熱学・統計力学」裳華房

●評価方法と基準  
 発表者のセミナー発表に対する口述試験 (80%) および質問者の質疑応答の状況 (20%) で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項  
 ●質問への対応

—— 材料解析学セミナー1B (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	物質制御工学専攻
開講時期1	1年後期	1年後期
教員	齋藤 徹 准教授	

---

●本講座の目的およびねらい  
 物質のキャラクタリゼーションに関連する新しい計測手法の開発、その理論的解析、新しい計測機器の設計と製作、などに関する討論と最新の関連文献についてのセミナーを行い、材料解析に関する基礎力と応用力に加えて、目的に応じて分析系を設計し、さらには新たな分析法を提案するための創造力・総合力・協働力を養う。 達成目標 1. 最新の文献を正確に読み、説明することができる。 2. 必要に応じて参考文献を調べ、わかりやすく解説できる。

●バックグラウンドとなる科目  
 化学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学実験、分析化学Ⅰ&Ⅱ、無機化学、物理化学、原子物理学、生化学、材料解析学セミナー1A

●授業内容  
 1. キャラクタリゼーションの方法論  
 2. 高感度分析法に関する最新の進歩  
 3. 表面分析法に関する最新の進歩  
 4. センサー技術に関する最新の進歩

●教科書  
 セミナーに先立って分析化学やその周辺に関する最新の文献を紹介する。担当者は必要に応じて資料を作成し、文献の内容を説明する。

●参考書  
 セミナー担当者が探索する。

●評価方法と基準  
 資料調査・作成と口述試験。100点満点で60点以上を合格とする。  
 <平成23年度入・進学者>  
 S: 100-90点、A: 89-80点、B: 79-70点、C: 69-60点、F: 59点以下  
 <平成22年度以前入・進学者>  
 A: 100-80点、B: 79-70点、C: 69-60点、D: 59点以下

●履修条件・注意事項  
 ●質問への対応  
 セミナー中または時間打合せのうえ対応 齋藤 saitoh@nurse.nagoya-u.ac.jp

材料解析学セミナー 1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	物質制御工学専攻
開講時期 1	1年後期	1年後期
教員	香田 忍 教授	松岡 辰郎 准教授 山口 毅 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 材料解析学の発展に不可欠な「統計学」、「熱力学」、「物理化学」、「ソフトマテリアル」、「ソノケミストリー」などの分野に関する論文類のセミナーにより、関連分野に対する深い理解力を涵養するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。また、これらの理解のもとに自らの研究成果について考察する能力とプレゼンテーションの能力を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 学部における物理化学及び統計学の分野の講義</p> <p>●授業内容 1. 統計学的手法による液体および溶液の物性研究に関するセミナー 2. 高分子、液晶などのソフトマテリアルの物性研究に関するセミナー 3. 音波と光を組み合わせた物性測定技術に関するセミナー 4. 音響的手法によるソフトマテリアルの材料評価に関するセミナー 5. ソノケミストリーの基礎と応用に関するセミナー 6. 自らの研究成果についてのプレゼンテーション</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 野村・川泉・香田「液体および溶液の音波物性」名古屋大学出版会・久保「大学演習 熱学・統計学」養華房</p> <p>●評価方法と基準 発表者のセミナー発表に対する口述試験（80%）および質問者の質疑応答の状況（20%）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

材料解析学セミナー 1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	物質制御工学専攻
開講時期 1	2年前期	2年前期
教員	齋藤 徹 准教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 物質のキャラクタリゼーションに関連する新しい計測手法の開発、その理論的解析、新しい計測機器の設計と製作、などに関する討論と最新の関連文献についてのセミナーを行い、材料解析に関する基礎力と応用力に加えて、目的に応じて分析系を設計し、さらには新たな分析法を提案するための創造力・総合力・俯瞰力を養う。達成目標 1. 最新の文献を正確に読み、説明することができる。 2. 必要に応じて参考文献を調べ、わかりやすく解説できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 化学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学実験、分析化学Ⅰ&amp;Ⅱ、無機化学、物理化学、原子物理学、生化学、材料解析学セミナー1A及び1B</p> <p>●授業内容 1. キャラクタリゼーションの方法論 2. 高感度分析法に関する最新の進歩 3. 表面分析法に関する最新の進歩 4. センサー技術に関する最新の進歩</p> <p>●教科書 セミナーに先立って分析化学やその周辺に関する最新の文献を紹介する。担当者は必要に応じて資料を作成し、文献の内容を説明する。</p> <p>●参考書 セミナー担当者が探索する。</p> <p>●評価方法と基準 資料調査・作成と口述試験。100点満点で60点以上を合格とする。 &lt;平成23年度入・進学者&gt; S: 100-90点、A: 89-80点、B: 79-70点、C: 69-60点、F: 59点以下 &lt;平成22年度以前入・進学者&gt; A: 100-80点、B: 79-70点、C: 69-60点、D: 59点以下</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 セミナー中または時間打合せのうえ対応 齋藤 saito@nunse.nagoya-u.ac.jp</p>		

材料解析学セミナー 1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	物質制御工学専攻
開講時期 1	2年前期	2年後期
教員	香田 忍 教授	松岡 辰郎 准教授 山口 毅 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 材料解析学の発展に不可欠な「統計学」、「熱力学」、「物理化学」、「ソフトマテリアル」、「ソノケミストリー」などの分野に関する論文類のセミナーにより、関連分野に対する深い理解力を涵養するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。また、これらの理解のもとに自らの研究成果について考察する能力とプレゼンテーションの能力を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 学部における物理化学及び統計学の分野の講義、材料解析学セミナー1A、1B</p> <p>●授業内容 1. 統計学的手法による液体および溶液の物性研究に関するセミナー 2. 高分子、液晶などのソフトマテリアルの物性研究に関するセミナー 3. 音波と光を組み合わせた物性測定技術に関するセミナー 4. 音響的手法によるソフトマテリアルの材料評価に関するセミナー 5. ソノケミストリーの基礎と応用に関するセミナー 6. 自らの研究成果についてのプレゼンテーション</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 野村・川泉・香田「液体および溶液の音波物性」名古屋大学出版会・久保「大学演習 熱学・統計学」養華房</p> <p>●評価方法と基準 発表者のセミナー発表に対する口述試験（80%）および質問者の質疑応答の状況（20%）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

材料解析学セミナー 1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	物質制御工学専攻
開講時期 1	2年後期	2年後期
教員	齋藤 徹 准教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 物質のキャラクタリゼーションに関連する新しい計測手法の開発、その理論的解析、新しい計測機器の設計と製作、などに関する討論と最新の関連文献についてのセミナーを行い、材料解析に関する基礎力と応用力に加えて、目的に応じて分析系を設計し、さらには新たな分析法を提案するための創造力・総合力・俯瞰力を養う。達成目標 1. 最新の文献を正確に読み、説明することができる。 2. 必要に応じて参考文献を調べ、わかりやすく解説できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 化学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学実験、分析化学Ⅰ&amp;Ⅱ、無機化学、物理化学、原子物理学、生化学、材料解析学セミナー1A、1B、1C</p> <p>●授業内容 1. キャラクタリゼーションの方法論 2. 高感度分析法に関する最新の進歩 3. 表面分析法に関する最新の進歩 4. センサー技術に関する最新の進歩</p> <p>●教科書 セミナーに先立って分析化学やその周辺に関する最新の文献を紹介する。担当者は必要に応じて資料を作成し、文献の内容を説明する。</p> <p>●参考書 セミナー担当者が探索する。</p> <p>●評価方法と基準 資料調査・作成と口述試験。100点満点で60点以上を合格とする。 &lt;平成23年度入・進学者&gt; S: 100-90点、A: 89-80点、B: 79-70点、C: 69-60点、F: 59点以下 &lt;平成22年度以前入・進学者&gt; A: 100-80点、B: 79-70点、C: 69-60点、D: 59点以下</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 セミナー中または時間打合せのうえ対応 齋藤 saito@nunse.nagoya-u.ac.jp</p>		

材料解析学セミナー 1D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	材料工学分野	物質制御工学専攻
開講時期 1	2年後期	2年後期
教員	香田 忍 教授	松岡 辰郎 准教授 山口 毅 助教

●本講座の目的およびねらい

材料解析学の発展に不可欠な「統計力学」、「熱力学」、「物理化学」、「ソフトマテリアル」、「ソノケミストリー」などの分野に関する論文類のセミナーにより、関連分野に対する深い理解力を涵養するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。また、これらの理解のもとに自らの研究成果について考察する能力とプレゼンテーションの能力を身につける。

●バックグラウンドとなる科目

学部における物理化学及び統計力学の分野の講義：材料解析学セミナー1A、1B、1C

●授業内容

1. 統計力学的手法による液体および溶液の物性に関するセミナー
2. 高分子、液晶などのソフトマテリアルの物性に関するセミナー
3. 音波と光を組み合わせた物性測定技術に関するセミナー
4. 音響的手法によるソフトマテリアルの材料評価に関するセミナー
5. ソノケミストリーの基礎と応用に関するセミナー
6. 自らの研究成果についてのプレゼンテーション

●教科書

なし

●参考書

野村・川泉・香田「液体および溶液の音波物性」名古屋大学出版会・久保「大学演習 熱学・統計力学」裳華房

●評価方法と基準

発表者のセミナー発表に対する口述試験（80%）および質問者の質疑応答の状況（20%）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

無機材料設計セミナー 1A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	応用化学分野	分子化学工学分野 材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期 1	1年前期	1年前期 1年前期 1年前期
教員	薩摩 篤 教授	沢邊 恭一 講師 大山 順也 助教

●本講座の目的およびねらい

目的 無機の機能性材料である固体触媒、ガスセンサ、単結晶表面における材料設計、構造解析およびその周辺分野を対象として、関連する文献を輪読し、あるいは、文献をまとめて総括し、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方などについて修得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。ねらい 次の実力を身につける。

1. 情報収集・整理力
2. 科学の基礎力と応用力
3. 読得力
4. 論理的思考力

この講義を通して、これまでの学習の基礎力を確認し、固体触媒に関する応用力を身につけながら総合的に理解する。課題により数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力、考え抜く力、知識・技能・態度等を総合的に活用する能力、自主的な課題解決する能力が必要とされる。

●バックグラウンドとなる科目

触媒・表面化学、反応速度論、熱力学、量子化学、構造化学、および化学全領域の基礎

●授業内容

講義はセミナー形式で進める。題材は最新の科学の動向と、各自の研究の進展状況により適宜決定する。受講者の研究テーマおよび将来問題となる予想される触媒、表面、センサおよび関連分野に関する諸問題の中からテーマを選定する。研究テーマは主に教員との討論で決定する。

●教科書

関連する学術論文、総説、成書をテキストとする。最新の学術論文ないしは当該分野の総説が望ましい

●参考書

関連する学術論文、総説、成書を参考にすること

●評価方法と基準

セミナーにおける口頭発表(50%)とそれに対する質疑応答(50%)により評価する。

平成23年度以降入学者

100~90点：S、89~80点：A、79~70点：B、69~60点：C、59点以下：F

平成22年度以前入学者

100~80点：A、79~70点：B、69~60点：C、59点以下：D

●履修条件・注意事項

●質問への対応

質問への対応：講義終了時口頭でまたは下記に連絡。

薩摩 篤 4608 satsuna@apchem.nagoya-u.ac.jp

沢邊恭一 2610 sawabe@apchem.nagoya-u.ac.jp

無機材料設計セミナー 1A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	応用化学分野	分子化学工学分野 材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期 1	1年前期	1年前期 1年前期 1年前期
教員	北 英紀 教授	棚橋 満 講師

●本講座の目的およびねらい

【担当：北】

無機微粒子を原料とする材料やプロセスについて基礎知識を習得するとともに、それらを活用した製品やその使用方法を創造できる応用力・総合力を養う。また高機能だけでなく、製品のライフサイクルを俯瞰し、環境負荷や資源消費が少ない環境調和型のプロセスや評価指標について理解を深める。

【担当：棚橋】

微粒子制御およびその技術の機能材料設計・開発への応用に関する学術文献を輪読・発表し、これらの分野に関する最新知識および研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方などについて習得するとともに、関連分野の研究動向について調査し、理解を深めることを通じて、研究テーマを選定する。

達成目標

1. 微粒子制御の背景にある粒子の界面科学および分散凝集現象の基礎理論について理解し、説明できる。
2. 最近の微粒子制御技術およびその技術の機能材料設計・開発への応用に関して、その原理・特徴を理解し、説明できる。
3. 習得した基礎知識を修士論文テーマの選定に応用する。

●バックグラウンドとなる科目

物理化学、材料界面工学

●授業内容

【担当：北】

関連文献の読み合わせ、議論によって理解を深める

【担当：棚橋】

微粒子特性評価、微粒子制御技術および機能材料設計・開発への応用に関わる文献の輪読を行う。

●教科書

教科書は特に定めない。輪読する文献は、セミナーの進行に合わせて適宜選択し、配布する。

●参考書

例えば、J. N. Israelachvili: Intermolecular and Surface Forces, Second Edition: With Applications to Colloidal and Biological Systems, Academic Press, 1992

●評価方法と基準

達成目標に対する評価の重みは同等。レポート（30点）、口頭発表（50点）及びそれに対する質疑応答・討論（20点）にて総合的に目標達成度を評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

セミナー時に対応する。

担当教員連絡先：北 hkita@nuce.nagoya-u.ac.jp、棚橋 mtana@numse.nagoya-u.ac.jp

無機材料設計セミナー 1B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	応用化学分野	分子化学工学分野 材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期 1	1年後期	1年後期 1年後期 1年後期
教員	薩摩 篤 教授	沢邊 恭一 講師 大山 順也 助教

●本講座の目的およびねらい

目的 無機の機能性材料である固体触媒、ガスセンサ、単結晶表面における材料設計、構造解析およびその周辺分野を対象として、関連する文献を輪読し、あるいは、文献をまとめて総括し、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方などについて修得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。ねらい この講義を通して、これまでの学習の基礎力を確認し、固体触媒に関する応用力を身につけながら総合的に理解する。課題により数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力、考え抜く力、知識・技能・態度等を総合的に活用する能力、自主的な課題解決する能力が必要とされる。

●バックグラウンドとなる科目

触媒・表面化学、反応速度論、熱力学、量子化学、構造化学、および化学全領域の基礎

●授業内容

講義はセミナー形式で進める。題材は最新の科学の動向と、各自の研究の進展状況により適宜決定する。受講者の研究テーマおよび将来問題となる予想される触媒、表面、センサおよび関連分野に関する諸問題の中からテーマを選定する。題材は学生が自主的に選定する。

●教科書

関連する学術論文、総説、成書をテキストとする。最新の学術論文ないしは当該分野の総説が望ましい

●参考書

関連する学術論文、総説、成書を参考にすること

●評価方法と基準

セミナーにおける口頭発表(50%)とそれに対する質疑応答(50%)により評価する。

平成23年度以降入学者

100~90点：S、89~80点：A、79~70点：B、69~60点：C、59点以下：F

平成22年度以前入学者

100~80点：A、79~70点：B、69~60点：C、59点以下：D

●履修条件・注意事項

●質問への対応

質問への対応：講義終了時口頭でまたは下記に連絡。

薩摩 篤 4608 satsuna@apchem.nagoya-u.ac.jp

沢邊恭一 2610 sawabe@apchem.nagoya-u.ac.jp



無機材料設計セミナー 1B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	応用化学分野	分子化学工学分野 材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期 1	1年後期	1年後期 1年後期
教員	北 英紀 教授	棚橋 満 講師

●本講座の目的およびねらい  
【担当：北】  
無機微粒子を原料とする材料やプロセスについて基礎知識を習得するとともに、それらを利活用した製品やその使用方法を創造できる応用力・総合力を養う。また高機能だけでなく、製品のライフサイクルを俯瞰し、環境負荷や資源消費が少ない環境調和型のプロセスや評価指標について理解を深める。

【担当：棚橋】  
微粒子制御およびその技術の機能材料設計・開発への応用に関する学術文献を輪読・発表し、これらの分野に関する最新知識および研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方などについて習得するとともに、関連分野の研究動向について調査し、理解を深めることを通して、修士論文テーマの位置づけを明確にする。

達成目標  
1. 微粒子制御の背景にある粒子の界面科学および分散凝集現象の基礎理論について理解し、説明できる。  
2. 最近の微粒子制御技術およびその技術の機能材料設計・開発への応用に関して、その原理・特徴を理解し、説明できる。  
3. 習得した基礎知識を修士論文研究テーマの位置づけの明確化に応用すると共に、研究への取り組み方、進め方、研究方法などについて決定する。

●バックグラウンドとなる科目  
物理化学、材料界面工学、機能開発工学特論

●授業内容  
【担当：北】  
関連文献の読み合わせ、議論によって理解を深める

【担当：棚橋】  
微粒子特性評価、微粒子制御技術、機能材料設計・開発への応用、各学生の修士論文テーマに関わる文献の輪読を行う。

●教科書  
教科書は特に定めない。輪読する文献は、セミナーの進行に合わせて適宜選択し、配布する。

●参考書  
例えば、J. N. Israelachvili: Intermolecular and Surface Forces, Second Edition: With Applications to Colloidal and Biological Systems, Academic Press, 1992

●評価方法と基準  
達成目標に対する評価の重みは同等。レポート(30点)、口頭発表(50点)及びそれに対する質疑応答・討論(20点)にて総合的に目標達成度を評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。

●履修条件・注意事項  
●質問への対応  
セミナー時に対応する。  
担当教員連絡先：北 hkita@nuce.nagoya-u.ac.jp, 棚橋 mtana@nunse.nagoya-u.ac.jp

無機材料設計セミナー 1C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	応用化学分野	分子化学工学分野 材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期 1	2年前期	2年前期 2年前期 2年前期
教員	藤原 篤 教授	沢邊 恭一 講師 大山 順也 助教

●本講座の目的およびねらい  
目的 無機の機能性材料である固体触媒、ガスセンサ、単結晶表面における材料設計、構造解析およびその周辺分野を対象として、関連する文献を輪読し、あるいは、文献をまとめて総括し、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方などについて修得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。  
ねらい この講義を通して、これまでの学習の基礎力を確認し、固体触媒に関する応用力を身につけながら総合的に理解する。課題により数値的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力、考え抜く力、知識・技能・態度等を総合的に活用する能力、自主的な課題解決する能力が必要とされる。

●バックグラウンドとなる科目  
触媒・表面化学、反応速度論、熱力学、量子化学、構造化学、および化学全領域の基礎

●授業内容  
講義はセミナー形式で進める。題材は最新の科学の動向と、各自の研究の進展状況により適宜決定する。受講者の研究テーマおよび将来問題となると予想される触媒、表面、センサおよび関連分野に関する諸問題の中からテーマを選定する。いくつかの最新論文のまとめを発表する。

●教科書  
関連する学術論文、総説、成書をテキストとする最新の学術論文ないしは当該分野の総説が望ましい

●参考書  
関連する学術論文、総説、成書を参考にする

●評価方法と基準  
セミナーにおける口頭発表(50%)とそれに対する質疑応答(50%)により評価する。口頭発表者は前日までに発表用の資料を用意すること。  
平成23年度以降入学者  
100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：F  
平成22年度以前入学者  
100～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：D

●履修条件・注意事項  
●質問への対応  
質問への対応：講義終了時口頭または連絡先satsuna@apchen.nagoya-u.ac.jp

無機材料設計セミナー 1C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	応用化学分野	分子化学工学分野 材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期 1	2年前期	2年前期 2年前期
教員	北 英紀 教授	棚橋 満 講師

●本講座の目的およびねらい  
【担当：北】  
無機微粒子を原料とする材料やプロセスについて基礎知識を習得するとともに、それらを利活用した製品やその使用方法を創造できる応用力・総合力を養う。また高機能だけでなく、製品のライフサイクルを俯瞰し、環境負荷や資源消費が少ない環境調和型のプロセスや評価指標について理解を深める。

【担当：棚橋】  
微粒子制御およびその技術の機能材料設計・開発への応用に関する学術文献を輪読・発表し、これらの分野に関する最新知識および研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方などについて習得するとともに、関連分野の研究動向について調査し、理解を深めることを通して、修士論文の完成に向けての議論をする。

達成目標  
1. 微粒子制御の背景にある粒子の界面科学および分散凝集現象の基礎理論について理解し、説明できる。  
2. 最近の微粒子制御技術およびその技術の機能材料設計・開発への応用に関して、その原理・特徴を理解し、説明できる。  
3. 修士論文研究テーマの研究計画とその結果に基づき、論文完成のために残された課題を抽出しその対応法を決定する応用力を身につける。

●バックグラウンドとなる科目  
物理化学、材料界面工学、無機材料設計特別実験及び演習

●授業内容  
【担当：北】  
関連文献の読み合わせ、議論によって理解を深める

【担当：棚橋】  
微粒子特性評価、微粒子制御技術、機能材料設計・開発への応用、各学生の修士論文テーマに関わる文献の輪読を行う。

●教科書  
教科書は特に定めない。輪読する文献は、セミナーの進行に合わせて適宜選択し、配布する。

●参考書  
例えば、J. N. Israelachvili: Intermolecular and Surface Forces, Second Edition: With Applications to Colloidal and Biological Systems, Academic Press, 1992

●評価方法と基準  
達成目標に対する評価の重みは同等。レポート(30点)、口頭発表(50点)及びそれに対する質疑応答・討論(20点)にて総合的に目標達成度を評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。

●履修条件・注意事項  
●質問への対応  
セミナー時に対応する。  
担当教員連絡先：北 hkita@nuce.nagoya-u.ac.jp, 棚橋 mtana@nunse.nagoya-u.ac.jp

無機材料設計セミナー 1D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	応用化学分野	分子化学工学分野 材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期 1	2年後期	2年後期 2年後期 2年後期
教員	藤原 篤 教授	沢邊 恭一 講師 大山 順也 助教

●本講座の目的およびねらい  
目的 無機の機能性材料である固体触媒、ガスセンサ、単結晶表面における材料設計、構造解析およびその周辺分野を対象として、関連する文献を輪読し、あるいは、文献をまとめて総括し、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方などについて修得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。  
ねらい この講義を通して、これまでの学習の基礎力を確認し、固体触媒に関する応用力を身につけながら総合的に理解する。課題により数値的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力、考え抜く力、知識・技能・態度等を総合的に活用する能力、自主的な課題解決する能力が必要とされる。

●バックグラウンドとなる科目  
触媒・表面化学、反応速度論、熱力学、量子化学、構造化学、および化学全領域の基礎

●授業内容  
講義はセミナー形式で進める。題材は最新の科学の動向と、各自の研究の進展状況により適宜決定する。受講者の研究テーマおよび将来問題となると予想される触媒、表面、センサおよび関連分野に関する諸問題の中からテーマを選定する。修士論文に関連する分野のミニ総説を発表する。

●教科書  
関連する学術論文、総説、成書をテキストとする最新の学術論文ないしは当該分野の総説が望ましい

●参考書  
関連する学術論文、総説、成書を参考にする

●評価方法と基準  
セミナーにおける口頭発表(50%)とそれに対する質疑応答(50%)により評価する。平成23年度以降入学者  
100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：F  
平成22年度以前入学者  
100～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：D

●履修条件・注意事項  
●質問への対応  
質問への対応：講義終了時口頭または連絡先satsuna@apchen.nagoya-u.ac.jp

無機材料設計セミナー 1D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	応用化学分野	分子化学工学分野 材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期 1	2 年後期	2 年後期 2 年後期
教員	北 英紀 教授	棚橋 満 講師

●本講座の目的およびねらい  
【担当：北】  
無機微粒子を原料とする材料やプロセスについて基礎知識を習得するとともに、それらを活用した製品やその使用方法を創造できる応用力・総合力を養う。また高機能だけでなく、製品のライフサイクルを俯瞰し、環境負荷や資源消費が少ない環境調和型のプロセスや評価指標について理解を深める。

【担当：棚橋】  
微粒子制御およびその技術の機能材料設計・開発への応用に関する学術文献を輪読・発表し、これらの分野に関する最新知識および研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方などについて習得するとともに、関連分野の研究動向について調査し、理解を深めることを通じて、修士論文のテーマに沿った実験研究の計画および結果に基づき、論文の完成に向けての議論をする。

達成目標  
1. 微粒子制御の背景にある粒子の界面科学および分散凝集現象の基礎理論について理解し、説明できる。  
2. 最近の微粒子制御技術およびその技術の機能材料設計・開発への応用に関して、その原理・特徴を理解し、説明できる。  
3. 修士論文研究テーマの研究成果のまとめに繋げる応用力を身につける。

●バックグラウンドとなる科目  
物理化学、材料界面工学、機能開発工学特論、無機材料設計特別実験及び演習、物質制御工学総合プロジェクト 1

●授業内容  
【担当：北】  
関連文献の読み合わせ、議論によって理解を深める

【担当：棚橋】  
微粒子特性評価、微粒子制御技術、機能材料設計・開発への応用、各学生の修士論文テーマに関わる文献の輪読を行う。

●教科書  
教科書は特に定めない。輪読する文献は、セミナーの進行に合わせて適宜選択し、配布する。

●参考書  
例えば、J. N. Israelachvili: Intermolecular and Surface Forces, Second Edition: With Applications to Colloidal and Biological Systems, Academic Press, 1992

●評価方法と基準  
達成目標に対する評価の重みは同等。レポート (30点)、口頭発表 (50点) 及びそれに対する質疑応答・討論 (20点) にて総合的に目標達成度を評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。

●履修条件・注意事項  
●質問への対応  
セミナー時に対応する。  
担当教員連絡先: 北 hkita@nuce.nagoya-u.ac.jp、棚橋 mtanaka@nuce.nagoya-u.ac.jp

エネルギー創成・貯蔵材料工学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期 1	1 年前期	
教員	元廣 友美 教授	

●本講座の目的およびねらい  
次世代のエネルギー創成手段および貯蔵手段について、最新の研究開発動向を背景に、その基本となる知識を身につける。達成目標: 最新の研究開発につき、その原理と方向性、必要となる知識、科学技術分野の概要を把握でき、その研究開発に何が必要とされるか、何を学んでいけば良いかを把握できる総合力を身につける。

●バックグラウンドとなる科目  
半導体材料学、機能材料学、固体電子論、材料物理学

●授業内容  
1. 太陽光発電  
1.1. 有機太陽電池 (色素増感型太陽電池 他)  
1.2. 無機太陽電池 (CZTS薄膜型太陽電池 他)  
1.3. 第3世代太陽電池 (量子ドット太陽電池、レクテナ 他)  
2. 太陽熱発電 (集光型、熱電素子、熱電子素子、他)  
3. 太陽光励起レーザー  
4. 核融合 (レーザー核融合 他)  
5. 人工光合成  
6. 次世代エネルギー貯蔵 (超電導磁気エネルギー貯蔵 他)

●教科書  
教科書は指定しない。必要な資料は、配布する。

●参考書  
重要な文献は、適宜、授業中に紹介する。

●評価方法と基準  
レポートにより目標達成度を評価する。100点満点で、60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項  
特になし。

●質問への対応  
講義終了時。電子メール motohiro@gvm.nagoya-u.ac.jp  
担当教員連絡先: 内線4643 (工学部3号館南577室)

薄膜材料工学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期 1	2 年後期	
教員	元廣 友美 教授	

●本講座の目的およびねらい  
極めて最もよく使われるスパッタ薄膜を中心に、あまり教科書では説明される機会の少ない経験的視点と、モンテカルロシミュレーションを用いた解析の視点から、薄膜の基礎力を身につける。達成目標: 真空の物理を含むスパッタ成膜の基礎となる物理現象の理解。薄膜以外にも多くの分野に適用可能な簡単な計算機利用解析手法であるモンテカルロシミュレーション技術の基礎の習得・理解

●バックグラウンドとなる科目  
特に必要としないが、物理化学や電磁気学、応用数学の基礎知識

●授業内容  
1. 高速中性粒子と負イオン  
2. イオンビームの作り方と、スパッタ粒子の角度分布  
3. スパッタカソードの作り方と膜厚力  
4. 膜中に含まれる Ar  
5. 平均自由行程の意味と組成ずれ  
6. スパッタガスの選択 (He, Ne, Ar, Kr, Xe, O<sub>2</sub>, N<sub>2</sub>)  
7. スパッタ粒子の大きさ (剛体球から分子軌道法まで)  
8. モンテカルロシミュレーションの活用 (ターゲット上でのスパッタリング、輸送プロセス、成膜プロセス)  
9. スパッタ膜の内部構造 (ナノ複合構造、スパイラル組織等) と機能  
10. スパッタ膜の機能評価 (分光エリブソメトリー、触媒表面反応)

●教科書  
教科書は指定しない。必要な資料は、配布する。

●参考書  
適宜、紹介する。

●評価方法と基準  
レポートにより目標達成度を評価する。100点満点で、60点以上を合格とする

●履修条件・注意事項  
特になし。

●質問への対応  
講義終了時。電子メール motohiro@gvm.nagoya-u.ac.jp  
担当教員連絡先: 内線4643 (工学部3号館南577室)

高圧力物質科学特論 I (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	結晶材料工学専攻
開講時期 1	1 年後期	2 年後期
教員	長谷川 正 教授	

●本講座の目的およびねらい  
高圧力実験に関わる原理や様々な技術および装置について学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目  
結晶化学、結晶物理、物性物理、無機化学、材料力学、相変態論、伝熱、結晶成長論

●授業内容  
1. 基礎 2. アンビルの選択 \ 3. 高温発生 \ 4. X線測定 \ 5. 光学測定

●教科書  
初回の講義に紹介する。

●参考書  
超高压の世界: 八木健彦著 (岩波書店)

●評価方法と基準  
口頭試問およびレポート

●履修条件・注意事項  
●質問への対応

高圧力物質科学特論Ⅱ (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	結晶材料工学専攻
開講時期1	2年後期	1年後期
教員	長谷川 正 教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 超高压下での合成実験に関わる原理や様々な技術および装置について学ぶ。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 結晶化学、結晶物理、物性物理、無機化学、材料力学、相変態論、伝熱、結晶成長論</p> <p>●授業内容 1. 基礎と技術および装置 2. 電子遷移と物質創製 3. 無機物質創製 4. 単結晶育成 5. 有機物質創製</p> <p>●教科書 必要に応じてプリント資料を配布</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 口頭発表と質疑応答およびレポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

結晶成長プロセス特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	結晶材料工学専攻
開講時期1	1年前期	1年前期
教員	宇治原 徹 教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 融液成長、溶液成長、気相成長など、結晶成長にはいくつかの形態があるが、驚くことにその素過程はほぼ共通している。しかも、金属、半導体といった無機材料から、タンパク質結晶のような分子鎖の大きな巨大分子まで、分子間相互作用の種類こそ異なるが、メカニズムはほぼ同じである。本講義では、基礎としての結晶成長の素過程を深く理解することを目的とし、結晶成長の一般理論について理解する。</p> <p>・ 達成目標 (1) 結晶成長の一般論を確実に理解し、説明できる。 (2) 結晶成長理論を自らの研究対象に応用できる能力を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 相変換工学、材料物理化学、材料物理学、移動現象論、結晶物理学、数学2及び演習</p> <p>●授業内容 1. 二次元核形成とスパイラル成長 2. 結晶成長速度 3. 表面モフォロジー 4. 結晶の外形</p> <p>●教科書 教科書は授業中に指示</p> <p>●参考書 特になし</p> <p>●評価方法と基準 レポート50%と授業時における諮問50%で評価。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 <a href="http://www.nunse.nagoya-u.ac.jp/ujihara/">http://www.nunse.nagoya-u.ac.jp/ujihara/</a></p>		

結晶成長工学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	結晶材料工学専攻
開講時期1	2年前期	2年前期
教員	宇治原 徹 教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 結晶成長過程は、典型的な非平衡統計力学に基づくパターン形成の問題である。本講義では、その基礎となる統計力学、拡散方程式、熱拡散方程式の詳細を学習し、パターン形成過程の起源から最終的な形状形成までを理解する。</p> <p>・ 達成目標 (1) 状態図、拡散方程式の一般論を確実に理解し、説明できる。 (2) 結晶成長におけるパターン形成を自らの研究対象に応用できる能力を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 相変換工学、材料物理化学、材料物理学、移動現象論、結晶物理学、数学2及び演習</p> <p>●授業内容 1. 状態図と統計力学 2. 拡散方程式 3. DLAモデル、フェーズフィールドモデル 4. パターン形成</p> <p>●教科書 講義中に指示する。</p> <p>●参考書 配布する</p> <p>●評価方法と基準 レポート50%と講義中の質疑50%で評価</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 <a href="http://www.nunse.nagoya-u.ac.jp/ujihara/">http://www.nunse.nagoya-u.ac.jp/ujihara/</a></p>		

材料再生プロセス工学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	平澤 政廣 教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 材料リサイクルについて、主としてプロセス工学の観点から学び、材料リサイクルプロセスの理解と開発に役立つ工学の基礎を身につける。地球環境問題において材料リサイクルが果たすべき役割について理解し、種々の材料リサイクルプロセスについての各論において、材料リサイクルの現状と課題を学習する。</p> <p>1. 無機、有機系材料のリサイクルプロセスについて理解し、解説できる。 2. 材料リサイクルプロセスのエネルギー論的原理を理解し、解説できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 化学基礎I・II、無機化学、物理化学、材料物理化学、応用熱力学、移動現象論、金属反応論、素材プロセス工学第1・第2</p> <p>●授業内容 1. 地球環境問題と材料リサイクルの関連 2. 鉄鋼素材のリサイクルプロセスの現状 3. 製鉄ダストの処理、鉄スクラップのトランプエレメント問題 4. 非鉄金属（アルミニウム、銅、亜鉛etc.）のリサイクルプロセス 5. レアメタルのリサイクルプロセス 6. 貴金属のリサイクルプロセス 7. プラスチック製品のリサイクルの現状と課題</p> <p>●教科書 教科書は特に定めなし。適宜、プリントを配布する。</p> <p>●参考書 化学工学の進歩35 廃棄物の処理：化学工学会・環境パートナーシップCLUB共編（楢書店）</p> <p>●評価方法と基準 課題レポート（100%）または筆記試験（100%）</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 質問への対応：講義終了時または下記に連絡 担当教員連絡先：内線 5309 hirasawa@nunse.nagoya-u.ac.jp</p>		

材料反応工学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期	1年後期	
教員	平澤 政廣 教授	

- 本講座の目的およびねらい  
各種材料の製造プロセスや材料リサイクルプロセスにおいては、化学反応が重要な役割を果たす。本特論では、輪講形式で、それらのプロセスの理解と研究・開発に役立つ反応工学の知識を習得する。具体的内容としては、反応速度論と移動現象論が基調となる。  
1. 反応速度論の基礎と発展的内容について理解し、解説できる。  
2. 物質移動現象の基礎と発展的内容について理解し、解説ができる。
- バックグラウンドとなる科目  
化学基礎1・11、無機化学、物理化学、材料物理化学、応用熱力学、移動現象論、金属反応論、素材プロセス工学第1・第2
- 授業内容  
1. 均質反応の速度論  
2. 回分反応器の反応解析  
3. 流通反応器の反応解析  
4. 同時反応の取り扱い  
5. 不均質反応系における反応速度  
6. 固体-流体、流体-流体反応系
- 教科書  
0. Levenspiel : Chemical Reaction Engineering, 3rd ed., Wiley & Sons
- 参考書
- 評価方法と基準  
問題演習 (50%) と課題レポート (50%) , または、問題演習 (50%) と筆記試験 (50%)
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応  
質問への対応：講義終了時または下記に連絡のこと  
担当教員連絡先：内線 5309 hirasawa@numse.nagoya-u.ac.jp

材料表面化学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期	2年後期	
教員	興戸 正純 教授	黒田 健介 准教授

- 本講座の目的およびねらい  
材料の表面、界面の物理化学的現象について表面化学と電気化学的見地から知識を深める。
- バックグラウンドとなる科目  
物理化学、材料物理化学、表面物理化学、素材プロセス工学第2
- 授業内容  
1. 界面現象に関わる基礎的事項 (電極電位、界面二重層、吸着など) ; 2. 腐食の基礎 (均一・不均一腐食、不働態、インピーダンスなど) ; 3. 機能化表面の基礎 (モルフォロジー、配向性、化学組成など)
- 教科書
- 参考書  
例えば Comprehensive Treatises of Electrochemistry(Conway)
- 評価方法と基準  
筆記試験およびレポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

電気化学プロセス特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	結晶材料工学専攻
開講時期	1年前期	1年前期
教員	興戸 正純 教授	黒田 健介 准教授

- 本講座の目的およびねらい  
本特論では、電池と電解、めっき、腐食・防食などの電気化学反応に基づく現象や処理方法ならびに電気化学計測法について理解する。またこれに先立ち、電気化学反応の基礎的事柄について再習得することにより、電気化学の基礎から応用までの理解を深める。
- バックグラウンドとなる科目  
物理化学、材料物理化学、材料物理化学、表面物理化学、素材プロセス工学第2
- 授業内容  
I. 基本的事項の確認  
1. アノード・カソード 酸化・還元  
2. ファラデーの法則  
3. 電位とネルンストの式、貴卑、熱力学と電気化学  $\Delta G$  と E  
4. 標準電極電位とイオン化剤  
5. 参照電極、参照電極の電位  
6. 単極電位 (第1種、第2種、第3種)  
7. E-pH図の描き方と見かた、使い方  
8. E-pH図とポテンシャルダイアグラム  
9. 過電圧と分極、分極曲線  
10. バトラー・ホルマーの式、ターフェルの式  
11. 水素過電圧、酸素過電圧  
  
II. 電池反応と電解反応  
1. 電池の構成と電極反応、起電力  
2. 電池の起電力と単極電位  
3. 電解めっき (カソード反応)  
4. 無電解めっき  
5. 陽極酸化 (アノード反応)  
6. 腐食・防食  
  
III. 電気化学計測  
1. 電位差測定  
2. サイクリック・ボルタメトリー  
3. クロノポテンショメトリー  
4. クロノアンペロメトリー  
5. 交流インピーダンス法
- 教科書
- 参考書  
例えば  
日本金属学会 金属化学入門シリーズ4 材料電子化学  
松田好晴, 岩倉千秋 著 電気化学概論 (丸善)  
春山志郎 著 表面技術者のための電気化学 (第2版) (丸善)
- 評価方法と基準  
レポートおよび筆記試験により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

電気化学プロセス特論 (2.0単位)

- 履修条件・注意事項  
特になし
- 質問への対応  
講義終了時に対応する。それ以外は、メールにて事前連絡の上、対応する。  
担当教員連絡先 kuroda@numse.nagoya-u.ac.jp

電気化学測定特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	全分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	入山 森寿 教授	

●本講座の目的およびねらい  
蓄電池、燃料電池などのエネルギー変換デバイスを評価する手法の一つとして、電気化学測定法がある。本講義では、はじめに電極反応機構を理解し、その後、サイクリックボルタンメトリー法、パルス法・ステップ法、インピーダンス法、回転電極法等の電気化学測定手法を学ぶ。これらの測定を用いた材料評価の例についても併せて紹介する。

●バックグラウンドとなる科目  
化学基礎Ⅰ、化学基礎Ⅱ、物理化学、材料物理化学

●授業内容

1. 電気化学測定の基礎
  1. 1 電極反応の基礎 一電荷移動反応一
  1. 2 物質移動を伴う電極反応
2. 電気化学測定法
  2. 1 インピーダンス法
  2. 2 サイクリックボルタンメトリー法
  2. 3 パルス法・ステップ法
  2. 4 回転電極法
3. 電気化学測定を用いた材料評価の実例

●教科書

電気化学測定マニュアル 基礎編 電気化学会 編 (丸善)

●参考書

表面技術者のための電気化学 第2版  
春山志郎/著  
丸善

電気化学法 基礎測定マニュアル  
辻坂哲彌、小山昇、大坂武男/著  
講談社サイエンティフィック

●評価方法と基準

レポート課題で評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。

●履修条件・注意事項

特になし。

●質問への対応

講義終了後に対応します。

固体イオニクス材料特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	全分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	入山 森寿 教授	

●本講座の目的およびねらい  
固体電解質やインターカレーション材料内部でのイオン移動現象に関する英文教科書を用いて、イオン伝導率に関わる因子、イオン挿入脱離反応に伴う相変化と電気化学的挙動との相関、について総合的な知識を習得すると共に、二次電池の高性能材料の開発につながる応用力を養うことを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目  
無機化学、電気化学、物理化学

●授業内容

1. 結晶電解質のイオン移動
2. ガラス電解質のイオン移動
3. インターカレーション材料のイオン挿入脱離反応に伴う相変化
4. リチウムイオン電池材料の相変化とサイクリックボルタンメトリー

●教科書

Solid State Electrochemistry  
P.C. Bruce (ed.)  
Cambridge Univ. Press (1997)

●参考書

固体内イオン移動現象に関わる学術雑誌、例えば J. Electrochem. Soc., J. Power Sources, Solid State Ionics など。  
必要に応じて 特論で紹介をする。

●評価方法と基準

セミナーにおけるレポート資料、口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。  
口頭発表 (50%)、レポート (30%)、討論への参加 (20%)

●履修条件・注意事項

特になし。  
ただし、担当箇所については、十分予習をすること。

●質問への対応

セミナー時に対応する。

材料計測工学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	全分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	齋藤 永宏 教授	

●本講座の目的およびねらい  
材料計測解析工学の基礎となる各種計測法、解析法の知識を深めることを目的とする。材料プロセスにおけるセンサー技術、特に光ファイバーを用いたセンシング技術ならびに走査型プローブ顕微鏡による計測技術について学ぶ。デジタル信号処理による波形信号解析および画像処理についても学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目  
統計力学A、量子力学A、表面物理化学、材料物性学、半導体材料学、材料プロセス計測工学、薄膜・結晶成長論

●授業内容

1. 材料工学における計測法、解析法; 2. 材料プロセスにおけるセンサー; 3. 光ファイバーを用いたセンシング; 4. 走査型プローブ顕微鏡; 5. 信号処理、画像処理

●教科書

●参考書

●評価方法と基準  
筆記試験およびレポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

プラズマ材料工学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	全分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	齋藤 永宏 教授	

●本講座の目的およびねらい  
現在いるるな工業分野で応用させているプラズマを用いた材料プロセッシングについての理解を深めることを目的とする。プラズマの基礎過程、プラズマ中の反応、プラズマの計測、解析法およびプラズマの薄膜形成プロセス・表面改質プロセスへの応用を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目  
統計力学A、量子力学A、表面物理化学、材料物性学、半導体材料学、材料プロセス計測工学、薄膜・結晶成長論、材料計測解析工学セミナー1-1、材料計測工学特論

●授業内容

1. 序論・ガイダンス; 2. プラズマとは?; 3. プラズマの生成法; 4. プラズマ物理化学の基礎; 5. プラズマの応用; 6. プラズマ計測法; 7. プラズマ技術の最近のトピック

●教科書

●参考書

●評価方法と基準  
筆記試験およびレポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

— 塑性計算力学特論 (2.0単位) —

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	石川 季司 教授 湯川 伸樹 准教授	

- 本講座の目的およびねらい  
材料の塑性変形挙動をより深く理解するために、計算機による材料の塑性変形の各種力学的解析手法を学ぶ。塑性力学の基礎理論から最近の解析法について学習し、理論的に現象を考察できる基礎力を養う。
- バックグラウンドとなる科目  
材料力学、構造材料科学、材料塑性加工学
- 授業内容  
1. 材料の塑性力学およびその応用：2. 剛塑性および弾塑性有限要素解析：3. C A Eの適用事例
- 教科書
- 参考書
- 評価方法及び基準  
筆記試験あるいはレポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

— 材料塑性加工学特論 (2.0単位) —

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	石川 季司 教授 湯川 伸樹 准教授	

- 本講座の目的およびねらい  
塑性加工をより深く理解するために、高度な塑性加工解析技術を学ぶ。有限要素法の基礎について学習し、その適用事例を学ぶことで塑性加工解析の基礎力と応用力を養う。
- バックグラウンドとなる科目  
材料力学、材料塑性加工学、
- 授業内容  
1. 塑性加工の力学的解析法  
2. 有限要素解析の基礎  
3. 塑性加工における材料の挙動の解析  
4. 有限要素解析適用事例  
5. 破壊予測  
6. 組織変化予測  
7. 温度連成解析
- 教科書
- 参考書
- 評価方法及び基準  
筆記試験およびレポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応  
石川季司 (工学研究科マテリアル理工学専攻)  
5号館205室, Tel: 789-3256, ishikawa@numse.nagoya-u.ac.jp

— 鍛造特論 (2.0単位) —

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年前後期	
教員	石川 季司 教授 湯川 伸樹 准教授 非常勤講師 (材料)	

- 本講座の目的およびねらい  
産学連携人材育成事業「鍛造マネージャー育成塾」(中核人材育成事業)の講義・実習の基礎部分に社会人(実務経験5年以上)と一っしょに学ぶことで、鍛造技術を通じてものづくりに対する意識を高め、基礎力と応用力を養う。実験、演習とプレゼンテーションでコミュニケーション能力、発表能力等の向上を図る。  
定員20名、6日間の集中講義形式(ガイダンスで説明する。)
- バックグラウンドとなる科目  
材料力学第1、構造材料科学、材料塑性加工学
- 授業内容  
1. 鍛造技術の概要  
2. 鍛造方法及び鍛造品  
3. 経営と管理  
4. 鍛造現場の問題・課題解決成功事例  
5. 自動車会社における鍛造  
6. 工場見学(プレゼンテーション)  
7. 塑性変形(変形機構、変形抵抗、延性)  
8. 鍛造用材料  
9. 熱処理の基礎技術  
10. 鍛造材料の適用事例研究(プレゼンテーション)  
11. 実験(変形抵抗測定、鍛造性評価試験)  
12. 実験結果の整理と結果発表(プレゼンテーション)  
13. 加工力、面圧の計算(加工力に関する計算演習)  
14. コンピューターシミュレーションの基礎入門
- 教科書  
テキスト配布
- 参考書
- 評価方法及び基準  
レポートおよびプレゼンテーション
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

— 材料強度学特論 I (2.0単位) —

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	田川 哲哉 准教授	

- 本講座の目的およびねらい  
材料強度の考え方をより深く理解するために、各種構造材料における破壊機構と材料強度の特徴の基礎を学ぶ。それらに基づき、各種材料強度を支配する材料因子、力学因子を考える応用力を身につける。
- バックグラウンドとなる科目  
材料強度学、材料力学、構造材料科学
- 授業内容  
1. 理論強度と工業材料の強度 2. 各種構造材料の破壊形態とその特徴 3. 金属材料の静的破壊の機構と支配因子 4. 金属疲労の機構と評価手法
- 教科書  
なし
- 参考書  
「材料強度学」: (日本材料学会), Fracture Mechanics -second edition- (CRC press)
- 評価方法及び基準  
筆記試験あるいはレポートで評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応  
講義終了時または下記に連絡のこと。担当教員連絡先: 田川, 内線 3577, tagawa@numse.nagoya-u.ac.jp

材料強度学特論Ⅱ (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	田川 哲哉 准教授	

●本講座の目的およびねらい  
線形破壊力学とその理論的背景、破壊力学の非線形問題への適用に関する基礎知識を学ぶ。破壊力学を実構造の耐損傷管理手法へ応用する手法に関して理解を深める。

●バックグラウンドとなる科目  
材料強度学、材料力学、構造材料学

●授業内容  
1. き裂を有する弾性体、線形破壊力学の基礎2. 弾塑性破壊力学におけるパラメータとその物理的意味3. 破壊力学の適用限界4. 実機器、実構造体の損傷事故事例5. 破壊力学に基づく設計基準と維持管理基準

●教科書  
なし

●参考書  
「材料強度学」：(日本材料学会), Fracture Mechanics -second edition- (CRC press)

●評価方法と基準  
筆記試験あるいはレポートで評価する。

●履修条件・注意事項  
なし

●質問への対応  
講義終了または下記に連絡のこと。担当教員連絡先：田川, 内線 3577, tagawa@nunse.nagoya-u.ac.jp

高温物理化学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	藤澤 敏治 教授	

●本講座の目的およびねらい  
環境問題は21世紀の重要課題であるが、なかでも資源枯渇問題は、材料工学を学ぶ諸君にとっては、避けて通れない学習テーマである。金属系廃棄物のリサイクル、資源回収技術に関するテキストを用い、各種の廃棄物処理法、リサイクル技術、並びに資源回収技術に関して学習する。これにより材料プロセッシングに関する基礎力並びに応用力を養う。

達成目標：各種の材料プロセッシング技術に関する知識を深める。

●バックグラウンドとなる科目  
化学基礎Ⅰ・Ⅱ, 物理化学, 材料物理化学, 応用熱力学, 移動現象論, 金属反応論, 素材プロセス工学第2

●授業内容  
1. 各種の廃棄物処理法  
2. リサイクル技術  
3. 資源回収技術

●教科書  
WASTE MANAGEMENT SERIES 7; RESOURCE RECOVERY AND RECYCLING FROM METALLURGICAL WASTES, By S. RAMACHANDRA RAO, ELSEVIER

●参考書  
例えば、金属の化学的測定法(金属学会), Metallurgical Thermochemistry (Kubaschewski and Alcock)

●評価方法と基準  
レポート並びに口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。  
100～90点：S、89～80点：A、79～70点：B、69～60点：C、59点以下：F

●履修条件・注意事項  
特になし。

●質問への対応  
講義終了直後の講義室、あるいは教員室にて受け付ける。  
担当教員連絡先：内線 3613 E-mail fujisawa@nunse.nagoya-u.ac.jp

材料分離・精製工学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	藤澤 敏治 教授	

●本講座の目的およびねらい  
材料プロセッシングの物理化学的解析において必要不可欠な化学熱力学の知識を深めるとともに、知っている化学熱力学から使える化学熱力学へ変えることを目的として、高温化学熱力学を中心に学習する。  
これにより化学熱力学に関する基礎力並びに応用力を養う。

達成目標  
化学熱力学を材料プロセッシングの物理化学的解析ツールとして利用できるようになる。

●バックグラウンドとなる科目  
化学基礎Ⅰ・Ⅱ, 物理化学, 材料物理化学, 応用熱力学, 移動現象論, 金属反応論, 素材プロセス工学第2

●授業内容  
溶液論(分配比、キャパシティー、イオン性溶体、溶液モデル、酸化還元平衡など)や多元系相平衡(ボテンシャル状態図など)、実在する材料プロセスなどに関する各種の事例問題を用いて、問題に対する解答を導き出す過程を通じて、化学熱力学を材料プロセッシングの物理化学的解析ツールとして習得する。

●教科書  
使用しない(必要に応じてプリント資料を配布する)

●参考書  
例えば Introduction to the Thermodynamics of Materials, Third Edition by David R. Gaskell, Taylor and Francis Publishers Physical Chemistry of Melts in Metallurgy, F.D. Richardson, Academic Press

●評価方法と基準  
毎回提出を義務付けるレポートで評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。

●履修条件・注意事項  
なし

●質問への対応  
講義終了直後の講義室、あるいは教員室にて受け付ける。  
担当教員連絡先：内線 3613 E-mail fujisawa@nunse.nagoya-u.ac.jp

材料組織形成学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	量子工学専攻
開講時期1	2年前期	2年前期
教員	村田 純教 教授	

●本講座の目的およびねらい  
本講義は、構造用材料の諸特性を決定づける材料ミクロ組織の形成とその変化を熱力学に基づくエネルギーという視点で理解し、それを基に材料開発に対する考え方を説明します。

●バックグラウンドとなる科目  
材料物理学、金属材料学

●授業内容  
本講義では、以下のテーマについて講義を行う。1. ミクロ組織に関するエネルギー、2. 状態図の熱力学、3. 界面の熱力学、4. 拡散の熱力学、5. 組織変化の熱力学

●教科書  
ミクロ組織の熱力学(西澤泰二著、日本金属学会)

●参考書  
特になし

●評価方法と基準  
中間試験と定期試験の素点を成績とし、60%以上獲得した者を合格とする。

●履修条件・注意事項  
なし

●質問への対応  
電子メール

エネルギー材料組織学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	村田 純教 教授	
<p>●本講座の目的およびねらい エネルギーを有効利用するために必要なエネルギー変換機器などに用いられる構造材料を設計するために必要な材料組織の形成過程とその発現メカニズムについて具体例を挙げて説明する。:達成目標:1. 構造材料について理解する。:2. 構造材料の組織形成を理解し、説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 材料物理学、金属材料学第1、金属材料学第2</p> <p>●授業内容 1. 状態図と相変態、2. 全自由エネルギーと組織安定性、3. 発展方程式、4. フェーズフィールド法、5. 耐熱合金の設計指針</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 中間試験と定期試験の素点を成績とし、60%以上獲得した者を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 電子メール</p>		

複合材料設計学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	金武 直幸 教授 小橋 真准 教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 各種複合材料の力学特性、熱特性、物理特性について、その評価および理論予測の方法、それを基にした複合材料設計の考え方に関する知識を深める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 複合材料工学、材料力学第1、第2、材料強度学、弾塑性学</p> <p>●授業内容 1. スラプ法(複合則)の基礎と応用:2. 同心円筒モデル法の基礎と応用:3. シェアラグモデル法の基礎:4. エシェルビーモデル法の基礎:5. その他の特性評価方法(有限要素法、他)の概要:6. 複合材料の特性評価試験方法の概要</p> <p>●教科書 講義資料を配布する</p> <p>●参考書 An Introduction to Metal Matrix Composites : T.W.Clyne,P.J.Withers (Cambridge University Press)</p> <p>●評価方法と基準 口頭試験、レポート、期末試験を総合的に評価</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

複合プロセス工学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	金武 直幸 教授 小橋 真准 教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 金属基複合材料を中心に各種複合材料の基本的な製造プロセスを理解すると共に、応用例として異種材料間の界面現象や複合化に伴うマトリックス組織の変化に関する知識を深める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 複合材料工学、セラミック材料学、材料物理化学、材料物理学、材料成形学</p> <p>●授業内容 1. 液相プロセスによる複合材料の製造法 2. 固相プロセスによる複合材料の製造法 \ 3. 複合材料の各種二次加工法 \ 4. 強化相の複合化と転位組織 \ 5. 強化相の複合化と析出現象 \ 6. マトリックス金属の結晶組織変化と諸特性</p> <p>●教科書 An Introduction to Metal Matrix Composites : T. W. Clyne &amp; P. J. Withers (Cambridge University Press)</p> <p>●参考書 適宜、資料を配布する</p> <p>●評価方法と基準 レポート、期末試験を総合的に評価する。 100点満点で60点以上を合格とする。 評価方法: 100点満点で60点以上が合格。 &lt;平成23年度以降入・進学者&gt;</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 講義後の休憩時間、または、電子メールを行う。</p>		

スピン物性工学特論 I (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野 結晶材料工学専攻	
開講時期1	2年後期	
教員	浅野 秀文 教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 磁性の基礎、交換相互作用、関連現象について講述し、磁性・スピントロニクス分野の最先端研究を理解するための基礎知識を習得する事を目的とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子力学、材料物理学、材料物性学、結晶材料学基礎</p> <p>●授業内容 1. 磁性体の分類 (磁気特性、磁気構造、固体内電子状態) \ 2. 磁性と電子状態 (電子軌道、結晶場、分子磁場理論) \ 3. 局在電子系と過渡電子系 (各種の交換相互作用、電気伝導との関係) \ 4. 磁性関連現象と最近の話題 (マルチフェロイック、超磁歪、磁性と超伝導・・・) \</p> <p>●教科書 プリントを適宜配布する。</p> <p>●参考書 化合物磁性(過渡電子系):安達健五(装華房)、化合物磁性(局在スピンの系):安達健五(装華房)</p> <p>●評価方法と基準 レポートにより目標達成度を評価し、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		



スピロ物性工学特論II (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	結晶材料工学専攻
開講時期1	1年前期	1年前期
教員	植田 研二 准教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 遷移金属酸化物は、結晶形と組成の選択により、強磁性、強誘電性、超伝導等の多様な電氣的磁氣的特性を示す。本講義では遷移金属酸化物材料（特にペロブスカイト型酸化物材料）の性質、作製方法、磁気及び電気特性の制御手法について学び、酸化物材料分野の最先端理解を深めるための基礎知識を習得する事を目的とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子力学、固体物理学、結晶材料学基礎</p> <p>●授業内容 1. 遷移金属酸化物の基本的性質 2. 遷移金属酸化物薄膜作製方法 \ 3. 遷移金属酸化物の磁気、電気特性 \ 4. 遷移金属酸化物磁性複合材料（マルチフェロイック材料、磁性超伝導体等）</p> <p>●教科書 プリントを適宜配布する。</p> <p>●参考書 電気伝導性酸化物：津田、那須、藤森、白鳥（裳華房）</p> <p>●評価方法と基準 レポートにより目標達成度を評価し、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

材料ナノ構造設計学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	松永 克志 教授 中村 篤智 准教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 材料の持つ微視的構造やその安定性に対する理解を深めるために、電子状態理論とその計算手法、さらにその応用事例について学ぶことで、材料研究のための創造力と総合力を養成する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子力学1、量子力学2、固体電子論、量子化学</p> <p>●授業内容 ・量子力学の基礎 ・ハートリー・フォック法 ・密度汎関数法 ・結晶のバンド構造 ・さまざまな結晶の電子構造 ・金属錯体 ・点欠陥 ・粒界構造と特性 ・格子振動と有限温度物性</p> <p>●教科書 教科書は特に指定しないが、各回講義時に適宜資料を配布する。</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポートにより目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 特になし。ただし、毎回の講義後、講義資料を復習することが望まれる。</p> <p>●質問への対応 事前に担当教員に電話がメールで時間を打ち合わせる事。</p>		

材料機能設計学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	松永 克志 教授 中村 篤智 准教授 阿部 真之 准教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 最近のナノ構造形成技術の向上に伴い、材料研究においてもナノスケールでの構造把握が不可欠となっている。また、材料の原子レベルの構造と巨視的性質の関係についての理解も重要となっている。本講義では、電子・原子レベルでの材料構造解析および機能評価手法に関する知識、さらにそれを利用した材料機能の発現や向上を目指した最新の研究例について学ぶことで、材料研究のための基礎力と創造力を養成する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 結晶物理学1、結晶物理学2、固体電子論、量子力学1、量子化学</p> <p>●授業内容 ・材料の原子構造と電子状態 ・格子欠陥の幾何学的分類および微視的構造 ・走査型プローブ顕微鏡を使った材料構造解析 ・電子顕微鏡を用いた材料構造解析 ・格子欠陥由来の材料機能とその評価法 ・格子欠陥の構造制御法 ・最新の研究例紹介</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 特になし。ただし、毎回の講義後、講義資料を復習することが望まれる。</p> <p>●質問への対応 事前に担当教員に電話がメールで時間を打ち合わせる事。</p>		

ナノ構造評価学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	量子工学専攻
開講時期1	1年後期	1年後期
開講時期2	2年後期	2年後期
教員	山本 剛久 教授 佐々木 勝寛 准教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 学部で学習した材料の物理学的知識を基礎として、材料の微細構造の評価および制御について理解を深める。特に、電子回折理論、分析電子顕微鏡法について学ぶ。：達成目標：1. 電子回折理論に基づく電子顕微鏡像の解釈ができる。：2. 分析電子顕微鏡法の原理を理解し、説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 材料物理学、結晶物理学、格子欠陥論</p> <p>●授業内容 1. ガイダンス・基礎電子顕微鏡 2. 電子・物質相互作用I 散乱と回折 3. 電子・物質相互作用II 弾性散乱 4. 電子・物質相互作用IV 非弾性散乱と照射損傷 5. 装置・実験技術I 電子源 6. 装置・実験技術II レンズ・絞り・分解能 7. 装置・実験技術III いかに電子を見るか 8. 装置・実験技術IV 真空ポンプと試料ホルダー 9. 装置・実験技術V 様々な観察技術 10. 装置・実験技術VI 試料作成 11. 分析電子顕微鏡法概論 12. X線スペクトロスコーピー 13. 電子線エネルギー損失スペクトロスコーピー</p> <p>●教科書 教科書は指定しない。必要な資料を印刷して配布する。</p> <p>●参考書 坂公恭著 「結晶電子顕微鏡学」内田老鶴園</p> <p>●評価方法と基準 毎回出題する課題に対してのレポート 100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 随時</p> <p>5号館南館 317号室, Tel:789-3349, khsasaki@nagoya-u.jp</p>		

**シンクロトロン光物性学特論 (2.0単位)**

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	高橋 圭史 教授	伊藤 孝寛 准教授

●本講座の目的およびねらい  
 [加速器科学研究分野]  
 高エネルギーの電子から放射される電磁波の諸性質について理解する。特にシンクロトロン光源から放射される電磁波の基礎的性質について理解する。(達成目標)：1. 荷電粒子が加速を受けた場合に発生する電磁波の理論的記述方法の基礎を理解する。：2. 電子蓄積リングから発生する光の基礎的性質について理解する。

[物性研究分野]  
 電子状態の立場から材料の性質を理解するために必要な基礎的事項を理解する。応用例として、シンクロトロン光電子分光の原理およびその利用手法について学習する。(達成目標)：1. 材料の電子状態と電気的、磁気的性質の関係を理解する。：2. シンクロトロン光電子分光を用いた材料分析の特徴と利用手法について理解する。

●バックグラウンドとなる科目  
 力学I、II、電磁気学I、II、量子力学、固体物理学

●授業内容  
 [加速器科学研究分野]  
 1. 特殊相対性理論概要：2. 電子加速器の概要：3. 加速を受けた電子から発生する電磁波：4. 電子蓄積リングから発生する電磁波：5. 電子蓄積リングの挿入光源から発生する電磁波

[物性研究分野]  
 1. 固体の電子状態：2. 光電子分光法：3. 材料分析におけるシンクロトロン光電子分光の利用事例

●教科書  
 なし

●参考書  
 必要に応じて紹介する。

●評価方法及び基準  
 口頭発表、質疑応答、レポートを総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを得た学生に単位を認定する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
 質問への対応：電話あるいは電子メールで時間を相談の後、対応する。  
 連絡先：[加速器科学研究分野]内線5687 takasina@munse.nagoya-u.ac.jp; [物性研究分野]内線5347 t.ito@munse.nagoya-u.ac.jp

**シンクロトロン光応用工学特論 (2.0単位)**

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	高橋 圭史 教授	伊藤 孝寛 准教授

●本講座の目的およびねらい  
 [加速器科学研究分野]  
 シンクロトロン光源としての電子蓄積リングを中心に、さまざまな粒子加速器についての基礎的な原理、構造について理解する。(達成目標)：1. さまざまな粒子加速器の歴史、原理、構成について理解する。：2. 電子蓄積リングを周回する電子の運動について理解する。

[物性研究分野]  
 シンクロトロン光を利用した材料分析に対する応用手法と、そこから得られる材料の性質の基礎を理解する。(達成目標)：1. 電子分光の基礎的な原理を理解する。：2. 材料の電子状態、特にバンド構造およびフェルミ面と材料の性質の関係を理解する。3. シンクロトロン光を用いた電子分光による材料分析の特徴と利用手法について理解する。

●バックグラウンドとなる科目  
 力学I、II、電磁気学I、II、量子力学、固体物理学

●授業内容  
 [加速器科学研究分野]  
 1. 粒子加速器の種類と歴史：2. シンクロトロン光源としての電子加速器の構成と原理：3. 電子蓄積リングを周回する電子のふるまい

[物性研究分野]  
 1. シンクロトロン光を利用した分光法の種類と原理：2. 光電子分光法：3. シンクロトロン光電子分光を用いた材料分析

●教科書  
 なし

●参考書  
 必要に応じて紹介する。

●評価方法及び基準  
 口頭発表、質疑応答、レポートを総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを得た学生に単位を認定する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
 質問への対応：電話あるいは電子メール  
 連絡先：[加速器科学研究分野]内線5687 takasina@munse.nagoya-u.ac.jp; [物性研究分野]内線5347 t.ito@munse.nagoya-u.ac.jp

**分離計測特論 (2.0単位)**

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	齋藤 徹 准教授	松宮 弘明 准教授

●本講座の目的およびねらい  
 物理・化学・生物学的原理に基づく各種機器計測法について、また、物質の化学計測及び精製のための分離濃縮法につき、その原理と応用に關し、最近の進歩を踏まえて学ぶことにより、分離計測に關する基礎力と応用力を身につける。具体的な事例に豊富に接し、調査・整理することにより、目的に応じて適切な分離計測法を設計するための創造力・総合力・俯瞰力を養う。 達成目標 1. 各種計測法や分離濃縮法の原理、特徴及び応用について正しく理解する。 2. 各種計測法や分離濃縮法について科学・工学的な意義を説明できる。

●バックグラウンドとなる科目  
 化学基礎I・II、化学実験、分析化学1・2、無機化学、無機材料化学、物理化学、原子物理学、生化学

●授業内容  
 1. 微量成分分析及び機器分析に關する概論  
 2. 原子スペクトル分析の原理と最近の進展  
 3. バイオテクノロジー融合分析の進展  
 4. 分離分析の原理と最近の進歩  
 5. 材料分析、環境分析、生体分析への応用

●教科書  
 なし

●参考書  
 必要に応じて紹介する。

●評価方法及び基準  
 演習、小テストおよびレポートを課す。各教員が出題し、100点満点で60点以上を合格とする。  
 評価方法：  
 <平成23年度入・進学者>  
 S：100-90点、A：89-80点、B：79-70点、C：69-60点、D：59点以下  
 <平成22年度以前入・進学者>  
 A：100-80点、B：79-70点、C：69-60点、D：59点以下  
 演習と小テスト(60%)、レポート(40%)

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
 講義終了時後、教室で受け付ける。それ以外は、事前にメールで時間打合せのうえ対応する 齋藤 saitoh@munse.nagoya-u.ac.jp 松宮 hi-matsu@munse.nagoya-u.ac.jp

**機能開発工学特論 (2.0単位)**

科目区分	主専攻科目	主分野科目	
課程区分	前期課程		
授業形態	講義		
対象履修コース	分子化学工学分野	材料工学分野	物質制御工学専攻
開講時期1	1年前期	1年前期	1年前期
教員	北 英紀 教授	棚橋 満 講師	

●本講座の目的およびねらい  
 【境界・界面工学】担当：北  
 21世紀における技術開発や環境問題を考えるうえで、異なる相やシステムの境目である「界面・境界」の制御が益々重要である。本講義では界面・境界をキーワードにして、接合や、濡れ、吸収吸着といった、ものづくりの鍵となる現象とそのメカニズム、およびその応用について理解する。達成目標は、得られた基礎知識をもとに、自ら仮説をたて、新しいシステム、あるいは構造体を発案できることである。

【微粒子制御と機能材料設計・開発への応用】担当：棚橋  
 微粒子は、今や機能材料の設計・開発において必要不可欠な材料であり、この微粒子の分散挙動制御は最終製品としての材料特性を左右する重要技術である。本講義では、微粒子の分散制御技術に繋がる界面科学および分散凝集現象に關する基礎知識を得るとともに、高機能材料プロセスへ展開することができる応用力を習得する。達成目標  
 1. 微粒子の界面科学および分散凝集現象の基礎理論を理解し、説明できる。  
 2. 上記基礎理論を機能材料の設計およびそのプロセス開発に向けてのツールとして利用できる素養を身につける。

●バックグラウンドとなる科目  
 物理化学、材料界面工学

●授業内容  
 【境界・界面工学】  
 1. 液体、固体の表面エネルギー  
 2. 液/固体、固/固体の界面  
 3. トピックス (吸収・吸着、接合、環境問題など)

【微粒子制御と機能材料開発への応用】  
 1. 界面の物理化学  
 2. コロイド化学とDLVO理論  
 3. 素材・材料産業における微粒子制御技術

●教科書  
 特に指定しないが、必要に応じて講義資料を適宜配布する。

●参考書  
 例えば、J. N. Israelachvili: Intermolecular and Surface Forces, Second Edition: With Applications to Colloidal and Biological Systems, Academic Press, 1992

●評価方法及び基準  
 達成目標に対する評価の重みは同等である。レポートおよび筆記試験にて評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
 講義終了時または時間打ち合わせの上対応  
 担当教員連絡先：北 hkita@munse.nagoya-u.ac.jp

機能開発工学特論 (2.0単位)  
 柳橋 mtana@numse.nagoya-u.ac.jp

低環境負荷材料工学特論Ⅰ (2.0単位)  
 科目区分 主専攻科目 主分野科目  
 課程区分 前期課程  
 授業形態 講義  
 対象履修コース 材料工学分野  
 開講時期1 1年後期  
 教員 市野 良一 教授

- 本講座の目的およびねらい  
 資源循環に関わる低環境負荷プロセスとして、リサイクル技術を取り上げる。分離工学の基礎から新規分離技術開発・応用、さらには環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発の重要性について、基礎から応用に関する知識を習得する。
- バックグラウンドとなる科目  
 物理化学、素材プロセス工学第2、化学基礎1、2
- 授業内容  
 資源循環技術、分離工学技術、環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発等について、概説する。
- 教科書  
 なし
- 参考書  
 適宜指示する
- 評価方法と基準  
 筆記試験およびレポートにて60ポイント以降獲得した者に成績を与える。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応  
 担当教員の都合をメールにて確認したのち、進める。

低環境負荷材料工学特論Ⅱ (2.0単位)  
 科目区分 主専攻科目 主分野科目  
 課程区分 前期課程  
 授業形態 講義  
 対象履修コース 材料工学分野  
 開講時期1 2年後期  
 教員 市野 良一 教授

- 本講座の目的およびねらい  
 資源循環に関わる低環境負荷プロセスとして、リサイクル技術を取り上げる。分離工学の基礎から新規分離技術開発・応用、さらには環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発の重要性について、基礎から応用に関する知識を習得する。
- バックグラウンドとなる科目  
 物理化学、素材プロセス工学第2、化学基礎1、2
- 授業内容  
 資源循環技術、分離工学技術、環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発等について、概説する。
- 教科書  
 適宜指示する
- 参考書  
 適宜指示する
- 評価方法と基準  
 筆記試験およびレポートにて60ポイント以降獲得した者に成績を与える。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応  
 担当教員の都合をメールにて確認したのち、進める。

材料工学特論Ⅰ (1.0単位)  
 科目区分 主専攻科目 主分野科目  
 課程区分 前期課程  
 授業形態 講義  
 対象履修コース 材料工学分野  
 開講時期1 1年前後期  
 開講時期2 2年前後期  
 教員 非常勤講師 (材料) 非常勤講師 (応物) 非常勤講師 (量研)

- 本講座の目的およびねらい  
 企業、大学、研究所の一線で活躍している研究者、技術者を講師に迎え、材料工学の種々の研究分野における最近の研究に関する講義を受ける。本講義の受講により、材料工学に関わる最新の知識を学び、あわせて、受講生自らの研究分野における研究の位置づけを明確にし、また、異分野における研究のあり方について学んで自らの総合的視野を広げることが期待される。
- バックグラウンドとなる科目  
 マテリアル理工学専攻の各科目
- 授業内容  
 材料工学に関する特別講義
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準  
 試験またはレポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

材料工学特論 II (1.0単位)			
科目区分	主専攻科目	主分野科目	
課程区分	前期課程		
授業形態	講義		
対象履修コース	材料工学分野		
開講時期1	1年前後期		
開講時期2	2年前後期		
教員	非常勤講師 (材料)	非常勤講師 (応物)	非常勤講師 (量1)

---

●本講座の目的およびねらい  
 企業、大学、研究所の一端で活躍している研究者、技術者を講師に迎え、材料工学の種々の研究分野における最近の研究に関する講義を受ける。本講義の受講により、材料工学に関わる最新の知識を学び、あわせて、受講生自らの研究分野における研究の位置づけを明確にし、また、異分野における研究のあり方について学んで自らの総合的視野を広げることが期待される。

●バックグラウンドとなる科目  
 マテリアル理工学専攻の各科目

●授業内容  
 材料工学に関する特別講義

●教科書

●参考書

●評価方法と基準  
 試験またはレポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

材料工学特論 III (1.0単位)			
科目区分	主専攻科目	主分野科目	
課程区分	前期課程		
授業形態	講義		
対象履修コース	材料工学分野		
開講時期1	1年前後期		
開講時期2	2年前後期		
教員	非常勤講師 (材料)	非常勤講師 (応物)	非常勤講師 (量1)

---

●本講座の目的およびねらい  
 企業、大学、研究所の一端で活躍している研究者、技術者を講師に迎え、材料工学の種々の研究分野における最近の研究に関する講義を受ける。本講義の受講により、材料工学に関わる最新の知識を学び、あわせて、受講生自らの研究分野における研究の位置づけを明確にし、また、異分野における研究のあり方について学んで自らの総合的視野を広げることが期待される。

●バックグラウンドとなる科目  
 マテリアル理工学専攻の各科目

●授業内容  
 材料工学に関する特別講義

●教科書

●参考書

●評価方法と基準  
 試験またはレポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

材料工学特論 IV (1.0単位)			
科目区分	主専攻科目	主分野科目	
課程区分	前期課程		
授業形態	講義		
対象履修コース	材料工学分野		
開講時期1	1年前後期		
開講時期2	2年前後期		
教員	非常勤講師 (材料)	非常勤講師 (応物)	非常勤講師 (量1)

---

●本講座の目的およびねらい  
 企業、大学、研究所の一端で活躍している研究者、技術者を講師に迎え、材料工学の種々の研究分野における最近の研究に関する講義を受ける。本講義の受講により、材料工学に関わる最新の知識を学び、あわせて、受講生自らの研究分野における研究の位置づけを明確にし、また、異分野における研究のあり方について学んで自らの総合的視野を広げることが期待される。

●バックグラウンドとなる科目  
 マテリアル理工学専攻の各科目

●授業内容  
 材料工学に関する特別講義

●教科書

●参考書

●評価方法と基準  
 試験またはレポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

材料工学特別実験及び演習 A (1.0単位)			
科目区分	主専攻科目	主分野科目	
課程区分	前期課程		
授業形態	実験及び演習		
対象履修コース	材料工学分野		
開講時期1	1年前期		
教員	各教員 (材料)		

---

●本講座の目的およびねらい  
 材料工学特別実験及び演習 AおよびBでは、受講生は、研究室の指導教員の助言と指導を受けながら実験および演習を行うことにより、材料の機能と創成プロセスに関する諸分野の基礎的学問に関する理解を深めるとともに、工学の素養を涵養する。

●バックグラウンドとなる科目  
 マテリアル理工学専攻の各科目

●授業内容  
 1. テーマの設定と実験計画の策定 2. 理論と実験方法に関する演習 \ 3. 実験の実施、実験結果の解析 \ 4. 実験結果の考察、指導教員との討論 \ 5. 実験計画の修正

●教科書

●参考書

●評価方法と基準  
 指導教員による実験と演習の評価、レポート、口頭発表

●履修条件・注意事項

●質問への対応

材料工学特別実験及び演習 B (1.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	実験及び演習	
対象履修コース	材料工学分野	
開講時期 1	1 年後期	
教員	各教員 (材料)	
●本講座の目的およびねらい		
材料工学特別実験及び演習 AおよびBでは、受講生は、研究室の指導教員の助言と指導を受けながら実験および演習を行うことにより、材料の機能と創成プロセスに関する諸分野の基礎的学問に関する理解を深めるとともに、工学の素養を涵養する。		
●バックグラウンドとなる科目		
マテリアル理工学専攻の各科目		
●授業内容		
1. 前期からの実験計画による実験の実施 2. 理論と実験方法に関する演習 \ 3. 実験結果の解析 \ 4. 実験結果の考察、指導教員との討論 \ 5. まとめと発表		
●教科書		
●参考書		
●評価方法と基準		
指導教員による実験と演習の評価、レポート、口頭発表		
●履修条件・注意事項		
●質問への対応		

高度総合工学創造実験 (3.0単位)		
科目区分	総合工学科目	
課程区分	前期課程	
授業形態	実験及び演習	
全専攻・分野	共通	
開講時期 1	1 年前後期	
開講時期 2	2 年前後期	
教員	田川 智彦 教授	
●本講座の目的およびねらい		
異なる専門分野からなる数人のチームを編制し、企業からの非常勤講師(Directing Professor)の下に自主的研究を行う。		
その目的およびねらいは、		
1. 異種集団グループダイナミクスによる創造性の活性化、		
2. 異種集団グループダイナミクスならではの発明、発見体験、		
3. 自己専門の可能性と限界の認識、		
4. 自らの能力で知識を総合力化することである。		
●バックグラウンドとなる科目		
「高度総合工学創造実験」は、産学連携教育科目と位置づけられる。従って、「ベンチャービジネス特論 I, II」および学部開講科目「特許および知的財産」、「経営工学」、「産業と経済」、「工学倫理」等の同様の産学連携教育関連科目の履修を強く推奨する。		
●授業内容		
異なる専攻・学部の学生からなる数人で 1 チームを編制し、Directing Professorの指導の下に設定したプロジェクトを 60 時間 (3 カ月) [週 1 日] にわたり T A (ティーチングアシスタント) とともに遂行する。1 週間のとりまとめ・準備の後、各チーム毎に発表および展示・討論を行う。		
具体的な内容は次のHPを参照。 <a href="http://www.cplaza.engg.nagoya-u.ac.jp/jikken/jikken.html">http://www.cplaza.engg.nagoya-u.ac.jp/jikken/jikken.html</a>		
●教科書		
特になし。		
必要に応じて、授業時に適宜紹介する。		
●参考書		
特になし。		
必要に応じて、授業時に適宜紹介する。		
●評価方法と基準		
実験の遂行、討論と発表会により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
●履修条件・注意事項		
●質問への対応		
原則、授業時に対応する。		

研究インターンシップ1 (2.0単位)		
科目区分	総合工学科目	
課程区分	前期課程	
授業形態	実習	
全専攻・分野	共通	
開講時期 1	1 年前後期	
開講時期 2	2 年前後期	
教員	田川 智彦 教授	
●本講座の目的およびねらい		
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で 1~6 ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。		
●バックグラウンドとなる科目		
「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論 I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。		
●授業内容		
・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。		
・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。		
・1~6 ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。		
・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。		
●教科書		
特になし。		
●参考書		
特になし。		
●評価方法と基準		
企業において研究インターンシップに従事した総日数20日以下のものに与えられる。		
●履修条件・注意事項		
●質問への対応		
研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。		

研究インターンシップ1 (3.0単位)		
科目区分	総合工学科目	
課程区分	前期課程	
授業形態	実習	
全専攻・分野	共通	
開講時期 1	1 年前後期	
開講時期 2	2 年前後期	
教員	田川 智彦 教授	
●本講座の目的およびねらい		
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で 1~6 ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。		
●バックグラウンドとなる科目		
「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論 I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。		
●授業内容		
・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。		
・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。		
・1~6 ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。		
・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。		
●教科書		
特になし。		
●参考書		
特になし。		
●評価方法と基準		
企業において研究インターンシップに従事した総日数21日以上40日以下のものに与えられる。		
●履修条件・注意事項		
●質問への対応		
研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。		

研究インターンシップ1 (4.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。 ・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数41日以上60日以下のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p>	

研究インターンシップ1 (6.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。 ・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数61日以上80日以下のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p>	

研究インターンシップ1 (8.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。 ・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数81日以上のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p>	

最先端理工学特給 (1.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	永野 修作 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 工学における最先端研究の動向を学び、また、その研究を行うために必要な高度な知識を習得させることを目的とする。シンポジウム形式の学術討論を通して、最先端理工学研究を学び、テーマとなる分野の最新動向を学び、議論する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容 最先端工学に関する特別講義を受講し、また、最先端工学の研究発表が行われるシンポジウムやセミナーへ参加し、レポートを提出する。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

最先端理工学実験 (1.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実験
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	永野 修作 准教授

- 本講座の目的およびねらい  
工学における最先端研究の動向を実践をもって学ぶことを目的とし、その研究を行うために必要な高度な実験に関する知識と技術、プレゼンテーション技術を総合的に習得する。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容  
あらかじめ設定された実験(課題実験)あるいは受講者が提案する実験(独創実験)のいずれかからテーマを選択し、実験を行う。結果を整理し、成果発表を行う。
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準  
演習(50%)、研究成果発表とレポート(50%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

コミュニケーション学 (1.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年後期
開講時期2	2年後期
教員	古谷 礼子 准教授

- 本講座の目的およびねらい  
母国語でない言葉で論文を上手に発表するために必要な留意事項を学ぶ。留学生は日本語で発表する。日本人学生も受講することができるが、発表は英語で行う。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容  
(1) ビデオ録画された論文発表を見る: モデル発表を見てよい発表とは何かを討論し、発表する時に必要なテクニックを学ぶ。(2) 発表する: クラスで討論した発表のテクニックを用いて、学生各自が主題を選んで論文を発表する。(3) 討論する: クラスメイトの発表を相互に評価し合う: きびしい意見、激励や助言をお互いに交わす
- 教科書  
なし
- 参考書  
(1) 「英語プレゼンテーションの技術」: 安田 正、ジャック ニクリン著: The Japan Times (2) 「研究発表の方法 留学生のためのレポート作成: 口頭発表の準備の手続き」: 産能短期大学日本語教育研究室著: 凡人社
- 評価方法と基準  
発表論文とclass discussion(平常点)の結果による
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

実践科学技術英語 (2.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前期
開講時期2	2年前期
教員	(未定)

- 本講座の目的およびねらい  
英語で行われる自動車工学の最先端技術の講義を留学生とともに学ぶことによって、実践的な科学技術英語を習得するとともに、英語で小テーマについて発表し、議論することによって、プレゼンテーション技術を学ぶ。
- 達成目標  
1. 英語で行われる自動車工学の講義を理解できる。  
2. 技術的テーマについて取りまとめ、英語で説明できる。
- バックグラウンドとなる科目  
コミュニケーション学、科学技術英語特論
- 授業内容  
1. 自動車産業の現状、2. 自動車開発のプロセス、3. ドライバ運転行動の観察と評価  
4. 自動車の材料・加工技術 5. 自動車の運動・制御 6. 自動車の予防安全 7. 自動車の衝突安全 8. 車搭載組込みコンピュータシステム 9. 自動車における通信技術 10. 自動車開発におけるCAE活用状況 11. 自動車における省エネルギー技術 12. 環境にやさしい燃料と自動車触媒 13. リサイクル 14. 自動車工業における生産システム 15. 研究プロジェクト発表(2回に分けて行う)
- 教科書  
毎回プリントを配布する。
- 参考書  
講義の進行に合わせて適宜紹介する。
- 評価方法と基準  
評価方法: 講義での出席と質疑(20%), 講義毎のレポート提出(20%), グループ研究でのプレゼンテーション(30%), グループ研究でのレポート提出(30%)
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

科学技術英語特論 (1.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年後期
開講時期2	2年後期
教員	非常勤講師(教務)

- 本講座の目的およびねらい  
研究成果をまとめて国際的学術誌に英文で投稿し、さらに国際会議において英語でプレゼンテーションを行う能力を養う。
- バックグラウンドとなる科目  
英語学に関する諸科目
- 授業内容  
外国人教員による英語の講義  
1. Simplicity and clarity in English  
2. English grammar: Common problems  
3. Readability I: Sentences and paragraphs  
4. Readability II: Parallelism and other matters of style  
5. Readability III: Writing scientific papers  
6. Public speaking at international conferences  
7. Email, CVs, and job applications
- 教科書
- 参考書  
Students receive all printed materials for each lecture from the instructor. They also receive extensive annotated bibliographies of resources for academic, scientific, and technical English.
- 評価方法と基準  
発表内容、質疑応答、出席状況
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

ベンチャービジネス特論Ⅰ (2.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前期
開講時期2	2年前期
教員	永野 修作 准教授

●本講座の目的およびねらい  
我が国の産業のバックグラウンド又は最先端を担うべきベンチャー企業の層が薄いことは頻りに指摘される。その原因の一部は、制度の違いによるが、欧米の研究者や大学生との意識の差に起因する所も少なくない。本講座では、「大学の研究」を事業化/起業する際の技術者・研究者として必要な基本的な知識と目標を明確に教授する。大学の研究成果をベースにした技術開発・事業化、企業内起業やベンチャー起業の実例を示し、研究を生かしたベンチャービジネスを考える。

●バックグラウンドとなる科目  
卒業研究、修士課程の研究

●授業内容

1. 事業化と起業 なぜベンチャー起業か ―リスクとメリット―
2. 事業化と起業の知識と準備 ―技術者・研究者として抑えるべきポイント―
3. 大学の研究から事業化・起業へ ―企業における研究開発の進め方―
4. 事業化の推進 ―事業化のための様々な交渉と市場調査―
5. 名大発の事業化と起業(1): 電子デバイス分野
6. 名大発の事業化と起業(2): 金属、材料分野
7. 名大発の事業化と起業(3): バイオ、医療分野
8. 名大発の事業化と起業(4): 加工装置分野
9. 名大発の事業化と起業(4): 化学分野
10. まとめ

●教科書

「実践起業論 新しい時代を創れ!」南部修太郎/(株)アセット・ウィッツ  
その他、適宜資料配布

適宜指導

●参考書

「ベンチャー経営心得帳」南部修太郎/(株)アセット・ウィッツ  
その他、適宜指導

●評価方法と基準

レポート提出および出席

●履修条件・注意事項

●質問への対応

ベンチャービジネス特論Ⅱ (2.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年後期
開講時期2	2年後期
教員	永野 修作 准教授 枝川 明敬 教授

●本講座の目的およびねらい  
前期Iにおいて講義された事業化、企業内起業やベンチャー起業の実例等を参考に、起業化や創業のために必要不可欠な専門的な知識を公認会計士や中小企業診断士等の専門家と交えて講義する。受講生の知識の範囲を考慮し、前半では経営学の基本的知識の起業化への応用と展開について教授し、後半では、経営戦略、ファイナンスといったMBAで通常講義されている内容の基礎を理解する。受講の前提として、身近な起業化の例を講義する前期Iを受講するのが望ましい。

●バックグラウンドとなる科目

ベンチャービジネス特論Ⅰ、卒業研究、修士課程の研究。経営学、経済学の基礎知識があればなおよい。

●授業内容

1. 日本経済とベンチャービジネス
2. ベンチャービジネスの現状
3. ベンチャーと経営戦略
4. ベンチャーとマーケティング戦略
5. ベンチャーと企業会計
6. ベンチャーと財務戦略
7. 事例研究(経営戦略に重点)
8. 事例研究(マーケティング戦略に重点)
9. 事例研究(財務戦略に重点)
10. 事例研究(資本政策に重点: IPO企業)
11. ビジネスプラン ビジネス・アイデアと競争優位
12. ビジネスプラン 収益計画
13. ビジネスプラン 資金計画
14. ビジネスプラン ビジネスプランの運用とまとめ
15. まとめ

●教科書

講義資料を適宜配布する。

●参考書

適宜指導

●評価方法と基準

授業中に出席される課題

●履修条件・注意事項

●質問への対応

学外実習A (1.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
対象履修コース	材料工学分野 量子エネルギー工学分野 応用物理学分野
開講時期1	1年前後期 1年前後期 1年前後期
開講時期2	2年前後期 2年前後期 2年前後期
教員	各教員(材料) 各教員(応用物理) 各教員(量子)

●本講座の目的およびねらい  
学生が協力企業の研究開発部門に派遣され、所定の期間、所定のテーマに関する研究開発業務に従事することにより、企業の現場における技術的課題の設定と解決の方法を学ぶ、この経験により、実践的で幅広い見識、総合力、想像力と実社会への適応性を身につける。

●バックグラウンドとなる科目  
マテリアル理工学専攻の各科目

●授業内容

学生の研究内容は企業との合意により取り決められる。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準

企業の指導担当者による評価、研究成果の口頭発表、および、レポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

学外実習B (1.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
対象履修コース	材料工学分野 量子エネルギー工学分野 応用物理学分野
開講時期1	1年前後期 1年前後期 1年前後期
開講時期2	2年前後期 2年前後期 2年前後期
教員	各教員(材料) 各教員(応用物理) 各教員(量子)

●本講座の目的およびねらい  
学生が協力企業の研究開発部門に派遣され、所定の期間、所定のテーマに関する研究開発業務に従事することにより、企業の現場における技術的課題の設定と解決の方法を学ぶ、この経験により、実践的で幅広い見識、総合力、想像力と実社会への適応性を身につける。

●バックグラウンドとなる科目  
マテリアル理工学専攻の各科目

●授業内容

学生の研究内容は企業との合意により取り決められる。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準

企業の指導担当者による評価、研究成果の口頭発表、および、レポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応



宇宙研究開発概論 (2.0単位)					
科目区分	総合工学科目				
課程区分	前期課程				
授業形態	講義				
対象履修コース	応用化学分野 分子化学工学分野 生物機能工学分野 材料工学分野 応用物理学分野 量子エネルギー工学分野 電気工学分野 電子工学分野 情報・通信工学分野 機械科学分野 機械情報システム工学分野 電子機械工学分野 航空宇宙工学分野 エネルギー理工学専攻 マイクロ・ナノシステム工学専攻				
開講時期1	1年前期	1年前期	1年前期	1年前期	1年前期
1年前期	1年前期	1年前期	1年前期	1年前期	1年前期
1年前期	1年前期	1年前期	1年前期	1年前期	1年前期
開講時期2	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期
2年前期	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期
2年前期	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期
教員	リーディング大学院事業 各教員				
<p>●本講座の目的およびねらい 宇宙工学、宇宙科学、ものづくり/数値実験、組織・マネジメント、科学リテラシーなど、宇宙研究開発に必要な基礎知識を、企業経験者を含む各分野の専門家が解説する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 数学基礎、物理学基礎</p> <p>●授業内容 1. 宇宙研究の課題 2. 宇宙物理学基礎 3. 宇宙観測技術 4. 宇宙環境科学 5. 人工衛星開発 6. 宇宙推進工学 7. 複合材料 8. 電子回路技術 9. 放射線検出器 10. 数値実験 1(理学) 11. 数値実験2(工学) 12. プロジェクトマネジメント1 3. 研究開発マネジメント1 4. 科学論文執筆、プレゼンテーション技術 15. ビジネスで利用する知的財産の仕組み</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 レポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 博士課程教育リーディングプログラム「フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム」Minia-Bとして、理学研究科と共通開講。</p> <p>●質問への対応</p>					

国際プロジェクト研究 (2.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	各教員
<p>●本講座の目的およびねらい 研究プロジェクトの取り組みを通して、外国人学生との共同作業、問題解決方法を学ぶ。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容 研究室における研究活動</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 所属研究室の教官による評価、口頭発表</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

国際プロジェクト研究 (3.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	各教員
<p>●本講座の目的およびねらい 研究プロジェクトの取り組みを通して、外国人学生との共同作業、問題解決方法を学ぶ。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容 研究室における研究活動</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 所属研究室の教官による評価、口頭発表</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

国際プロジェクト研究 (4.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	各教員
<p>●本講座の目的およびねらい 研究プロジェクトの取り組みを通して、外国人学生との共同作業、問題解決方法を学ぶ。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容 研究室における研究活動</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 所属研究室の教官による評価、口頭発表</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

国際協働教育特別講義 (1.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	(未定)

- 本講座の目的およびねらい  
国際共同研究に必要な工学系の知識を学ぶ。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容  
自動車産業およびエネルギー産業の実情を元に、技術者に必要な知識・問題解決を学ぶ。
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準  
レポートおよび教官による評価
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

国際協働教育外国語演習 (1.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	演習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	(未定)

- 本講座の目的およびねらい  
国際共同研究に必要な英語力を学ぶ。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容  
英語のスピーキングとプレゼンテーション技術に集中した講義
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準  
口頭発表と教官による評価
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

エネルギー創成・貯蔵材料工学セミナー2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年前期
教員	元廣 友美 教授

- 本講座の目的およびねらい
- バックグラウンドとなる科目  
半導体材料学、機能材料学、固体電子論、材料物性学
- 授業内容  
次世代のエネルギー創成および貯蔵に関する基礎的かつ包括的な専門書を輪読する。
- 教科書  
輪読する教科書については、研究テーマに合わせ、適宜選定する
- 参考書  
セミナーの進行に合わせ、適宜、紹介する。
- 評価方法と基準  
資料作成、口頭発表、質疑応答により評価する。  
60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応  
セミナー中/終了後随時。電子メール notohiro@gvm.nagoya-u.ac.jp  
担当教員連絡先：内線4643 (工学部3号館南577室)

エネルギー創成・貯蔵材料工学セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年後期
教員	元廣 友美 教授

- 本講座の目的およびねらい  
次世代のエネルギー創成および貯蔵に関して、最新の研究トピックスに関し、専門研究者・技術者として不可欠な基礎知識を習得する。
- バックグラウンドとなる科目  
半導体材料学、機能材料学、固体電子論、材料物性学
- 授業内容  
次世代のエネルギー創成および貯蔵に関する基礎的かつ包括的な専門書を輪読する。
- 教科書  
輪読する教科書については、研究テーマに合わせ、適宜選定する
- 参考書  
セミナーの進行に合わせ、適宜、紹介する。
- 評価方法と基準  
口頭発表(50%)と、それに対する質疑応答(50%)により目標達成度を評価する。  
全体で60%以上のポイントを単位認定の基準とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応  
セミナー中/終了後随時。電子メール notohiro@gvm.nagoya-u.ac.jp  
担当教員連絡先：内線4643 (工学部3号館南577室)

エネルギー創成・貯蔵材料工学セミナー2C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年前期
教員	元廣 友美 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 次世代のエネルギー創成および貯蔵に関して、最新の研究トピックスに関し、専門研究者・技術者として不可欠な基礎知識を習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 半導体材料学、機能材料学、固体電子論、材料物性学</p> <p>●授業内容 次世代のエネルギー創成および貯蔵に関する基礎的かつ包括的な専門書を輪読する。</p> <p>●教科書 輪読する教科書については、研究テーマに合わせ、適宜選定する。</p> <p>●参考書 セミナーの進行に合わせ、適宜、紹介する。</p> <p>●評価方法と基準 口頭発表(50%)と、それに対する質疑応答(50%)により目標達成度を評価する。全体で60%以上のポイントを単位認定の基準とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 セミナー中/終了後随時。電子メール motohiro@gva.nagoya-u.ac.jp 担当教員連絡先:内線4643 (工学部3号館南577室)</p>	

エネルギー創成・貯蔵材料工学セミナー2D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年後期
教員	元廣 友美 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 次世代のエネルギー創成および貯蔵に関して、最新の研究トピックスに関し、専門研究者・技術者として不可欠な基礎知識を習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 半導体材料学、機能材料学、固体電子論、材料物性学</p> <p>●授業内容 次世代のエネルギー創成および貯蔵に関する基礎的かつ包括的な専門書を輪読する。</p> <p>●教科書 輪読する教科書については、研究テーマに合わせ、適宜選定する。</p> <p>●参考書 セミナーの進行に合わせ、適宜、紹介する。</p> <p>●評価方法と基準 口頭発表(50%)と、それに対する質疑応答(50%)により目標達成度を評価する。全体で60%以上のポイントを単位認定の基準とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 セミナー中/終了後随時。電子メール motohiro@gva.nagoya-u.ac.jp 担当教員連絡先:内線4643 (工学部3号館南577室)</p>	

エネルギー創成・貯蔵材料工学セミナー2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	3年前期
教員	元廣 友美 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 次世代のエネルギー創成および貯蔵に関して、最新の研究トピックスに関し、専門研究者・技術者として不可欠な基礎知識を習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 半導体材料学、機能材料学、固体電子論、材料物性学</p> <p>●授業内容 次世代のエネルギー創成および貯蔵に関する基礎的かつ包括的な専門書を輪読する。</p> <p>●教科書 輪読する教科書については、研究テーマに合わせ、適宜選定する。</p> <p>●参考書 セミナーの進行に合わせ、適宜、紹介する。</p> <p>●評価方法と基準 口頭発表(50%)と、それに対する質疑応答(50%)により目標達成度を評価する。全体で60%以上のポイントを単位認定の基準とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 セミナー中/終了後随時。電子メール motohiro@gva.nagoya-u.ac.jp 担当教員連絡先:内線4643 (工学部3号館南577室)</p>	

高圧力物質科学セミナー2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 結晶材料工学専攻
開講時期1	1年前期 1年前期
教員	長谷川 正 教授 丹羽 健 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 将来問題となる課題および博士論文に関する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 結晶物理学、移動現象論、材料物理化学、統計学A、無機化学、材料力学、材料物理学、プロセス数学・数値解析学、材料物性学、分析化学第2、材料設計学、材料強度学、相変換工学、セラミック材料学、光機能材料学、電子材料学、薄膜・結晶成長論、有機材料学</p> <p>●授業内容 受講生の博士論文のテーマおよび、その時々において将来問題になると考えられる材料高圧力プロセス工学に関する諸問題の中から小テーマを選定する。</p> <p>●教科書 使用しない</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 口頭発表と質疑応答</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

高圧力物質科学セミナー 2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 結晶材料工学専攻
開講時期 1	1年後期 1年後期
教員	長谷川 正 教授 丹羽 健 助教

- 本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。
- バックグラウンドとなる科目  
結晶物理学、移動現象論、材料物理化学、統計力学A、無機化学、材料力学、材料物理学、プロセス数学・数値解析学、材料物性学、分析化学第2、材料設計学、材料強度学、相変換工学、セラミック材料学、光機能材料学、電子材料学、薄膜・結晶成長論、有機材料学
- 授業内容  
受講生の博士論文のテーマおよび、その時々において将来問題になると考えられる材料高圧力プロセス工学に関する諸問題の中から小テーマを選定する。
- 教科書  
使用しない
- 参考書
- 評価方法と基準  
口頭発表と質疑応答
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

高圧力物質科学セミナー 2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 結晶材料工学専攻
開講時期 1	2年前期 2年前期
教員	長谷川 正 教授 丹羽 健 助教

- 本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。
- バックグラウンドとなる科目  
結晶物理学、移動現象論、材料物理化学、統計力学A、無機化学、材料力学、材料物理学、プロセス数学・数値解析学、材料物性学、分析化学第2、材料設計学、材料強度学、相変換工学、セラミック材料学、光機能材料学、電子材料学、薄膜・結晶成長論、有機材料学
- 授業内容  
受講生の博士論文のテーマおよび、その時々において将来問題になると考えられる材料高圧力プロセス工学に関する諸問題の中から小テーマを選定する。
- 教科書  
使用しない
- 参考書
- 評価方法と基準  
口頭発表と質疑応答
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

高圧力物質科学セミナー 2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 結晶材料工学専攻
開講時期 1	2年後期 2年後期
教員	長谷川 正 教授 丹羽 健 助教

- 本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。
- バックグラウンドとなる科目  
結晶物理学、移動現象論、材料物理化学、統計力学A、無機化学、材料力学、材料物理学、プロセス数学・数値解析学、材料物性学、分析化学第2、材料設計学、材料強度学、相変換工学、セラミック材料学、光機能材料学、電子材料学、薄膜・結晶成長論、有機材料学
- 授業内容  
受講生の博士論文のテーマおよび、その時々において将来問題になると考えられる材料高圧力プロセス工学に関する諸問題の中から小テーマを選定する。
- 教科書  
使用しない
- 参考書
- 評価方法と基準  
口頭発表と質疑応答
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

高圧力物質科学セミナー 2E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 結晶材料工学専攻
開講時期 1	3年前期 3年前期
教員	長谷川 正 教授 丹羽 健 助教

- 本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。
- バックグラウンドとなる科目  
結晶物理学、移動現象論、材料物理化学、統計力学A、無機化学、材料力学、材料物理学、プロセス数学・数値解析学、材料物性学、分析化学第2、材料設計学、材料強度学、相変換工学、セラミック材料学、光機能材料学、電子材料学、薄膜・結晶成長論、有機材料学
- 授業内容  
受講生の博士論文のテーマおよび、その時々において将来問題になると考えられる材料高圧力プロセス工学に関する諸問題の中から小テーマを選定する。
- 教科書  
使用しない
- 参考書
- 評価方法と基準  
口頭発表と質疑応答
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

結晶成長学セミナー2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年前期
教員	宇治原 徹 教授 田川 美穂 准教授 原田 俊太 助教

●本講座の目的およびねらい  
多くの材料創成において結晶成長が活用されている。本セミナーでは、各種材料における結晶成長を学習する。また、結晶成長を駆使するには、成長装置の革新と、最新評価技術が必須である。本セミナーでは、結晶成長装置の基本と、応用として結晶評価技術の習得も併せて行う。

(1) さまざまな結晶成長技術を理解する。(2) 結晶評価技術を理解する。

●バックグラウンドとなる科目

相変換工学、材料物理化学、材料物理学、移動現象論、結晶物理学、数学2及び演習

●授業内容

1. 溶液成長に関する成長技術 2. 融液成長に関する成長技術 3. 気相成長に関する成長技術 4. 結晶成長装置 5. 結晶評価技術

●教科書

配布

●参考書

特になし

●評価方法と基準

レポート100%で評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

結晶成長学セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年後期
教員	宇治原 徹 教授 田川 美穂 准教授 原田 俊太 助教

●本講座の目的およびねらい  
多くの材料創成において結晶成長が活用されている。本セミナーでは、各種材料における結晶成長を学習する。また、結晶成長を駆使するには、成長装置の革新と、最新評価技術が必須である。本セミナーでは、結晶成長装置の基本と、応用として結晶評価技術の習得も併せて行う。

(1) さまざまな結晶成長技術を理解する。(2) 結晶評価技術を理解する。

●バックグラウンドとなる科目

相変換工学、材料物理化学、材料物理学、移動現象論、結晶物理学、数学2及び演習

●授業内容

1. 溶液成長に関する成長技術 2. 融液成長に関する成長技術 3. 気相成長に関する成長技術 4. 結晶成長装置 5. 結晶評価技術

●教科書

配布

●参考書

特になし

●評価方法と基準

レポート100%で評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

結晶成長学セミナー2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年前期
教員	宇治原 徹 教授 田川 美穂 准教授 原田 俊太 助教

●本講座の目的およびねらい  
多くの材料創成において結晶成長が活用されている。本セミナーでは、各種材料における結晶成長を学習する。また、結晶成長を駆使するには、成長装置の革新と、最新評価技術が必須である。本セミナーでは、結晶成長装置の基本と、応用として結晶評価技術の習得も併せて行う。

(1) さまざまな結晶成長技術を理解する。(2) 結晶評価技術を理解する。

●バックグラウンドとなる科目

相変換工学、材料物理化学、材料物理学、移動現象論、結晶物理学、数学2及び演習

●授業内容

1. 溶液成長に関する成長技術 2. 融液成長に関する成長技術 3. 気相成長に関する成長技術 4. 結晶成長装置 5. 結晶評価技術

●教科書

配布

●参考書

特になし

●評価方法と基準

レポート100%で評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

結晶成長学セミナー2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年後期
教員	宇治原 徹 教授 田川 美穂 准教授 原田 俊太 助教

●本講座の目的およびねらい  
多くの材料創成において結晶成長が活用されている。本セミナーでは、各種材料における結晶成長を学習する。また、結晶成長を駆使するには、成長装置の革新と、最新評価技術が必須である。本セミナーでは、結晶成長装置の基本と、応用として結晶評価技術の習得も併せて行う。

(1) さまざまな結晶成長技術を理解する。(2) 結晶評価技術を理解する。

●バックグラウンドとなる科目

相変換工学、材料物理化学、材料物理学、移動現象論、結晶物理学、数学2及び演習

●授業内容

1. 溶液成長に関する成長技術 2. 融液成長に関する成長技術 3. 気相成長に関する成長技術 4. 結晶成長装置 5. 結晶評価技術

●教科書

配布

●参考書

特になし

●評価方法と基準

レポート100%で評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

結晶成長学セミナー2E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	3年前期
教員	宇治原 徹 教授 田川 美穂 准教授 原田 俊太 助教

- 本講座の目的およびねらい  
多くの材料形成において結晶成長が活用されている。本セミナーでは、各種材料における結晶成長を学習する。また、結晶成長を駆使するには、成長装置の革新と、最新評価技術が必須である。本セミナーでは、結晶成長装置の基本と、応用として結晶評価技術の習得も併せて行う。  
(1) さまざまな結晶成長技術を理解する。(2) 結晶評価技術を理解する。
- バックグラウンドとなる科目  
相変換工学、材料物理化学、材料物理学、移動現象論、結晶物理学、数学2及び演習
- 授業内容  
1. 溶液成長に関する成長技術2. 融液成長に関する成長技術3. 気相成長に関する成長技術4. 結晶成長装置5. 結晶評価技術
- 教科書  
配布
- 参考書  
特になし
- 評価方法と基準  
レポート100%で評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

材料再生プロセス工学セミナー2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年前期
教員	平澤 政廣 教授 寺門 修 助教

- 本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。：達成目標：1. 多様な材料再生プロセスの課題を反応工学とプロセス工学の基礎に基づき解くことができる。
- バックグラウンドとなる科目  
化学基礎I・II, 無機化学, 物理化学, 材料物理化学, 応用熱力学, 移動現象論, 金属反応論, 素材プロセス工学第1・第2, 材料再生プロセス工学特論, 材料反応工学特論
- 授業内容  
主として、受講生の博士論文のテーマ、および、その時々において将来問題となると考えられる材料再生プロセスに関わる諸分野の問題の中から小テーマを選定する。
- 教科書  
教科書は特に定めない:適宜, プリントを配布する。
- 参考書
- 評価方法と基準  
課題レポートおよび口頭発表により総合的に評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

材料再生プロセス工学セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年後期
教員	平澤 政廣 教授 寺門 修 助教

- 本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。：達成目標：1. 多様な材料再生プロセスの課題を反応工学とプロセス工学の基礎に基づき解くことができる。
- バックグラウンドとなる科目  
化学基礎I・II, 無機化学, 物理化学, 材料物理化学, 応用熱力学, 移動現象論, 金属反応論, 素材プロセス工学第1・第2, 材料再生プロセス工学特論, 材料反応工学特論
- 授業内容  
主として、受講生の博士論文のテーマ、および、その時々において将来問題となると考えられる材料再生プロセスに関わる諸分野の問題の中から小テーマを選定する。
- 教科書  
教科書は特に定めない:適宜, プリントを配布する。
- 参考書
- 評価方法と基準  
達成目標に対する評価の重みは同等である。：課題レポートおよび口頭発表により総合的に評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

材料再生プロセス工学セミナー2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年前期
教員	平澤 政廣 教授 寺門 修 助教

- 本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。：達成目標：1. 多様な材料再生プロセスの課題を反応工学とプロセス工学の基礎に基づき解くことができる。
- バックグラウンドとなる科目  
化学基礎I・II, 無機化学, 物理化学, 材料物理化学, 応用熱力学, 移動現象論, 金属反応論, 素材プロセス工学第1・第2, 材料再生プロセス工学特論, 材料反応工学特論
- 授業内容  
主として、受講生の博士論文のテーマ、および、その時々において将来問題となると考えられる材料再生プロセスに関わる諸分野の問題の中から小テーマを選定する。
- 教科書  
教科書は特に定めない:適宜, プリントを配布する。
- 参考書
- 評価方法と基準  
課題レポートおよび口頭発表により総合的に評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

材料再生プロセス工学セミナー 2D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期 1	2 年後期
教員	平澤 政廣 教授 寺門 修 助教
<p>●本講座の目的およびねらい            将来問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。：達成目標：：1. 多様な材料再生プロセスの課題を反応工学とプロセス工学の基礎に基づき解くことができる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目            化学基礎Ⅰ・Ⅱ、無機化学、物理化学、材料物理化学、応用熱力学、移動現象論、金属反応論、素材プロセス工学第1・第2、材料再生プロセス工学特論、材料反応工学特論</p> <p>●授業内容            主として、受講生の博士論文のテーマ、および、その時々において将来問題となると考えられる材料再生プロセスに関わる諸分野の問題の中から小テーマを選定する。</p> <p>●教科書            教科書は特に定めなし：適宜、プリントを配布する。</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準            課題レポートおよび口頭発表により総合的に評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

材料再生プロセス工学セミナー 2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期 1	3 年前期
教員	平澤 政廣 教授 寺門 修 助教
<p>●本講座の目的およびねらい            将来問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。：達成目標：：1. 多様な材料再生プロセスの課題を反応工学とプロセス工学の基礎に基づき解くことができる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目            化学基礎Ⅰ・Ⅱ、無機化学、物理化学、材料物理化学、応用熱力学、移動現象論、金属反応論、素材プロセス工学第1・第2、材料再生プロセス工学特論、材料反応工学特論</p> <p>●授業内容            主として、受講生の博士論文のテーマ、および、その時々において将来問題となると考えられる材料再生プロセスに関わる諸分野の問題の中から小テーマを選定する。</p> <p>●教科書            教科書は特に定めなし：適宜、プリントを配布する。</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準            課題レポートおよび口頭発表により総合的に評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

表界面工学セミナー 2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期 1	1 年前期
教員	興戸 正純 教授 黒田 健介 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい            論文課題に対してその意義を認識し、方法論を自ら構築するとともに研究者・指導者としての独創性を琢磨する訓練を行う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目            物理化学、材料物理化学、表面物理化学、素材プロセス工学第2、表界面工学演習及び実験、電気化学プロセス特論、材料表面化学特論、表界面工学セミナー1A-1D</p> <p>●授業内容            材料表面の電気化学の基礎・応用に関わる問題について輪講を行うとともに、総合的な学問を身につけるための材料工学一般の広い分野についても随時テーマを選定する。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準            レポートおよび口述試験</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

表界面工学セミナー 2B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期 1	1 年後期
教員	興戸 正純 教授 黒田 健介 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい            論文課題に対してその意義を認識し、方法論を自ら構築するとともに研究者・指導者としての独創性を琢磨する訓練を行う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目            物理化学、材料物理化学、表面物理化学、素材プロセス工学第2、表界面工学演習及び実験、電気化学プロセス特論、材料表面化学特論、表界面工学セミナー1A-1D</p> <p>●授業内容            材料表面の電気化学の基礎・応用に関わる問題について輪講を行うとともに、総合的な学問を身につけるための材料工学一般の広い分野についても随時テーマを選定する。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準            レポートおよび口述試験</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

—— 表界面工学セミナー2C (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年前期
教員	興戸 正純 教授 黒田 健介 准教授

●本講座の目的およびねらい  
論文課題に対してその意義を認識し、方法論を自ら構築するとともに研究者・指導者としての独創性を琢磨する訓練を行う。

●バックグラウンドとなる科目

物理化学、材料物理化学、表面物理化学、素材プロセス工学第2、表界面工学演習及び実験、電気化学プロセス特論、材料表面化学特論、表界面工学セミナー1A-1D

●授業内容

材料表面の電気化学の基礎・応用に関わる問題について輪講を行うとともに、総合的な学問を身につけるための材料工学一般の広い分野についても随時テーマを選定する。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準

レポートおよび口述試験

●履修条件・注意事項

●質問への対応

—— 表界面工学セミナー2D (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年後期
教員	興戸 正純 教授 黒田 健介 准教授

●本講座の目的およびねらい  
論文課題に対してその意義を認識し、方法論を自ら構築するとともに研究者・指導者としての独創性を琢磨する訓練を行う。

●バックグラウンドとなる科目

物理化学、材料物理化学、表面物理化学、素材プロセス工学第2、表界面工学演習及び実験、電気化学プロセス特論、材料表面化学特論、表界面工学セミナー1A-1D

●授業内容

材料表面の電気化学の基礎・応用に関わる問題について輪講を行うとともに、総合的な学問を身につけるための材料工学一般の広い分野についても随時テーマを選定する。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準

レポートおよび口述試験

●履修条件・注意事項

●質問への対応

—— 表界面工学セミナー2E (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	3年前期
教員	興戸 正純 教授 黒田 健介 准教授

●本講座の目的およびねらい  
論文課題に対してその意義を認識し、方法論を自ら構築するとともに研究者・指導者としての独創性を琢磨する訓練を行う。

●バックグラウンドとなる科目

物理化学、材料物理化学、表面物理化学、素材プロセス工学第2、表界面工学演習及び実験、電気化学プロセス特論、材料表面化学特論、表界面工学セミナー1A-1D

●授業内容

材料表面の電気化学の基礎・応用に関わる問題について輪講を行うとともに、総合的な学問を身につけるための材料工学一般の広い分野についても随時テーマを選定する。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準

レポートおよび口述試験

●履修条件・注意事項

●質問への対応

—— ナノ集積工学セミナー2A (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年前期
教員	入山 恭寿 教授

●本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発掘させる訓練を行う。

●バックグラウンドとなる科目

統計力学A、量子力学A、表面物理化学、材料物性学、半導体材料学、材料プロセス計測工学、薄膜・結晶成長論、ナノ集積工学セミナー1のA、B、C、D、電気化学測定特論、固体イオニクス材料特論、ナノ集積工学実験

●授業内容

受講者の博士論文のテーマおよび、その時々において将来問題になると考えられるナノ集積工学に関する諸問題の中から小テーマを選定する。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準

レポートおよび口頭質問

●履修条件・注意事項

●質問への対応



————— ナノ集積工学セミナー2B (2.0単位) —————

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年後期
教員	入山 森寿 教授

---

●本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。

●バックグラウンドとなる科目  
統計力学A、量子力学A、表面物理化学、材料物性学、半導体材料学、材料プロセス計測工学、薄膜・結晶成長論、ナノ集積工学セミナー1のA、B、C、D、電気化学測定特論、固体イオニクス材料特論、ナノ集積工学実験

●授業内容  
受講者の博士論文のテーマおよび、その時々において将来問題になると考えられるナノ集積工学に関する諸問題の中から小テーマを選定する。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準  
レポートおよび口頭試問

●履修条件・注意事項

●質問への対応

————— ナノ集積工学セミナー2C (2.0単位) —————

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年前期
教員	入山 森寿 教授

---

●本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。

●バックグラウンドとなる科目  
統計力学A、量子力学A、表面物理化学、材料物性学、半導体材料学、材料プロセス計測工学、薄膜・結晶成長論、ナノ集積工学セミナー1のA、B、C、D、電気化学測定特論、固体イオニクス材料特論、ナノ集積工学実験

●授業内容  
受講者の博士論文のテーマおよび、その時々において将来問題になると考えられるナノ集積工学に関する諸問題の中から小テーマを選定する。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準  
レポートおよび口頭試問

●履修条件・注意事項

●質問への対応

————— ナノ集積工学セミナー2D (2.0単位) —————

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年後期
教員	入山 森寿 教授

---

●本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。

●バックグラウンドとなる科目  
統計力学A、量子力学A、表面物理化学、材料物性学、半導体材料学、材料プロセス計測工学、薄膜・結晶成長論、ナノ集積工学セミナー1のA、B、C、D、電気化学測定特論、固体イオニクス材料特論、ナノ集積工学実験

●授業内容  
受講者の博士論文のテーマおよび、その時々において将来問題になると考えられるナノ集積工学に関する諸問題の中から小テーマを選定する。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準  
レポートおよび口頭試問

●履修条件・注意事項

●質問への対応

————— ナノ集積工学セミナー2E (2.0単位) —————

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	3年前期
教員	入山 森寿 教授

---

●本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。

●バックグラウンドとなる科目  
統計力学A、量子力学A、表面物理化学、材料物性学、半導体材料学、材料プロセス計測工学、薄膜・結晶成長論、ナノ集積工学セミナー1のA、B、C、D、電気化学測定特論、固体イオニクス材料特論、ナノ集積工学実験

●授業内容  
受講者の博士論文のテーマおよび、その時々において将来問題になると考えられるナノ集積工学に関する諸問題の中から小テーマを選定する。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準  
レポートおよび口頭試問

●履修条件・注意事項

●質問への対応

材料設計工学セミナー2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年前期
教員	松永 克志 教授 中村 篤智 准教授 阿部 真之 准教授 豊浦 和明 助教

- 本講座の目的およびねらい  
材料設計工学に関わる研究課題の設定、問題点の抽出、得られた研究結果に関する討論を通じて、研究者としての創造力や独創性の養成、および独自の理論や学問の構築を実現する総合力の養成を行う。
- バックグラウンドとなる科目  
量子力学1, 量子力学2, 固体電子論, 量子化学, 無機化学, セラミックス材料学, 半導体材料学, 化学熱力学1, 化学熱力学2, 材料ナノ構造設計学特論, 材料機能設計学特論, 材料設計工学セミナー1A-1D
- 授業内容  
博士論文のテーマおよび、それに関連した材料設計工学に関する諸問題の中から課題を選定する。それについて発表・討論を行う。
- 教科書  
特に指定しない。セミナー中に必要に応じて、適切な資料・文献を指示する。
- 参考書
- 評価方法及び基準  
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項  
自らの研究発表に際しては十分に準備をすること。また、適宜文献を読むなどして、幅広い学習を心がけること。
- 質問への対応  
セミナー時に対応する。

材料設計工学セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年後期
教員	松永 克志 教授 中村 篤智 准教授 阿部 真之 准教授 豊浦 和明 助教

- 本講座の目的およびねらい  
材料設計工学に関わる研究課題の設定、問題点の抽出、得られた研究結果に関する討論を通じて、研究者としての創造力や独創性の養成、および独自の理論や学問の構築を実現する総合力の養成を行う。
- バックグラウンドとなる科目  
量子力学1, 量子力学2, 固体電子論, 量子化学, 無機化学, セラミックス材料学, 半導体材料学, 化学熱力学1, 化学熱力学2, 材料ナノ構造設計学特論, 材料機能設計学特論, 材料設計工学セミナー1A-1D
- 授業内容  
博士論文のテーマおよび、それに関連した材料設計工学に関する諸問題の中から課題を選定する。それについて発表・討論を行う。
- 教科書  
特に指定しない。セミナー中に必要に応じて、適切な資料・文献を指示する。
- 参考書
- 評価方法及び基準  
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項  
自らの研究発表に際しては十分に準備をすること。また、適宜文献を読むなどして、幅広い学習を心がけること。
- 質問への対応  
セミナー時に対応する。

材料設計工学セミナー2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年前期
教員	松永 克志 教授 中村 篤智 准教授 阿部 真之 准教授 豊浦 和明 助教

- 本講座の目的およびねらい  
材料設計工学に関わる研究課題の設定、問題点の抽出、得られた研究結果に関する討論を通じて、研究者としての創造力や独創性の養成、および独自の理論や学問の構築を実現する総合力の養成を行う。
- バックグラウンドとなる科目  
量子力学1, 量子力学2, 固体電子論, 量子化学, 無機化学, セラミックス材料学, 半導体材料学, 化学熱力学1, 化学熱力学2, 材料ナノ構造設計学特論, 材料機能設計学特論, 材料設計工学セミナー1A-1D
- 授業内容  
博士論文のテーマおよび、それに関連した材料設計工学に関する諸問題の中から課題を選定する。それについて発表・討論を行う。
- 教科書  
特に指定しない。セミナー中に必要に応じて、適切な資料・文献を指示する。
- 参考書
- 評価方法及び基準  
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項  
自らの研究発表に際しては十分に準備をすること。また、適宜文献を読むなどして、幅広い学習を心がけること。
- 質問への対応  
セミナー時に対応する。

材料設計工学セミナー2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年後期
教員	松永 克志 教授 中村 篤智 准教授 阿部 真之 准教授 豊浦 和明 助教

- 本講座の目的およびねらい  
材料設計工学に関わる研究課題の設定、問題点の抽出、得られた研究結果に関する討論を通じて、研究者としての創造力や独創性の養成、および独自の理論や学問の構築を実現する総合力の養成を行う。
- バックグラウンドとなる科目  
量子力学1, 量子力学2, 固体電子論, 量子化学, 無機化学, セラミックス材料学, 半導体材料学, 化学熱力学1, 化学熱力学2, 材料ナノ構造設計学特論, 材料機能設計学特論, 材料設計工学セミナー1A-1D
- 授業内容  
博士論文のテーマおよび、それに関連した材料設計工学に関する諸問題の中から課題を選定する。それについて発表・討論を行う。
- 教科書  
特に指定しない。セミナー中に必要に応じて、適切な資料・文献を指示する。
- 参考書
- 評価方法及び基準  
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項  
自らの研究発表に際しては十分に準備をすること。また、適宜文献を読むなどして、幅広い学習を心がけること。
- 質問への対応  
セミナー時に対応する。

材料設計工学セミナー2E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	3年前期
教員	松永 克志 教授 中村 篤智 准教授 阿部 真之 准教授 豊浦 和明 助教

●本講座の目的およびねらい  
材料設計工学に関わる研究課題の設定、問題点の抽出、得られた研究結果に関する討論を通じて、研究者としての創造力や独創性の養成、および独自の理論や学問の構築を実現する総合力の養成を行う。

●バックグラウンドとなる科目  
量子力学1, 量子力学2, 固体電子論, 量子化学, 無機化学, セラミックス材料学, 半導体材料学, 化学熱力学1, 化学熱力学2, 材料ナノ構造設計学特論, 材料機能設計学特論, 材料設計工学セミナー1A-1D

●授業内容  
博士論文のテーマおよび、それに関連した材料設計工学に関する諸問題の中から課題を選定する。それについて発表・討論を行う。

●教科書  
特に指定しない。セミナー中に必要に応じて、適切な資料・文献を指示する。

●参考書

●評価方法と基準  
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項  
自らの研究発表に際しては十分に準備をすること。また、適宜文献を読むなどして、幅広い学習を心がけること。

●質問への対応  
セミナー時に対応する。

シンクロトロン光応用工学セミナー2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年前期
教員	高崎 圭史 教授 伊藤 孝寛 准教授 山本 尚人 助教

●本講座の目的およびねらい  
[加速器科学研究分野]  
シンクロトロン光源としての電子加速器と、そこから発生する光の基礎的性質を理解するために必要な教科書・文献を輪読・発表する。(達成目標)：1. 粒子加速器の種類と基礎的な原理を理解する。：2. 電子蓄積リングにおける電子ビームの振る舞いを理解する。：3. 電子蓄積リングから発生する光の性質について理解する。

[物性研究分野]  
シンクロトロン光を初めとする光を利用した電子分光により、材料における電子状態と物性の関わりを総合的に理解するために必要な教科書・文献を輪読・発表する。(達成目標)：1. 電子分光の基礎的な原理を理解する。：2. 材料の電子状態、特にバンド構造およびフェルミ面と材料の性質の関係を理解する。3. シンクロトロン光を用いた電子分光による材料分析の特徴と利用手法について理解する。

●バックグラウンドとなる科目  
力学1, II, 電磁気学1, II, 量子力学, 固体物理学

●授業内容  
[加速器科学研究分野]  
1. 特殊相対性理論; 2. 加速器物理学; 3. 電磁波の発生

[物性研究分野]  
1. 材料物性; 2. シンクロトロン光応用工学

●教科書  
輪読する教科書については、適宜選定する。

●参考書  
必要に応じてセミナーで紹介する。

●評価方法と基準  
口頭発表、質疑応答、レポートを総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを得た学生に単位を認定する

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
質問への対応：電話あるいは電子メール  
連絡先：[加速器科学研究分野]内線5687 takasina@nuse.nagoya-u.ac.jp; [物性研究分野]内線5347 t.ito@nuse.nagoya-u.ac.jp

シンクロトロン光応用工学セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年後期
教員	高崎 圭史 教授 伊藤 孝寛 准教授 山本 尚人 助教

●本講座の目的およびねらい  
[加速器科学研究分野]  
シンクロトロン光源としての電子加速器と、そこから発生する光の基礎的性質を理解するために必要な教科書・文献を輪読・発表する。(達成目標)：1. 粒子加速器の種類と基礎的な原理を理解する。：2. 電子蓄積リングにおける電子ビームの振る舞いを理解する。：3. 電子蓄積リングから発生する光の性質について理解する。

[物性研究分野]  
シンクロトロン光を初めとする光を利用した電子分光により、材料における電子状態と物性の関わりを総合的に理解するために必要な教科書・文献を輪読・発表する。(達成目標)：1. 電子分光の基礎的な原理を理解する。：2. 材料の電子状態、特にバンド構造およびフェルミ面と材料の性質の関係を理解する。3. シンクロトロン光を用いた電子分光による材料分析の特徴と利用手法について理解する。

●バックグラウンドとなる科目  
力学1, II, 電磁気学1, II, 量子力学, 固体物理学

●授業内容  
[加速器科学研究分野]  
1. 特殊相対性理論; 2. 加速器物理学; 3. 電磁波の発生

[物性研究分野]  
1. 材料物性; 2. シンクロトロン光応用工学

●教科書  
輪読する教科書については、適宜選定する

●参考書  
必要に応じてセミナーで紹介する。

●評価方法と基準  
口頭発表、質疑応答、レポートを総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを得た学生に単位を認定する

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
質問への対応：電話あるいは電子メール  
連絡先：[加速器科学研究分野]内線5687 takasina@nuse.nagoya-u.ac.jp; [物性研究分野]内線5347 t.ito@nuse.nagoya-u.ac.jp

シンクロトロン光応用工学セミナー2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年前期
教員	高崎 圭史 教授 伊藤 孝寛 准教授 山本 尚人 助教

●本講座の目的およびねらい  
[加速器科学研究分野]  
シンクロトロン光源としての電子加速器と、そこから発生する光の基礎的性質を理解するために必要な教科書・文献を輪読・発表する。(達成目標)：1. 粒子加速器の種類と基礎的な原理を理解する。：2. 電子蓄積リングにおける電子ビームの振る舞いを理解する。：3. 電子蓄積リングから発生する光の性質について理解する。

[物性研究分野]  
シンクロトロン光を初めとする光を利用した電子分光により、材料における電子状態と物性の関わりを総合的に理解するために必要な教科書・文献を輪読・発表する。(達成目標)：1. 電子分光の基礎的な原理を理解する。：2. 材料の電子状態、特にバンド構造およびフェルミ面と材料の性質の関係を理解する。3. シンクロトロン光を用いた電子分光による材料分析の特徴と利用手法について理解する。

●バックグラウンドとなる科目  
力学1, II, 電磁気学1, II, 量子力学, 固体物理学

●授業内容  
[加速器科学研究分野]  
1. 特殊相対性理論; 2. 加速器物理学; 3. 電磁波の発生

[物性研究分野]  
1. 材料物性; 2. シンクロトロン光応用工学

●教科書  
輪読する教科書については、適宜選定する。

●参考書  
必要に応じてセミナーで紹介する。

●評価方法と基準  
口頭発表、質疑応答、レポートを総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを得た学生に単位を認定する

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
質問への対応：電話あるいは電子メール  
連絡先：[加速器科学研究分野]内線5687 takasina@nuse.nagoya-u.ac.jp; [物性研究分野]内線5347 t.ito@nuse.nagoya-u.ac.jp

シンクロトロン光応用工学セミナー2D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年後期
教員	高崎 圭史 教授 伊藤 孝寛 准教授 山本 尚人 助教
<p>●本講座の目的およびねらい [加速器科学研究分野] シンクロトロン光源としての電子加速器と、そこから発生する光の基礎的性質を理解するために必要な教科書・文献を輪読・発表する。(達成目標):1. 粒子加速器の種類と基礎的な原理を理解する。:2. 電子蓄積リングにおける電子ビームの振る舞いを理解する。:3. 電子蓄積リングから発生する光の性質について理解する。</p> <p>[物性研究分野] シンクロトロン光を初めとする光を利用した電子分光により、材料における電子状態と物性の関わりを総合的に理解するために必要な教科書・文献を輪読・発表する。(達成目標):1. 電子分光の基礎的な原理を理解する。:2. 材料の電子状態、特にバンド構造およびフェルミ面と材料の性質の関係を理解する。3. シンクロトロン光を用いた電子分光による材料分析の特徴と利用手法について理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 力学I、II、電磁気学I、II、量子力学、固体物理学</p> <p>●授業内容 [加速器科学研究分野] 1. 特殊相対性理論:2. 加速器物理学:3. 電磁波の発生</p> <p>[物性研究分野] 1. 材料物性:2. シンクロトロン光応用工学</p> <p>●教科書 輪読する教科書については、適宜選定する。</p> <p>●参考書 必要に応じてセミナーで紹介する。</p> <p>●評価方法及び基準 口頭発表、質疑応答、レポートを総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを得た学生に単位を認定する。:</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 質問への対応:電話あるいは電子メール 連絡先:[加速器科学研究分野]内線5687 takasina@numse.nagoya-u.ac.jp: [物性研究分野]内線5347 t.ito@numse.nagoya-u.ac.jp</p>	

シンクロトロン光応用工学セミナー2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	3年前期
教員	高崎 圭史 教授 伊藤 孝寛 准教授 山本 尚人 助教
<p>●本講座の目的およびねらい [加速器科学研究分野] シンクロトロン光源としての電子加速器と、そこから発生する光の基礎的性質を理解するために必要な教科書・文献を輪読・発表する。(達成目標):1. 粒子加速器の種類と基礎的な原理を理解する。:2. 電子蓄積リングにおける電子ビームの振る舞いを理解する。:3. 電子蓄積リングから発生する光の性質について理解する。</p> <p>[物性研究分野] シンクロトロン光を初めとする光を利用した電子分光により、材料における電子状態と物性の関わりを総合的に理解するために必要な教科書・文献を輪読・発表する。(達成目標):1. 電子分光の基礎的な原理を理解する。:2. 材料の電子状態、特にバンド構造およびフェルミ面と材料の性質の関係を理解する。3. シンクロトロン光を用いた電子分光による材料分析の特徴と利用手法について理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 力学I、II、電磁気学I、II、量子力学、固体物理学</p> <p>●授業内容 [加速器科学研究分野] 1. 特殊相対性理論:2. 加速器物理学:3. 電磁波の発生</p> <p>[物性研究分野] 1. 材料物性:2. シンクロトロン光応用工学</p> <p>●教科書 輪読する教科書については、適宜選定する。</p> <p>●参考書 必要に応じてセミナーで紹介する。</p> <p>●評価方法及び基準 口頭発表、質疑応答、レポートを総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを得た学生に単位を認定する。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 質問への対応:電話あるいは電子メール 連絡先:[加速器科学研究分野]内線5687 takasina@numse.nagoya-u.ac.jp: [物性研究分野]内線5347 t.ito@numse.nagoya-u.ac.jp</p>	

材料加工工学セミナー2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年前期
教員	石川 孝司 教授 湯川 伸樹 准教授 阿部 英嗣 助教 石黒 太浩 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 材料塑性加工に関する課題および博士論文に関連する課題を与え、解答を作成、発表させ、さらに課題を割り出すことを課すことによって、理論の構築および独創性を発揮させるための訓練を行う。塑性加工のための材料選択、工程設計、条件最適化について創造力、総合力を養う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 材料力学、構造材料学、材料塑性加工学</p> <p>●授業内容 受講者の博士論文のテーマおよび将来問題となると考えられる材料塑性加工に関する諸問題から小テーマを選択し、与える。さらに、自分で課題を見つけだす訓練もする。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法及び基準 レポート、プレゼン</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

材料加工工学セミナー2B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年後期
教員	石川 孝司 教授 湯川 伸樹 准教授 阿部 英嗣 助教 石黒 太浩 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 材料塑性加工に関する課題および博士論文に関連する課題を与え、解答を作成、発表させ、さらに課題を割り出すことを課すことによって、理論の構築および独創性を発揮させるための訓練を行う。塑性加工のための材料選択、工程設計、条件最適化について創造力、総合力を養う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 材料力学、構造材料学、材料塑性加工学</p> <p>●授業内容 受講者の博士論文のテーマおよび将来問題となると考えられる材料塑性加工に関する諸問題から小テーマを選択し、与える。さらに、自分で課題を見つけだす訓練もする。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法及び基準 レポート、プレゼン</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

材料加工工学セミナー2C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年前期
教員	石川 孝司 教授 湯川 伸樹 准教授 阿部 英嗣 助教 石黒 太浩 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 材料塑性加工に関する課題および博士論文に関連する課題を与え、解答を作成、発表させ、さらに課題を創り出すことを深すことによって、理論の構築および独創性を発揮させるための訓練を行う。塑性加工のための材料選択、工程設計、条件最適化について創造力、総合力を養う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 材料力学、構造材料学、材料塑性加工学</p> <p>●授業内容 受講者の博士論文のテーマおよび将来問題となると考えられる材料塑性加工に関する諸問題から小テーマを選択し、与える。さらに、自分で課題を見つけて学習もする。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート、プレゼン</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

材料加工工学セミナー2D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年後期
教員	石川 孝司 教授 湯川 伸樹 准教授 阿部 英嗣 助教 石黒 太浩 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 材料塑性加工に関する課題および博士論文に関連する課題を与え、解答を作成、発表させ、さらに課題を創り出すことを深すことによって、理論の構築および独創性を発揮させるための訓練を行う。塑性加工のための材料選択、工程設計、条件最適化について創造力、総合力を養う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 材料力学、構造材料学、材料塑性加工学</p> <p>●授業内容 受講者の博士論文のテーマおよび将来問題となると考えられる材料塑性加工に関する諸問題から小テーマを選択し、与える。さらに、自分で課題を見つけて学習もする。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート、プレゼン</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

材料加工工学セミナー2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	3年前期
教員	石川 孝司 教授 湯川 伸樹 准教授 阿部 英嗣 助教 石黒 太浩 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 材料塑性加工に関する課題および博士論文に関連する課題を与え、解答を作成、発表させ、さらに課題を創り出すことを深すことによって、理論の構築および独創性を発揮させるための訓練を行う。塑性加工のための材料選択、工程設計、条件最適化について創造力、総合力を養う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 材料力学、構造材料学、材料塑性加工学</p> <p>●授業内容 受講者の博士論文のテーマおよび将来問題となると考えられる材料塑性加工に関する諸問題から小テーマを選択し、与える。さらに、自分で課題を見つけて学習もする。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート、プレゼン</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

材料強度学セミナー2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年前期
教員	田川 哲哉 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 材料の破壊現象、破壊力学評価手法に関する課題および博士論文に関連する課題に対して発表・討論を行うことで、新たな課題を創り出し、研究における論理構築と独創性を導き出す総合力を養う。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 材料強度学、材料力学、構造材料学</p> <p>●授業内容 材料の疲労と破壊と破壊力学による評価手法に関する文献の輪講、演習を行う</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 「材料強度学」：(日本材料学会), Fracture Mechanics -second edition- (CRC press)</p> <p>●評価方法と基準 口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 担当教員連絡先：田川, 内線 3577, tagawa@nurse.nagoya-u.ac.jp</p>	

材料強度学セミナー2B (2.0単位)

科目区分 主専攻科目  
 課程区分 後期課程  
 授業形態 セミナー  
 対象履修コース 材料工学分野  
 開講時期1 1年後期  
 教員 田川 哲哉 准教授

- 本講座の目的およびねらい  
 材料の破壊現象、破壊力学評価手法に関する課題および博士論文に関連する課題に対して発表・討論を行うことで、新たな課題を創り出し、研究における論理構築と独創性を導き出す総合力を養う。
- バックグラウンドとなる科目  
 材料強度学、材料力学、構造材料学
- 授業内容  
 材料の疲労と破壊と破壊力学による評価手法に関する文献の輪講、演習を行う。
- 教科書  
 なし
- 参考書  
 「材料強度学」：(日本材料学会), Fracture Mechanics -second edition- (CRC press)
- 評価方法と基準  
 口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応  
 担当教員連絡先：田川, 内線 3577, tagawa@numse.nagoya-u.ac.jp

材料強度学セミナー2C (2.0単位)

科目区分 主専攻科目  
 課程区分 後期課程  
 授業形態 セミナー  
 対象履修コース 材料工学分野  
 開講時期1 2年前期  
 教員 田川 哲哉 准教授

- 本講座の目的およびねらい  
 材料の破壊現象、破壊力学評価手法に関する課題および博士論文に関連する課題に対して発表・討論を行うことで、新たな課題を創り出し、研究における論理構築と独創性を導き出す総合力を養う。
- バックグラウンドとなる科目  
 材料強度学、材料力学、構造材料学
- 授業内容  
 材料の疲労と破壊と破壊力学による評価手法に関する文献の輪講、演習を行う。
- 教科書  
 なし
- 参考書  
 「材料強度学」：(日本材料学会), Fracture Mechanics -second edition- (CRC press)
- 評価方法と基準  
 口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応  
 担当教員連絡先：田川, 内線 3577, tagawa@numse.nagoya-u.ac.jp

材料強度学セミナー2D (2.0単位)

科目区分 主専攻科目  
 課程区分 後期課程  
 授業形態 セミナー  
 対象履修コース 材料工学分野  
 開講時期1 2年後期  
 教員 田川 哲哉 准教授

- 本講座の目的およびねらい  
 材料の破壊現象、破壊力学評価手法に関する課題および博士論文に関連する課題に対して発表・討論を行うことで、新たな課題を創り出し、研究における論理構築と独創性を導き出す総合力を養う。
- バックグラウンドとなる科目  
 材料強度学、材料力学、構造材料学
- 授業内容  
 材料の疲労と破壊と破壊力学による評価手法に関する文献の輪講、演習を行う。
- 教科書  
 なし
- 参考書  
 「材料強度学」：(日本材料学会), Fracture Mechanics -second edition- (CRC press)
- 評価方法と基準  
 口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応  
 担当教員連絡先：田川, 内線 3577, tagawa@numse.nagoya-u.ac.jp

材料強度学セミナー2E (2.0単位)

科目区分 主専攻科目  
 課程区分 後期課程  
 授業形態 セミナー  
 対象履修コース 材料工学分野  
 開講時期1 3年前期  
 教員 田川 哲哉 准教授

- 本講座の目的およびねらい  
 材料の破壊現象、破壊力学評価手法に関する課題および博士論文に関連する課題に対して発表・討論を行うことで、新たな課題を創り出し、研究における論理構築と独創性を導き出す総合力を養う。
- バックグラウンドとなる科目  
 材料強度学、材料力学、構造材料学
- 授業内容  
 材料の疲労と破壊と破壊力学による評価手法に関する文献の輪講、演習を行う。
- 教科書  
 なし
- 参考書  
 「材料強度学」：(日本材料学会), Fracture Mechanics -second edition- (CRC press)
- 評価方法と基準  
 口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応  
 担当教員連絡先：田川, 内線 3577, tagawa@numse.nagoya-u.ac.jp

材料物理化学セミナー2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年前期
教員	藤澤 敏治 教授 佐野 浩行 助教

●本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。  
これらを通じて、材料工学に関する応用力並びに創造力・総合力・俯瞰力を養う。

達成目標  
1. 学問の構築と独創性を発揮できる素養を獲得する。  
2. 関連分野の研究動向に関する理解を深める。

●バックグラウンドとなる科目  
化学基礎I・II、物理化学、材料物理化学、応用熱力学、移動現象論、金属反応論、素材プロセス工学第2、高温物理化学特論、材料分離・精製工学特論

●授業内容  
受講者の博士論文のテーマおよび、その時々において将来問題となると考えられる素材製造プロセスに関する諸問題の中から小テーマを選定する。

●教科書  
使用しない(必要に応じてプリント資料を配布する)

●参考書

●評価方法と基準  
達成目標に対する評価の重みは同等。  
レポート及び口頭発表にて総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。

●履修条件・注意事項  
特になし。

●質問への対応  
セミナー時、あるいは教員室(事前に電話かメールで時間を打合せること)にて受け付ける。  
担当教員連絡先: 内線 3613 E-mail fujisawa@nunse.nagoya-u.ac.jp

材料物理化学セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年後期
教員	藤澤 敏治 教授 佐野 浩行 助教

●本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。  
これらを通じて、材料工学に関する応用力並びに創造力・総合力・俯瞰力を養う。

達成目標  
1. 学問の構築と独創性を発揮できる素養を獲得する。  
2. 関連分野の研究動向に関する理解を深める。

●バックグラウンドとなる科目  
化学基礎I・II、物理化学、材料物理化学、応用熱力学、移動現象論、金属反応論、素材プロセス工学第2、高温物理化学特論、材料分離・精製工学特論

●授業内容  
受講者の博士論文のテーマおよび、その時々において将来問題となると考えられる素材製造プロセスに関する諸問題の中から小テーマを選定する。

●教科書  
使用しない(必要に応じてプリント資料を配布する)

●参考書

●評価方法と基準  
達成目標に対する評価の重みは同等。  
レポート及び口頭発表にて総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。

●履修条件・注意事項  
特になし。

●質問への対応  
セミナー時、あるいは教員室(事前に電話かメールで時間を打合せること)にて受け付ける。  
担当教員連絡先: 内線 3613 E-mail fujisawa@nunse.nagoya-u.ac.jp

材料物理化学セミナー2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年前期
教員	藤澤 敏治 教授 佐野 浩行 助教

●本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。  
これらを通じて、材料工学に関する応用力並びに創造力・総合力・俯瞰力を養う。

達成目標  
1. 学問の構築と独創性を発揮できる素養を獲得する。  
2. 関連分野の研究動向に関する理解を深める。

●バックグラウンドとなる科目  
化学基礎I・II、物理化学、材料物理化学、応用熱力学、移動現象論、金属反応論、素材プロセス工学第2、高温物理化学特論、材料分離・精製工学特論

●授業内容  
受講者の博士論文のテーマおよび、その時々において将来問題となると考えられる素材製造プロセスに関する諸問題の中から小テーマを選定する。

●教科書  
使用しない(必要に応じてプリント資料を配布する)

●参考書

●評価方法と基準  
達成目標に対する評価の重みは同等。  
レポート及び口頭発表にて総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。

●履修条件・注意事項  
特になし。

●質問への対応  
セミナー時、あるいは教員室(事前に電話かメールで時間を打合せること)にて受け付ける。  
担当教員連絡先: 内線 3613 E-mail fujisawa@nunse.nagoya-u.ac.jp

材料物理化学セミナー2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年後期
教員	藤澤 敏治 教授 佐野 浩行 助教

●本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。  
これらを通じて、材料工学に関する応用力並びに創造力・総合力・俯瞰力を養う。

達成目標  
1. 学問の構築と独創性を発揮できる素養を獲得する。  
2. 関連分野の研究動向に関する理解を深める。

●バックグラウンドとなる科目  
化学基礎I・II、物理化学、材料物理化学、応用熱力学、移動現象論、金属反応論、素材プロセス工学第2、高温物理化学特論、材料分離・精製工学特論

●授業内容  
受講者の博士論文のテーマおよび、その時々において将来問題となると考えられる素材製造プロセスに関する諸問題の中から小テーマを選定する。

●教科書  
使用しない(必要に応じてプリント資料を配布する)

●参考書

●評価方法と基準  
達成目標に対する評価の重みは同等。  
レポート及び口頭発表にて総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。

●履修条件・注意事項  
特になし。

●質問への対応  
セミナー時、あるいは教員室(事前に電話かメールで時間を打合せること)にて受け付ける。  
担当教員連絡先: 内線 3613 E-mail fujisawa@nunse.nagoya-u.ac.jp

材料物理化学セミナー2 E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	3年前期
教員	藤澤 敏治 教授 佐野 浩行 助教

●本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。  
これらを通じて、材料工学に関する応用力並びに創造力・総合力・俯瞰力を養う。

達成目標  
1. 学問の構築と独創性を発揮できる素養を獲得する。  
2. 関連分野の研究動向に関する理解を深める。

●バックグラウンドとなる科目  
化学基礎1・II、物理化学、材料物理化学、応用熱力学、移動現象論、金属反応論、素材プロセス工学第2、高温物理化学特論、材料分枝・精製工学特論

●授業内容  
受講者の博士論文のテーマおよび、その時々において将来問題となると考えられる素材製造プロセスに関する諸問題の中から小テーマを選定する。

●教科書  
使用しない(必要に応じてプリント資料を配布する)

●参考書

●評価方法及び基準

達成目標に対する評価の重みは同等。  
レポート及び口頭発表にて総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。

●履修条件・注意事項  
特になし。

●質問への対応  
セミナー時、あるいは教員室(事前に電話かメールで時間を打合せること)にて受け付ける。  
担当教員連絡先: 内線 3613 E-mail fujisawa@nunse.nagoya-u.ac.jp

材料開発工学セミナー2 A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年前期
教員	村田 純教 教授 湯川 宏助教

●本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、専門分野の素養を磨き、独創性を発揮させる訓練を行う。:達成目標:新規性、独創性に富む材料開発の口頭発表ができる。

●バックグラウンドとなる科目  
金属材料学、材料組織形成学特論、エネルギー材料組織学特論、材料開発工学セミナー1A,1B,1C,1D、材料開発工学演習および実験

●授業内容  
受講者の博士論文のテーマおよびその時々において将来問題になると考えられる材料開発工学に関する諸問題の中から小テーマを選定する。

●教科書

●参考書

●評価方法及び基準  
レポートおよび口頭試問により、目標達成度を評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
電子メール

材料開発工学セミナー2 B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年後期
教員	村田 純教 教授 湯川 宏助教

●本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、専門分野の素養を磨き、独創性を発揮させる訓練を行う。:達成目標:新規性、独創性にとむ材料開発の口頭発表ができる。

●バックグラウンドとなる科目  
金属材料学、材料組織形成学特論、エネルギー材料組織学特論、材料開発工学セミナー1A,1B,1C,1D、材料開発工学演習および実験

●授業内容  
受講者の博士論文のテーマおよびその時々において将来問題になると考えられる材料開発工学に関する諸問題の中から小テーマを選定する。

●教科書

●参考書

●評価方法及び基準  
レポートおよび口頭試問により目標達成度を評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
電子メール

材料開発工学セミナー2 C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年前期
教員	村田 純教 教授 湯川 宏助教

●本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、専門分野の素養を磨き、独創性を発揮させる訓練を行う。:達成目標:新規性、独創性に富む材料開発のレポートを論文形式で書くことができる。

●バックグラウンドとなる科目  
金属材料学、材料組織形成学特論、エネルギー材料組織学特論、材料開発工学セミナー1A,1B,1C,1D、材料開発工学演習および実験

●授業内容  
受講者の博士論文のテーマおよびその時々において将来問題になると考えられる材料開発工学に関する諸問題の中から小テーマを選定する。

●教科書

●参考書

●評価方法及び基準  
レポートにより目標達成度を評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
電子メール



**材料開発工学セミナー2D (2.0単位)**

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年後期
教員	村田 純教 教授 湯川 宏 助教

●本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、専門分野の素養を磨き、独創性を発揮させる訓練を行う。:達成目標:新規性、独創性に富む材料開発のレポートを論文形式で書くことができる。

●バックグラウンドとなる科目  
金属材料学、材料組織形成学特論、エネルギー材料組織学特論、材料開発工学セミナー1A,1B,1C,1D、材料開発工学演習および実験

●授業内容  
受講者の博士論文のテーマおよびその時々において将来問題になると考えられる材料開発工学に関する諸問題の中から小テーマを選定する。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準  
レポートにより目標達成度を評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
電子メール

**材料開発工学セミナー2E (2.0単位)**

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	3年前期
教員	村田 純教 教授 湯川 宏 助教

●本講座の目的およびねらい  
将来問題となる課題および博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を独自で作成することによって、専門分野の素養を磨き、独創性を発揮させる訓練を行う。:達成目標:新規性、独創性に富む材料開発の研究を行い、その口頭発表、論文執筆を行う総合研究力に優れている。

●バックグラウンドとなる科目  
金属材料学、材料組織形成学特論、エネルギー材料組織学特論、材料開発工学セミナー1A,1B,1C,1D、材料開発工学演習および実験

●授業内容  
受講者の博士論文のテーマおよびその時々において将来問題になると考えられる材料開発工学に関する諸問題の中から小テーマを選定する。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準  
レポートおよび口頭試験により総合評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

**材料構造制御工学セミナー2A (2.0単位)**

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年前期
教員	金武 直幸 教授 伊藤 孝至 准教授 小橋 真 准教授 久米 裕二 助教

●本講座の目的およびねらい  
金属材料、複合材料、ポーラス材料を中心に、材料内部の微視構造と機能特性の発現に関連する分野において、特に博士論文の内容に関する研究開発状況の理解を深めて、博士論文の位置付けを明確にする。また、関連分野において将来問題になる課題や博士論文に関連する課題を与えて、その解答を整理報告することによって、研究者としての創造性や独創性を発揮する訓練をする。

●バックグラウンドとなる科目  
結晶物理学、材料物理学、材料物理化学、材料力学第1・第2、金属材料学第1・第2、複合材料工学、材料強度学、材料塑性加工学、セラミック材料学、複合プロセス工学得論、複合材料設計学特論

●授業内容  
1. 複合材料の微視構造、諸特性、製造プロセス 2. ポーラス材料の微視構造、諸特性、製造プロセス \ 3. 金属材料の微視構造、諸特性、組織制御プロセス \ 4. 博士論文のテーマに関連する内容

●教科書  
調査報告する文献については、各自の博士論文の研究内容に合わせて適宜選定する。

●参考書

●評価方法と基準  
口頭発表、質疑応答、討論への参加、報告資料作成などを総合的に評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

**材料構造制御工学セミナー2B (2.0単位)**

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年後期
教員	金武 直幸 教授 伊藤 孝至 准教授 小橋 真 准教授 久米 裕二 助教

●本講座の目的およびねらい  
金属材料、複合材料、ポーラス材料を中心に、材料内部の微視構造と機能特性の発現に関連する分野において、特に博士論文の内容に関する研究開発状況の理解を深めて、博士論文の位置付けを明確にする。また、関連分野において将来問題になる課題や博士論文に関連する課題を与えて、その解答を整理報告することによって、研究者としての創造性や独創性を発揮する訓練をする。

●バックグラウンドとなる科目  
結晶物理学、材料物理学、材料物理化学、材料力学第1・第2、金属材料学第1・第2、複合材料工学、材料強度学、材料塑性加工学、セラミック材料学、複合プロセス工学得論、複合材料設計学特論

●授業内容  
1. 複合材料の微視構造、諸特性、製造プロセス 2. ポーラス材料の微視構造、諸特性、製造プロセス \ 3. 金属材料の微視構造、諸特性、組織制御プロセス \ 4. 博士論文のテーマに関連する内容

●教科書  
調査報告する文献については、各自の博士論文の研究内容に合わせて適宜選定する。

●参考書

●評価方法と基準  
口頭発表、質疑応答、討論への参加、報告資料作成などを総合的に評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

材料構造制御工学セミナー2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年前期
教員	金武 直幸 教授 伊藤 孝至 准教授 小橋 真 准教授 久米 裕二 助教

- 本講座の目的およびねらい  
金属材料、複合材料、ポーラス材料を中心に、材料内部の微視構造と機能特性の発現に関連する分野において、特に博士論文の内容に関する研究開発状況の理解を深めて、博士論文の位置付けを明確にする。また、関連分野において将来問題になる課題や博士論文に関連する課題を与えて、その解答を整理報告することによって、研究者としての創造性や独創性を発揮する訓練をする。
- バックグラウンドとなる科目  
結晶物理学、材料物理学、材料物理化学、材料力学第1・第2、金属材料学第1・第2、複合材料工学、材料強度学、材料塑性加工学、セラミック材料学、複合プロセス工学得論、複合材料設計学特論
- 授業内容  
1. 複合材料の微視構造、諸特性、製造プロセス 2. ポーラス材料の微視構造、諸特性、製造プロセス \ 3. 金属材料の微視構造、諸特性、組織制御プロセス \ 4. 博士論文のテーマに関連する内容
- 教科書  
調査報告する文献については、各自の博士論文の研究内容に合わせて適宜選定する。
- 参考書
- 評価方法と基準  
口頭発表、質疑応答、討論への参加、報告資料作成などを総合的に評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

材料構造制御工学セミナー2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年後期
教員	金武 直幸 教授 伊藤 孝至 准教授 小橋 真 准教授 久米 裕二 助教

- 本講座の目的およびねらい  
金属材料、複合材料、ポーラス材料を中心に、材料内部の微視構造と機能特性の発現に関連する分野において、特に博士論文の内容に関する研究開発状況の理解を深めて、博士論文の位置付けを明確にする。また、関連分野において将来問題になる課題や博士論文に関連する課題を与えて、その解答を整理報告することによって、研究者としての創造性や独創性を発揮する訓練をする。
- バックグラウンドとなる科目  
結晶物理学、材料物理学、材料物理化学、材料力学第1・第2、金属材料学第1・第2、複合材料工学、材料強度学、材料塑性加工学、セラミック材料学、複合プロセス工学得論、複合材料設計学特論
- 授業内容  
1. 複合材料の微視構造、諸特性、製造プロセス 2. ポーラス材料の微視構造、諸特性、製造プロセス \ 3. 金属材料の微視構造、諸特性、組織制御プロセス \ 4. 博士論文のテーマに関連する内容
- 教科書  
調査報告する文献については、各自の博士論文の研究内容に合わせて適宜選定する。
- 参考書
- 評価方法と基準
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

材料構造制御工学セミナー2E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	3年前期
教員	金武 直幸 教授 伊藤 孝至 准教授 小橋 真 准教授 久米 裕二 助教

- 本講座の目的およびねらい  
金属材料、複合材料、ポーラス材料を中心に、材料内部の微視構造と機能特性の発現に関連する分野において、特に博士論文の内容に関する研究開発状況の理解を深めて、博士論文の位置付けを明確にする。また、関連分野において将来問題になる課題や博士論文に関連する課題を与えて、その解答を整理報告することによって、研究者としての創造性や独創性を発揮する訓練をする。
- バックグラウンドとなる科目  
結晶物理学、材料物理学、材料物理化学、材料力学第1・第2、金属材料学第1・第2、複合材料工学、材料強度学、材料塑性加工学、セラミック材料学、複合プロセス工学得論、複合材料設計学特論
- 授業内容  
1. 複合材料の微視構造、諸特性、製造プロセス 2. ポーラス材料の微視構造、諸特性、製造プロセス \ 3. 金属材料の微視構造、諸特性、組織制御プロセス \ 4. 博士論文のテーマに関連する内容
- 教科書  
調査報告する文献については、各自の博士論文の研究内容に合わせて適宜選定する。
- 参考書
- 評価方法と基準  
口頭発表、質疑応答、討論への参加、報告資料作成などを総合的に評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

スピントロニクス工学セミナー2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 結晶材料工学専攻
開講時期1	1年前期 1年前期
教員	浅野 秀文 教授 榎田 研二 准教授 宮脇 哲也 助教

- 本講座の目的およびねらい  
電子物性、特にスピントロニクスに関する基礎理論を学習する。また試料作製法、物性測定法、物性解析法を習得する。スピントロニクスを中心に最近の世界の研究、スピントロニクス材料開発動向について学ぶ。：達成目標：1) 材料物性の基礎理論を説明できる。：2) スピントロニクスの物理的概念を説明できる。：3) スピントロニクス材料研究の世界の動向の概略を説明できる。
- バックグラウンドとなる科目  
電磁気学A、結晶物理学、量子力学A、材料物性学、材料物理学、磁性材料学、スピントロニクス工学セミナー1A～1D
- 授業内容  
1. 磁性人工格子超薄膜・ナノ超微粒子の磁性制御法 2. 磁性接合のGMRとTMRのデバイスへの応用 3. 物質：のCMRのデバイスへの応用：4. 薄膜のメスバウアー効果：5. リングラファイア  
：6. 工学的な観点から見た磁気物性の応用
- 教科書  
毎回プリントを配布して、課題について討論する
- 参考書
- 評価方法と基準  
達成目標に対する評価は同等である。：課題論文レポート50%、研究発表50%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

—— スピン物性工学セミナー2B (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 結晶材料工学専攻
開講時期1	1年後期 1年後期
教員	浅野 秀文 教授 植田 研二 准教授 宮脇 哲也 助教

---

●本講座の目的およびねらい  
電子物性、特にスピン物性に関する基礎理論を学習する。また試料作製法、物性測定法、物性解析法を習得する。スピン物性工学を中心に最近の世界の研究、スピントロニクス材料開発動向について学ぶ。:達成目標:1) 材料物性の基礎理論を説明できる。:2) スピン物性の物理的概念を説明できる。:3) スピントロニクス材料研究の世界の動向の概略を説明できる。

●バックグラウンドとなる科目  
電磁気学A、結晶物理学、量子力学A、材料物性学、材料物理学、磁性材料学、スピン物性工学セミナー1A~1D、スピン物性工学セミナー2A

●授業内容  
1. 磁性人工格子超薄膜・ナノ超微粒子の磁性制御法2. 磁性接合のGMRとTMRのデバイスへの応用:3. 物質のCMRのデバイスへの応用:4. 薄膜のメスbauer効果:5. リソグラフィ:6. 工学的な観点から見た磁気物性の応用

●教科書  
毎回プリントを配布して、課題について討論する。

●参考書

●評価方法と基準  
達成目標に対する評価は同等である。:課題論文レポート50%、研究発表50%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

—— スピン物性工学セミナー2C (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 結晶材料工学専攻
開講時期1	2年前期 2年前期
教員	浅野 秀文 教授 植田 研二 准教授 宮脇 哲也 助教

---

●本講座の目的およびねらい  
電子物性、特にスピン物性に関する基礎理論を学習する。また試料作製法、物性測定法、物性解析法を習得する。スピン物性工学を中心に最近の世界の研究、スピントロニクス材料開発動向について学ぶ。:達成目標:1) 材料物性の基礎理論を説明できる。:2) スピン物性の物理的概念を説明できる。:3) スピントロニクス材料研究の世界の動向の概略を説明できる。

●バックグラウンドとなる科目  
電磁気学A、結晶物理学、量子力学A、材料物性学、材料物理学、磁性材料学、スピン物性工学セミナー1A~1D、スピン物性工学セミナー2A~2B

●授業内容  
1. 磁性人工格子超薄膜・ナノ超微粒子の磁性制御法2. 磁性接合のGMRとTMRのデバイスへの応用:3. 物質のCMRのデバイスへの応用:4. 薄膜のメスbauer効果:5. リソグラフィ:6. 工学的な観点から見た磁気物性の応用

●教科書  
毎回プリントを配布して、課題について討論する。

●参考書

●評価方法と基準  
達成目標に対する評価は同等である。:課題論文レポート50%、研究発表50%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

—— スピン物性工学セミナー2D (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 結晶材料工学専攻
開講時期1	2年後期 2年後期
教員	浅野 秀文 教授 植田 研二 准教授 宮脇 哲也 助教

---

●本講座の目的およびねらい  
電子物性、特にスピン物性に関する基礎理論を学習する。また試料作製法、物性測定法、物性解析法を習得する。スピン物性工学を中心に最近の世界の研究、スピントロニクス材料開発動向について学ぶ。:達成目標:1) 材料物性の基礎理論を説明できる。:2) スピン物性の物理的概念を説明できる。:3) スピントロニクス材料研究の世界の動向の概略を説明できる。

●バックグラウンドとなる科目  
電磁気学A、結晶物理学、量子力学A、材料物性学、材料物理学、磁性材料学、スピン物性工学セミナー1A~1D、スピン物性工学セミナー2A~2C

●授業内容  
1. 磁性人工格子超薄膜・ナノ超微粒子の磁性制御法2. 磁性接合のGMRとTMRのデバイスへの応用:3. 物質のCMRのデバイスへの応用:4. 薄膜のメスbauer効果:5. リソグラフィ:6. 工学的な観点から見た磁気物性の応用

●教科書  
毎回プリントを配布して、課題について討論する。

●参考書

●評価方法と基準  
達成目標に対する評価は同等である。:課題論文レポート50%、研究発表50%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

—— スピン物性工学セミナー2E (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 結晶材料工学専攻
開講時期1	3年前期 3年前期
教員	浅野 秀文 教授 植田 研二 准教授 宮脇 哲也 助教

---

●本講座の目的およびねらい  
電子物性、特にスピン物性に関する基礎理論を学習する。また試料作製法、物性測定法、物性解析法を習得する。スピン物性工学を中心に最近の世界の研究、スピントロニクス材料開発動向について学ぶ。:達成目標:1) 材料物性の基礎理論を説明できる。:2) スピン物性の物理的概念を説明できる。:3) スピントロニクス材料研究の世界の動向の概略を説明できる。

●バックグラウンドとなる科目  
電磁気学A、結晶物理学、量子力学A、材料物性学、材料物理学、磁性材料学、スピン物性工学セミナー1A~1D、スピン物性工学セミナー2A~2D

●授業内容  
1. 磁性人工格子超薄膜・ナノ超微粒子の磁性制御法2. 磁性接合のGMRとTMRのデバイスへの応用:3. 物質のCMRのデバイスへの応用:4. 薄膜のメスbauer効果:5. リソグラフィ:6. 工学的な観点から見た磁気物性の応用

●教科書  
毎回プリントを配布して、課題について討論する。

●参考書

●評価方法と基準  
達成目標に対する評価は同等である。:課題論文レポート50%、研究発表50%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

環境調和型分離計測セミナー2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年前期
教員	松宮 弘明 准教授

●本講座の目的およびねらい  
環境との関わりを念頭に置きながら、各種分離および分析法に関する英文テキストを輪読し、また専門誌に掲載された関連論文の紹介と討論を通して、研究の進め方やまとめ方を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。

達成目標  
1. 各種分離および分析法に関して基本的事項を理解し、他者に分りやすく解説できる。  
2. 英語文献から情報を正確に読み取り、俯瞰的かつ総合的に内容を判断し、自身の創造的研究に何かしら応用できる。

- バックグラウンドとなる科目  
分析化学、無機化学、有機化学、生化学、物理化学、原子物理学
- 授業内容  
主に極微量成分分析や存在形態別分離の基礎と応用について議論し、環境汚染物質の動態や除去、無害化、また、廃棄物資源や未利用資源の回収や有効利用に関する話題を扱う。
- 教科書  
セミナーの進行に合わせて、輪読するテキストや文献を適宜選定する。
- 参考書  
必要に応じて適宜紹介するが、参加学生も自ら探索することが大切である。
- 評価方法と基準  
セミナーにおける口頭発表内容（作成した資料も含む）とそれに対する質疑応答、また討論への参加の積極性から評価する。100点満点（発表50点、質疑応答30点、討論参加20点）で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項  
しっかりとした準備と幅広い学習を心掛けること。
- 質問への対応  
セミナー時または時間打合せのうえ対応する。

環境調和型分離計測セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年後期
教員	松宮 弘明 准教授

●本講座の目的およびねらい  
環境との関わりを念頭に置きながら、各種分離および分析法に関する英文テキストを輪読し、また専門誌に掲載された関連論文の紹介と討論を通して、研究の進め方やまとめ方を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。

達成目標  
1. 各種分離および分析法に関して基本的事項を理解し、他者に分りやすく解説できる。  
2. 英語文献から情報を正確に読み取り、俯瞰的かつ総合的に内容を判断し、自身の創造的研究に何かしら応用できる。

- バックグラウンドとなる科目  
分析化学、無機化学、有機化学、生化学、物理化学、原子物理学
- 授業内容  
主に極微量成分分析や存在形態別分離の基礎と応用について議論し、環境汚染物質の動態や除去、無害化、また、廃棄物資源や未利用資源の回収や有効利用に関する話題を扱う。
- 教科書  
セミナーの進行に合わせて、輪読するテキストや文献を適宜選定する。
- 参考書  
必要に応じて適宜紹介するが、参加学生も自ら探索することが大切である。
- 評価方法と基準  
セミナーにおける口頭発表内容（作成した資料も含む）とそれに対する質疑応答、また討論への参加の積極性から評価する。100点満点（発表50点、質疑応答30点、討論参加20点）で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項  
しっかりとした準備と幅広い学習を心掛けること。
- 質問への対応  
セミナー時または時間打合せのうえ対応する。

環境調和型分離計測セミナー2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年前期
教員	松宮 弘明 准教授

●本講座の目的およびねらい  
環境との関わりを念頭に置きながら、各種分離および分析法に関する英文テキストを輪読し、また専門誌に掲載された関連論文の紹介と討論を通して、研究の進め方やまとめ方を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。

達成目標  
1. 各種分離および分析法に関して基本的事項を理解し、他者に分りやすく解説できる。  
2. 英語文献から情報を正確に読み取り、俯瞰的かつ総合的に内容を判断し、自身の創造的研究に何かしら応用できる。

- バックグラウンドとなる科目  
分析化学、無機化学、有機化学、生化学、物理化学、原子物理学
- 授業内容  
主に極微量成分分析や存在形態別分離の基礎と応用について議論し、環境汚染物質の動態や除去、無害化、また、廃棄物資源や未利用資源の回収や有効利用に関する話題を扱う。
- 教科書  
セミナーの進行に合わせて、輪読するテキストや文献を適宜選定する。
- 参考書  
必要に応じて適宜紹介するが、参加学生も自ら探索することが大切である。
- 評価方法と基準  
セミナーにおける口頭発表内容（作成した資料も含む）とそれに対する質疑応答、また討論への参加の積極性から評価する。100点満点（発表50点、質疑応答30点、討論参加20点）で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項  
しっかりとした準備と幅広い学習を心掛けること。
- 質問への対応  
セミナー時または時間打合せのうえ対応する。

環境調和型分離計測セミナー2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年後期
教員	松宮 弘明 准教授

●本講座の目的およびねらい  
環境との関わりを念頭に置きながら、各種分離および分析法に関する英文テキストを輪読し、また専門誌に掲載された関連論文の紹介と討論を通して、研究の進め方やまとめ方を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。

達成目標  
1. 各種分離および分析法に関して基本的事項を理解し、他者に分りやすく解説できる。  
2. 英語文献から情報を正確に読み取り、俯瞰的かつ総合的に内容を判断し、自身の創造的研究に何かしら応用できる。

- バックグラウンドとなる科目  
分析化学、無機化学、有機化学、生化学、物理化学、原子物理学
- 授業内容  
主に極微量成分分析や存在形態別分離の基礎と応用について議論し、環境汚染物質の動態や除去、無害化、また、廃棄物資源や未利用資源の回収や有効利用に関する話題を扱う。
- 教科書  
セミナーの進行に合わせて、輪読するテキストや文献を適宜選定する。
- 参考書  
必要に応じて適宜紹介するが、参加学生も自ら探索することが大切である。
- 評価方法と基準  
セミナーにおける口頭発表内容（作成した資料も含む）とそれに対する質疑応答、また討論への参加の積極性から評価する。100点満点（発表50点、質疑応答30点、討論参加20点）で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項  
しっかりとした準備と幅広い学習を心掛けること。
- 質問への対応  
セミナー時または時間打合せのうえ対応する。

環境調和型分離計測セミナー2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	3年前期
教員	松宮 弘明 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 環境との関わりを念頭に置きながら、各種分離および分析法に関する英文テキストを輪読し、また専門誌に掲載された関連論文の紹介と討論を通して、研究の進め方やまとめ方を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。</p> <p>達成目標 1. 各種分離および分析法に関して基本的事項を理解し、他者に分かりやすく解説できる。 2. 英語文献から情報を正確に読み取り、俯瞰的かつ総合的に内容を判断し、自身の創造的研究に何から応用できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 分析化学、無機化学、有機化学、生化学、物理化学、原子物理学</p> <p>●授業内容 主に極微量成分分析や存在形態別分離の基礎と応用について議論し、環境汚染物質の動態や除去、無害化、また、廃棄物資源や未利用資源の回収や有効利用に関する話題を扱う。</p> <p>●教科書 セミナーの進行に合わせて、輪読するテキストや文献を適宜選定する。</p> <p>●参考書 必要に応じて適宜紹介するが、参加学生も自ら探索することが大切である。</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表内容（作成した資料も含む）とそれに対する質疑応答、また討論への参加の積極性から評価する。100点満点（発表50点、質疑応答30点、討論参加20点）で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 しっかりとした準備と幅広い学習を心掛けること。</p> <p>●質問への対応 セミナー時または時間打合せのうえ対応する。</p>	

低環境負荷材料工学セミナー2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年前期
教員	市野 良一 教授 神本 祐樹 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 低環境負荷を基盤とする資源循環について独自に調査・収集する。資源循環を見据えた分離工学の基礎から新規分離技術開発・応用、さらには環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発の重要性について理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 物理化学、素材プロセス工学第2、化学基礎1、2</p> <p>●授業内容 低環境負荷を基盤とする資源循環技術、分離工学技術の基礎、環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発等について、基礎から応用にわたり調査討論する。</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 適宜指示する</p> <p>●評価方法と基準 口頭試問にて60ポイント以降獲得した者に成績を与える</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 担当教員の都合をメールにて確認したのち、進める。</p>	

低環境負荷材料工学セミナー2B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年後期
教員	市野 良一 教授 神本 祐樹 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 低環境負荷を基盤とする資源循環について独自に調査・収集する。資源循環を見据えた分離工学の基礎から新規分離技術開発・応用、さらには環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発の重要性について理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 物理化学、素材プロセス工学第2、化学基礎1、2</p> <p>●授業内容 低環境負荷を基盤とする資源循環技術、分離工学技術の基礎、環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発等について、基礎から応用にわたり調査討論する。</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 適宜指示する</p> <p>●評価方法と基準 口頭試問にて60ポイント以降獲得した者に成績を与える</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 担当教員の都合をメールにて確認したのち、進める。</p>	

低環境負荷材料工学セミナー2C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年前期
教員	市野 良一 教授 神本 祐樹 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 低環境負荷を基盤とする資源循環について独自に調査・収集する。資源循環を見据えた分離工学の基礎から新規分離技術開発・応用、さらには環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発の重要性について理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 物理化学、素材プロセス工学第2、化学基礎1、2</p> <p>●授業内容 低環境負荷を基盤とする資源循環技術、分離工学技術の基礎、環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発等について、基礎から応用にわたり調査討論する。</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 適宜指示する</p> <p>●評価方法と基準 口頭試問にて60ポイント以降獲得した者に成績を与える</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 担当教員の都合をメールにて確認したのち、進める。</p>	

低環境負荷材料工学セミナー2D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年後期
教員	市野 良一 教授 神本 祐樹 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 低環境負荷を基盤とする資源循環について独自に調査・収集する。資源循環を見据えた分離工学の基礎から新規分離技術開発・応用。さらには環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発の重要性について理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 物理化学、素材プロセス工学第2、化学基礎1、2</p> <p>●授業内容 低環境負荷を基盤とする資源循環技術、分離工学技術の基礎、環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発等について、基礎から応用にわたり調査討論する。</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 適宜指示する</p> <p>●評価方法と基準 口頭試問にて60ポイント以降獲得した者に成績を与える。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 担当教員の都合をメールにて確認したのち、進める。</p>	

低環境負荷材料工学セミナー2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	3年前期
教員	市野 良一 教授 神本 祐樹 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 低環境負荷を基盤とする資源循環について独自に調査・収集する。資源循環を見据えた分離工学の基礎から新規分離技術開発・応用。さらには環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発の重要性について理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 物理化学、素材プロセス工学第2、化学基礎1、2</p> <p>●授業内容 低環境負荷を基盤とする資源循環技術、分離工学技術の基礎、環境負荷の低い物質への代替材料開発、環境負荷の低いプロセスの開発等について、基礎から応用にわたり調査討論する。</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 適宜指示する</p> <p>●評価方法と基準 口頭試問にて60ポイント以降獲得した者に成績を与える。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 担当教員の都合をメールにて確認したのち、進める。</p>	

材料分子科学セミナー2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年前期
教員	齋藤 永宏 教授 上野 智永 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 材料分子科学の理解</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 分子科学、量子化学、物理化学</p> <p>●授業内容 演習形式</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 出席</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

材料分子科学セミナー2B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	1年後期
教員	齋藤 永宏 教授 上野 智永 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 材料分子科学の理解</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 分子科学、量子化学、物理化学</p> <p>●授業内容 演習形式</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 出席</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

材料分子科学セミナー2C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年前期
教員	齋藤 永宏 教授 上野 智永 助教
●本講座の目的およびねらい 材料分子科学の理解	
●バックグラウンドとなる科目 分子科学、量子化学、物理化学	
●授業内容 演習形式	
●教科書 なし	
●参考書 なし	
●評価方法と基準 出席	
●履修条件・注意事項	
●質問への対応	

材料分子科学セミナー2D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	2年後期
教員	齋藤 永宏 教授 上野 智永 助教
●本講座の目的およびねらい 材料分子科学の理解	
●バックグラウンドとなる科目 分子科学、量子化学、物理化学	
●授業内容 演習形式	
●教科書 なし	
●参考書 なし	
●評価方法と基準 出席	
●履修条件・注意事項	
●質問への対応	

材料分子科学セミナー2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野
開講時期1	3年前期
教員	齋藤 永宏 教授 上野 智永 助教
●本講座の目的およびねらい 材料分子科学の理解	
●バックグラウンドとなる科目 分子科学、量子化学、物理化学	
●授業内容 演習形式	
●教科書 なし	
●参考書 なし	
●評価方法と基準 出席	
●履修条件・注意事項	
●質問への対応	

ナノ構造評価セミナー2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 量子工学専攻
開講時期1	1年前期 1年前期
教員	山本 剛久 教授 佐々木 勝寛 准教授 徳永 智春 助教
●本講座の目的およびねらい 材料の特性を微細構造から理解するための理論的・実験的基礎を修得するため、下記の課題に関するテキスト、学術論文などを輪読・発表する。とくに、電子顕微鏡法およびX線回折法の基礎および応用を理解し、新規な材料の評価を展開できるようにする。	
●バックグラウンドとなる科目 結晶物理学、格子欠陥論、材料物理学	
●授業内容 1. 構造敏感な材料特性 2. 電子顕微鏡による材料の組織の評価 3. X線による材料の評価	
●教科書	
●参考書	
●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。	
●履修条件・注意事項	
●質問への対応 随時 5号館南館 317号室, Tel:789-3349, khsasaki@nagoya-u.jp	

ナノ構造評価学セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 量子工学専攻
開講時期1	1年後期 1年後期
教員	山本 剛久 教授 佐々木 勝寛 准教授 徳永 智春 助教

●本講座の目的およびねらい  
 材料の特性を微細構造から理解するための理論的・実験的基礎を修得するため、下記の課題に関するテキスト、学術論文などを輪読・発表する。とくに、電子顕微鏡法およびX線回折法の基礎および応用を理解し、新規な材料の評価を展開できるようになる。

●バックグラウンドとなる科目  
 結晶物理学、格子欠陥論、材料物理学

●授業内容

1. 構造敏感な材料特性
2. 電子顕微鏡による材料の組織の評価
3. X線による材料の評価

●教科書

輪読する論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。

●参考書

●評価方法と基準

セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

随時

5号館南館 317号室, Tel:789-3349, khsasaki@nagoya-u.jp

ナノ構造評価学セミナー2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 量子工学専攻
開講時期1	2年前期 2年前期
教員	山本 剛久 教授 佐々木 勝寛 准教授 徳永 智春 助教

●本講座の目的およびねらい  
 材料の特性を微細構造から理解するための理論的・実験的基礎を修得するため、下記の課題に関するテキスト、学術論文などを輪読・発表する。とくに、電子顕微鏡法およびX線回折法の基礎および応用を理解し、新規な材料の評価を展開できるようになる。

●バックグラウンドとなる科目  
 結晶物理学、格子欠陥論、材料物理学

●授業内容

1. 構造敏感な材料特性
2. 電子顕微鏡による材料の組織の評価
3. X線による材料の評価

●教科書

輪読する論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。

●参考書

●評価方法と基準

セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

随時

5号館南館 317号室, Tel:789-3349, khsasaki@nagoya-u.jp

ナノ構造評価学セミナー2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 量子工学専攻
開講時期1	2年後期 2年後期
教員	山本 剛久 教授 佐々木 勝寛 准教授 徳永 智春 助教

●本講座の目的およびねらい  
 材料の特性を微細構造から理解するための理論的・実験的基礎を修得するため、下記の課題に関するテキスト、学術論文などを輪読・発表する。とくに、電子顕微鏡法およびX線回折法の基礎および応用を理解し、新規な材料の評価を展開できるようになる。

●バックグラウンドとなる科目  
 結晶物理学、格子欠陥論、材料物理学

●授業内容

1. 構造敏感な材料特性
2. 電子顕微鏡による材料の組織の評価
3. X線による材料の評価

●教科書

輪読する論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。

●参考書

●評価方法と基準

セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

随時

5号館南館 317号室, Tel:789-3349, khsasaki@nagoya-u.jp

ナノ構造評価学セミナー2E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 量子工学専攻
開講時期1	3年前期 3年前期
教員	山本 剛久 教授 佐々木 勝寛 准教授 徳永 智春 助教

●本講座の目的およびねらい  
 材料の特性を微細構造から理解するための理論的・実験的基礎を修得するため、下記の課題に関するテキスト、学術論文などを輪読・発表する。とくに、電子顕微鏡法およびX線回折法の基礎および応用を理解し、新規な材料の評価を展開できるようになる。

●バックグラウンドとなる科目  
 結晶物理学、格子欠陥論、材料物理学

●授業内容

1. 構造敏感な材料特性
2. 電子顕微鏡による材料の組織の評価
3. X線による材料の評価

●教科書

輪読する論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。

●参考書

●評価方法と基準

セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

随時

5号館南館 317号室, Tel:789-3349, khsasaki@nagoya-u.jp



材料解析学セミナー 2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期 1	1 年前期
教員	齋藤 徹 准教授

●本講座の目的およびねらい

物質のキャラクタリゼーションに関連する新しい計測手法の開発、その理論的解析、新しい計測機器の設計と製作、などに関する討論と最新の関連文献についてのセミナーを行い、材料解析に関する基礎力と応用力に加えて、目的に応じて分析系を設計し、さらには新たな分析法を提案するための創造力・総合力・協働力を養う。達成目標 1. 最新の文献を正確に読み、説明することができる。 2. 必要に応じて参考文献を調べ、わかりやすく解説できる。

●バックグラウンドとなる科目

化学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学実験、分析化学Ⅰ&Ⅱ、無機化学、物理化学、原子物理学、生化学、材料解析学セミナー1A～1D

●授業内容

1. キャラクタリゼーションの方法論
2. 高感度分析法に関する最新の進歩
3. 表面分析法に関する最新の進歩
4. センサー技術に関する最新の進歩

●教科書

セミナーに先立って分析化学やその周辺に関する最新の文献を紹介する。担当者は必要に応じて資料を作成し、文献の内容を説明する。

●参考書

セミナー担当者が探索する。

●評価方法と基準

資料調査・作成と口述試験。100点満点で60点以上を合格とする。

〈平成23年度入・進学者〉

S: 100-90点、A: 89-80点、B: 79-70点、C: 69-60点、F: 59点以下

〈平成22年度以前入・進学者〉

A: 100-80点、B: 79-70点、C: 69-60点、D: 59点以下

●履修条件・注意事項

●質問への対応

セミナー中または時間打合せのうえ対応 齋藤 saito@munse.nagoya-u.ac.jp

材料解析学セミナー 2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期 1	1 年前期
教員	香田 忍 教授 松岡 辰郎 准教授 山口 毅 助教

●本講座の目的およびねらい

物質制御工学の創造的発展に不可欠な関連諸分野の成書・論文類の輪講を通して深い深い洞察力を涵養するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。状況に追従するだけでなく、将来的展望を切り開く能力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

材料解析学セミナーⅠ、物性物理化学特論

●授業内容

1. 統計力学的手法による液体および溶液の物性研究に関するセミナー
2. 高分子、液晶などのソフトマテリアルの物性研究に関するセミナー
3. 音波と光を組み合わせた物性測定技術に関するセミナー
4. 音響的手法によるソフトマテリアルの材料評価に関するセミナー
5. ソノケミストリーの基礎と応用に関するセミナー
6. 自らの研究成果についてのプレゼンテーション

●教科書

なし

●参考書

野村・川泉・香田「液体および溶液の音波物性」名古屋大学出版会・久保「大学演習 熱学・統計力学」裳華房

●評価方法と基準

発表者のセミナー発表に対する口述試験(80%)および質問者の質疑応答の状況(20%)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

材料解析学セミナー 2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期 1	1 年後期
教員	齋藤 徹 准教授

●本講座の目的およびねらい

物質のキャラクタリゼーションに関連する新しい計測手法の開発、その理論的解析、新しい計測機器の設計と製作、などに関する討論と最新の関連文献についてのセミナーを行い、材料解析に関する基礎力と応用力に加えて、目的に応じて分析系を設計し、さらには新たな分析法を提案するための創造力・総合力・協働力を養う。達成目標 1. 最新の文献を正確に読み、説明することができる。 2. 必要に応じて参考文献を調べ、わかりやすく解説できる。

●バックグラウンドとなる科目

化学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学実験、分析化学Ⅰ&Ⅱ、無機化学、物理化学、原子物理学、生化学、材料解析学セミナー1A～1D、2A

●授業内容

1. キャラクタリゼーションの方法論
2. 高感度分析法に関する最新の進歩
3. 表面分析法に関する最新の進歩
4. センサー技術に関する最新の進歩

●教科書

セミナーに先立って分析化学やその周辺に関する最新の文献を紹介する。担当者は必要に応じて資料を作成し、文献の内容を説明する。

●参考書

セミナー担当者が探索する。

●評価方法と基準

資料調査・作成と口述試験。100点満点で60点以上を合格とする。

〈平成23年度入・進学者〉

S: 100-90点、A: 89-80点、B: 79-70点、C: 69-60点、F: 59点以下

〈平成22年度以前入・進学者〉

A: 100-80点、B: 79-70点、C: 69-60点、D: 59点以下

●履修条件・注意事項

●質問への対応

セミナー中または時間打合せのうえ対応 齋藤 saito@munse.nagoya-u.ac.jp

材料解析学セミナー 2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期 1	1 年後期
教員	香田 忍 教授 松岡 辰郎 准教授 山口 毅 助教

●本講座の目的およびねらい

物質制御工学の創造的発展に不可欠な関連諸分野の成書・論文類の輪講を通して深い深い洞察力を涵養するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。状況に追従するだけでなく、将来的展望を切り開く能力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

材料解析学セミナーⅠ、材料解析学セミナー2A、物性物理化学特論

●授業内容

1. 統計力学的手法による液体および溶液の物性研究に関するセミナー
2. 高分子、液晶などのソフトマテリアルの物性研究に関するセミナー
3. 音波と光を組み合わせた物性測定技術に関するセミナー
4. 音響的手法によるソフトマテリアルの材料評価に関するセミナー
5. ソノケミストリーの基礎と応用に関するセミナー
6. 自らの研究成果についてのプレゼンテーション

●教科書

なし

●参考書

野村・川泉・香田「液体および溶液の音波物性」名古屋大学出版会・久保「大学演習 熱学・統計力学」裳華房

●評価方法と基準

発表者のセミナー発表に対する口述試験(80%)および質問者の質疑応答の状況(20%)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

材料解析学セミナー 2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期1	2年前期 2年後期
教員	齋藤 徹 准教授

●本講座の目的およびねらい  
物質のキャラクタリゼーションに関連する新しい計測手法の開発、その理論的解析、新しい計測機器の設計と製作、などに関する討論と最新の関連文献についてのセミナーを行い、材料解析に関する基礎力と応用力に加えて、目的に応じて分析系を設計し、さらには新たな分析法を提案するための創造力・総合力・俯瞰力を養う。達成目標 1. 最新の文献を正確に読み、説明することができる。 2. 必要に応じて参考文献を調べ、わかりやすく解説できる。

●バックグラウンドとなる科目  
化学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学実験、分析化学1&2、無機化学、物理化学、原子物理学、生化学、材料解析学セミナー1A~1D, 2A, 2B

●授業内容  
1. キャラクタリゼーションの方法論  
2. 高感度分析法に関する最新の進歩  
3. 表面分析法に関する最新の進歩  
4. センサー技術に関する最新の進歩

●教科書  
セミナーに先立って分析化学やその周辺に関する最新の文献を紹介する。担当者は必要に応じて資料を作成し、文献の内容を説明する。

●参考書  
セミナー担当者が探査する。

●評価方法及び基準  
資料調査・作成と口述試験。100点満点で60点以上を合格とする。  
<平成23年度入・進学者>  
S: 100-90点, A: 89-80点, B: 79-70点, C: 69-60点, F: 59点以下  
<平成22年度以前入・進学者>  
A: 100-80点, B: 79-70点, C: 69-60点, D: 59点以下

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
セミナー中または時間打合せのうえ対応 齋藤 saitoh@nusse.nagoya-u.ac.jp

材料解析学セミナー 2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期1	2年前期 2年後期
教員	香田 忍 教授 松岡 辰郎 准教授 山口 毅 助教

●本講座の目的およびねらい  
物質制御工学の創造的発展に不可欠な関連諸分野の成書・論文類の輪講を通して深い深い洞察力を涵養するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。状況に追従するだけでなく、将来的展望を切り開く能力を養う。

●バックグラウンドとなる科目  
材料解析学セミナーⅠ, 材料解析学セミナー2A, 2B; 物性物理化学特論

●授業内容  
1. 統計力学的手法による液体および溶液の物性研究に関するセミナー  
2. 高分子、液晶などのソフトマテリアルの物性研究に関するセミナー  
3. 音波と光を組み合わせた物性測定技術に関するセミナー  
4. 音響的手法によるソフトマテリアルの材料評価に関するセミナー  
5. ソノケミストリーの基礎と応用に関するセミナー  
6. 自らの研究成果についてのプレゼンテーション

●教科書  
なし

●参考書  
野村・川原・香田「液体および溶液の音波物性」名古屋大学出版会; 久保「大学演習 熱学・統計力学」養華房

●評価方法及び基準  
発表者のセミナー発表に対する口述試験 (80%) および質問者の質疑応答の状況 (20%) で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

材料解析学セミナー 2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期1	2年後期
教員	齋藤 徹 准教授

●本講座の目的およびねらい  
物質のキャラクタリゼーションに関連する新しい計測手法の開発、その理論的解析、新しい計測機器の設計と製作、などに関する討論と最新の関連文献についてのセミナーを行い、材料解析に関する基礎力と応用力に加えて、目的に応じて分析系を設計し、さらには新たな分析法を提案するための創造力・総合力・俯瞰力を養う。達成目標 1. 最新の文献を正確に読み、説明することができる。 2. 必要に応じて参考文献を調べ、わかりやすく解説できる。

●バックグラウンドとなる科目  
化学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学実験、分析化学1&2、無機化学、物理化学、原子物理学、生化学、材料解析学セミナー1A~1D, 2A~2C

●授業内容  
1. キャラクタリゼーションの方法論  
2. 高感度分析法に関する最新の進歩  
3. 表面分析法に関する最新の進歩  
4. センサー技術に関する最新の進歩

●教科書  
セミナーに先立って分析化学やその周辺に関する最新の文献を紹介する。担当者は必要に応じて資料を作成し、文献の内容を説明する。

●参考書  
セミナー担当者が探査する。

●評価方法及び基準  
資料調査・作成と口述試験。100点満点で60点以上を合格とする。  
<平成23年度入・進学者>  
S: 100-90点, A: 89-80点, B: 79-70点, C: 69-60点, F: 59点以下  
<平成22年度以前入・進学者>  
A: 100-80点, B: 79-70点, C: 69-60点, D: 59点以下

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
セミナー中または時間打合せのうえ対応 齋藤 saitoh@nusse.nagoya-u.ac.jp

材料解析学セミナー 2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期1	2年後期
教員	香田 忍 教授 松岡 辰郎 准教授 山口 毅 助教

●本講座の目的およびねらい  
物質制御工学の創造的発展に不可欠な関連諸分野の成書・論文類の輪講を通して深い深い洞察力を涵養するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。状況に追従するだけでなく、将来的展望を切り開く能力を養う。

●バックグラウンドとなる科目  
材料解析学セミナーⅠ, 材料解析学セミナー2A, 2B, 2C; 物性物理化学特論

●授業内容  
1. 統計力学的手法による液体および溶液の物性研究に関するセミナー  
2. 高分子、液晶などのソフトマテリアルの物性研究に関するセミナー  
3. 音波と光を組み合わせた物性測定技術に関するセミナー  
4. 音響的手法によるソフトマテリアルの材料評価に関するセミナー  
5. ソノケミストリーの基礎と応用に関するセミナー  
6. 自らの研究成果についてのプレゼンテーション

●教科書  
なし

●参考書  
野村・川原・香田「液体および溶液の音波物性」名古屋大学出版会; 久保「大学演習 熱学・統計力学」養華房

●評価方法及び基準  
発表者のセミナー発表に対する口述試験 (80%) および質問者の質疑応答の状況 (20%) で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

材料解析学セミナー 2E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期1	3年前期 3年前期
教員	齋藤 徹 准教授

●本講座の目的およびねらい  
物質のキャラクタリゼーションに関連する新しい計測手法の開発、その理論的解析、新しい計測機器の設計と製作、などに関する討論と最新の関連文献についてのセミナーを行い、材料解析に関する基礎力と応用力に加えて、目的に応じて分析系を設計し、さらには新たな分析法を提案するための創造力・総合力・協働力を養う。 達成目標 1. 最新の文献を正確に読み、説明することができる。 2. 必要に応じて参考文献を調べ、わかりやすく解説できる。

●バックグラウンドとなる科目  
化学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学実験、分析化学Ⅰ&Ⅱ、無機化学、物理化学、原子物理学、生化学、材料解析学セミナー1A~1D、2A~2D

●授業内容  
1. キャラクタリゼーションの方法論  
2. 高感度分析法に関する最新の進歩  
3. 表面分析法に関する最新の進歩  
4. センサー技術に関する最新の進歩

●教科書  
セミナーに先立って分析化学やその周辺に関する最新の文献を紹介する。担当者は必要に応じて資料を作成し、文献の内容を説明する。

●参考書  
セミナー担当者が探索する。

●評価方法と基準  
資料調査・作成と口述試験。100点満点で60点以上を合格とする。  
〈平成23年度入・進学者〉  
S: 100~90点、A: 89~80点、B: 79~70点、C: 69~60点、F: 59点以下  
〈平成22年度以前入・進学者〉  
A: 100~80点、B: 79~70点、C: 69~60点、D: 59点以下

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
セミナー中または時間打合せのうえ対応 齋藤 saito@nunse.nagoya-u.ac.jp

材料解析学セミナー 2E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期1	3年前期 3年前期
教員	香田 忍 教授 松岡 辰郎 准教授 山口 毅 助教

●本講座の目的およびねらい  
物質制御工学の創造的発展に不可欠な関連諸分野の成書・論文類の輪講を通して深い洞察力を涵養するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。状況に追随するだけでなく、将来的展望を切り開く能力を養う。

●バックグラウンドとなる科目  
材料解析学セミナー1、材料解析学セミナー2A,2B,2C,2D、物性物理化学特論

●授業内容  
1. 統計力学的手法による液体および溶液の物性研究に関するセミナー  
2. 高分子、液晶などのソフトマテリアルの物性研究に関するセミナー  
3. 音波と光を組み合わせた物性測定技術に関するセミナー  
4. 音響的手法によるソフトマテリアルの材料評価に関するセミナー  
5. ソノケミストリーの基礎と応用に関するセミナー  
6. 自らの研究成果についてのプレゼンテーション

●教科書  
なし

●参考書  
野村・川泉・香田「液体および溶液の音波物性」名古屋大学出版会・久保「大学演習 熱学・統計力学」養賢堂

●評価方法と基準  
発表者のセミナー発表に対する口述試験(80%)および質問者の質疑応答の状況(20%)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

無機材料設計セミナー 2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	応用化学分野 分子化学工学分野 材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期1	1年前期 1年前期 1年前期 1年前期
教員	薩摩 篤 教授 沢邊 恭一 講師 大山 順也 助教

●本講座の目的およびねらい  
無機の機能性材料である固体触媒、ガスセンサ、単結晶表面における材料設計、構造解析およびその周辺分野を対象として、関連する文献を調査および総括し発表する。独立した研究者として当該分野の基礎および理論をマスターし、かつ研究動向をスピーディーに捉える実力を養う。

1. 情報収集能力  
2. 科学的基礎と応用力  
3. 他者に対する説明力  
4. 論理的思考を身につける  
この講義を通して、これまでの学習の基礎を確認し、固体触媒に関する応用力を身につけながら総合的に理解する。課題により数値的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力、考え抜く力、知識・技能・態度等を総合的に活用する能力、自主的な課題解決する能力が必要とされる。

●バックグラウンドとなる科目  
触媒・表面化学、反応速度論、熱力学、無機化学、量子化学、構造化学、および化学全領域の基礎

●授業内容  
講義はセミナー形式で進める。題材は最新の科学の動向と、各自の研究の進展状況により適宜決定する。受講者の研究テーマおよび将来問題となると予想される触媒、表面、センサおよび関連分野に関する諸問題の中からテーマを選定する。関連する基礎科学の総説を題材に深く理解する。

●教科書  
具体的には指定しないが、関連する学術論文、総説、成書をテキストとする。最新の学術論文ないしは当該分野の総説が望ましい

●参考書  
関連する学術論文、総説、成書を参考にすること

●評価方法と基準  
セミナーにおける口頭発表(50%)とそれに対する質疑応答(50%)により評価。  
平成23年度以降入学者  
100~90点: S, 89~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: F  
平成22年度以前入学者  
100~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: D

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
質問への対応: 講義終了時口頭または下記に連絡。  
薩摩 篤 4608 satsuna@apchem.nagoya-u.ac.jp  
沢邊 恭一 2610 sawabe@apchem.nagoya-u.ac.jp

無機材料設計セミナー 2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	応用化学分野 分子化学工学分野 材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期1	1年前期 1年前期 1年前期 1年前期
教員	北 英紀 教授 棚橋 満 講師

●本講座の目的およびねらい  
【担当: 北】  
無機微粒子を原料とする材料やプロセスについて基礎知識を習得するとともに、それらを活用した製品やその使用方法を創造できる応用力・総合力を養う。また高機能だけでなく、製品のライフサイクルを俯瞰し、環境負荷や資源消費が少ない環境調和型のプロセスや評価指標について理解を深める。

【担当: 棚橋】  
微粒子制御およびその技術の機能材料設計・開発への応用に関する科学分野および産業界における課題の中から博士論文に関連する小テーマを選定する。その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。

達成目標  
1. 関連分野を包含する幅広い分野の情報収集能力を身につける。  
2. 関連分野を包含する幅広い分野の科学的基礎と応用力を身につける。  
3. 将来指導的立場になった際に必要な他者に対する説明力および論理的思考を身につける。

●バックグラウンドとなる科目  
物理化学、材料界面工学、機能開発工学特論、無機材料設計特別実験及び演習、物質制御工学総合プロジェクト1

●授業内容  
【担当: 北】  
関連文献の読み合わせ、議論によって理解を深める

【担当: 棚橋】  
受講者の博士論文のテーマおよび微粒子制御およびその技術の機能材料開発への応用に関する分野の諸問題の中から小テーマを選定する。

●教科書  
教科書は特に定めなし。輪読する文献は、セミナーの進行に合わせて適宜選択し、配布する。

●参考書  
例えば、J. M. Israelachvili: Intermolecular and Surface Forces, Second Edition: With Applications to Colloidal and Biological Systems, Academic Press, 1992

●評価方法と基準  
達成目標に対する評価の重みは同等。口頭発表(50%)、レポート(30%)及びそれに対する質疑応答・討論(20%)にて目標達成度を総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
セミナー時に対応する。  
担当教員連絡先: 北 hkita@nuce.nagoya-u.ac.jp、棚橋 mtana@nunse.nagoya-u.ac.jp

無機材料設計セミナー 2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	応用化学分野 分子化学工学分野 材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期 1	1年後期 1年後期 1年後期 1年後期
教員	薩摩 篤 教授 沢邊 恭一 講師 大山 順也 助教

- 本講座の目的およびねらい  
無機の機能性材料である固体触媒、ガスセンサ、単結晶表面における材料設計、構造解析およびその周辺分野を対象として、関連する文献を調査および総括し発表する。独立した研究者として当該分野の基礎および理論をマスターし、かつ研究動向をスピーディーに捉える実力を養う。
1. 情報収集・整理力
  2. 科学の基礎力と応用力
  3. 説得力
  4. 論理的思考力
  5. 論文作成力
- この講座を通して、これまでの学習の基礎力を確認し、固体触媒に関する応用力を身につけながら総合的に理解する。課題により数値的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力、考え抜く力、知識・技能・態度等を総合的に活用する能力、自主的な課題解決する能力が必要とされる。
- バックグラウンドとなる科目  
触媒・表面化学、反応速度論、熱力学、量子化学、構造化学、および化学全領域の基礎
- 授業内容  
講義はセミナー形式で進める。題材は最新の科学の動向と、各自の研究の進展状況により適宜決定する。受講者の研究テーマおよび将来問題となると予想される触媒、表面、センサおよび関連分野に関する諸問題の中からテーマを選定する。専門領域にとどまらず他分野の知識を取り入れることにより、新たな発想のできる柔軟な思考を養う。
- 教科書  
関連する学術論文、総説、成書をテキストとする 最新の学術論文ないしは当該分野の総説が望ましい
- 参考書  
関連する学術論文、総説、成書を参考にすること
- 評価方法と基準  
セミナーにおける口頭発表(50%)とそれに対する質疑応答(50%)により評価する。  
平成23年度以降入学者  
100~90点：S, 89~80点：A, 79~70点：B, 69~60点：C, 59点以下：F  
平成22年度以前入学者  
100~80点：A, 79~70点：B, 69~60点：C, 59点以下：D
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応  
質問への対応：講義終了時口頭または下記に連絡。  
薩摩 篤 4608 satsuma@apchem.nagoya-u.ac.jp  
沢邊恭一 2610 sawabe@apchem.nagoya-u.ac.jp

無機材料設計セミナー 2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	応用化学分野 分子化学工学分野 材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期 1	1年後期 1年後期 1年後期 1年後期
教員	北 英紀 教授 棚橋 満 講師

- 本講座の目的およびねらい  
【担当：北】  
無機微粒子を原料とする材料やプロセスについて基礎知識を習得するとともに、それらを利活用した製品やその使用方法を創造できる応用力・総合力を養う。また高機能だけでなく、製品のライフサイクルを俯瞰し、環境負荷や資源消費が少ない環境調和型のプロセスや評価指標について理解を深める。
- 【担当：棚橋】  
微粒子制御およびその技術の機能材料設計・開発への応用に関する科学分野および産業界における課題の中から博士論文に関連する小テーマを選定する。その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。
- 達成目標  
1. 関連分野を包含する幅広い分野の情報収集能力を身につける。  
2. 関連分野を包含する幅広い分野の科学的基礎と応用力を身につける。  
3. 将来指導的立場になった際に必要な他者に対する説明力および論理的思考を身につける。
- バックグラウンドとなる科目  
物理化学、材料界面工学、機能開発工学特論、無機材料設計特別実験及び演習、物質制御工学総合プロジェクト1
- 授業内容  
【担当：北】  
関連文献の読み合わせ、議論によって理解を深める
- 【担当：棚橋】  
受講者の博士論文のテーマおよび微粒子制御およびその技術の機能材料開発への応用に関する分野の諸問題の中から小テーマを選定する。
- 教科書  
教科書は特に定めない。輪読する文献は、セミナーの進行に合わせて適宜選択し、配布する。
- 参考書  
例えば、J. N. Israelachvili: Intermolecular and Surface Forces, Second Edition: With Applications to Colloidal and Biological Systems, Academic Press, 1992
- 評価方法と基準  
達成目標に対する評価の重みは同等。口頭発表(50点)、レポート(30点)及びそれに対する質疑応答・討論(20点)にて目標達成度を総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応  
セミナー時に対応する。  
担当教員連絡先：北 hkita@nuce.nagoya-u.ac.jp, 棚橋 mtana@numse.nagoya-u.ac.jp

無機材料設計セミナー 2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	応用化学分野 分子化学工学分野 材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期 1	2年前期 2年前期 2年前期 2年前期
教員	薩摩 篤 教授 沢邊 恭一 講師 大山 順也 助教

- 本講座の目的およびねらい  
目的 無機の機能性材料である固体触媒、ガスセンサ、単結晶表面における材料設計、構造解析およびその周辺分野を対象として、関連する文献を調査および総括し発表する。独立した研究者として当該分野の基礎および理論をマスターし、かつ研究動向をスピーディーに捉える実力を養う。
- ねらい 次の実力を身につける。
1. 情報収集・整理力
  2. 科学の基礎力と応用力
  3. 説得力
  4. 論理的思考力
  5. 論文作成力
- この講座を通して、これまでの学習の基礎力を確認し、固体触媒に関する応用力を身につけながら総合的に理解する。課題により数値的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力、考え抜く力、知識・技能・態度等を総合的に活用する能力、自主的な課題解決する能力が必要とされる。
- バックグラウンドとなる科目  
触媒・表面化学、反応速度論、熱力学、量子化学、構造化学、および化学全領域の基礎
- 授業内容  
講義はセミナー形式で進める。題材は最新の科学の動向と、各自の研究の進展状況により適宜決定する。受講者の研究テーマおよび将来問題となると予想される触媒、表面、センサおよび関連分野に関する 諸問題の中からテーマを選定する。関連する研究分野の最新情報をまとめる。
- 教科書  
関連する学術論文、総説、成書をテキストとする 最新の学術論文ないしは当該分野の総説が望ましい
- 参考書  
関連する学術論文、総説、成書を参考にすること
- 評価方法と基準  
セミナーにおける口頭発表(50%)とそれに対する質疑応答(50%)により評価する。  
平成23年度以降入学者  
100~90点：S, 89~80点：A, 79~70点：B, 69~60点：C, 59点以下：F  
平成22年度以前入学者  
100~80点：A, 79~70点：B, 69~60点：C, 59点以下：D
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応  
質問への対応：講義終了時口頭または下記に連絡。  
薩摩 篤 4608 satsuma@apchem.nagoya-u.ac.jp  
沢邊恭一 2610 sawabe@apchem.nagoya-u.ac.jp

無機材料設計セミナー 2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	応用化学分野 分子化学工学分野 材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期 1	2年前期 2年前期 2年前期 2年前期
教員	北 英紀 教授 棚橋 満 講師

- 本講座の目的およびねらい  
【担当：北】  
無機微粒子を原料とする材料やプロセスについて基礎知識を習得するとともに、それらを利活用した製品やその使用方法を創造できる応用力・総合力を養う。また高機能だけでなく、製品のライフサイクルを俯瞰し、環境負荷や資源消費が少ない環境調和型のプロセスや評価指標について理解を深める。
- 【担当：棚橋】  
微粒子制御およびその技術の機能材料設計・開発への応用に関する科学分野および産業界における課題の中から博士論文に関連する小テーマを選定する。その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。
- 達成目標  
1. 関連分野を包含する幅広い分野の情報収集能力を身につける。  
2. 関連分野を包含する幅広い分野の科学的基礎と応用力を身につける。  
3. 将来指導的立場になった際に必要な他者に対する説明力および論理的思考を身につける。
- バックグラウンドとなる科目  
物理化学、材料界面工学、機能開発工学特論、無機材料設計特別実験及び演習、物質制御工学総合プロジェクト1
- 授業内容  
【担当：北】  
関連文献の読み合わせ、議論によって理解を深める
- 【担当：棚橋】  
受講者の博士論文のテーマおよび微粒子制御およびその技術の機能材料開発への応用に関する分野の諸問題の中から小テーマを選定する。
- 教科書  
教科書は特に定めない。輪読する文献は、セミナーの進行に合わせて適宜選択し、配布する。
- 参考書  
例えば、J. N. Israelachvili: Intermolecular and Surface Forces, Second Edition: With Applications to Colloidal and Biological Systems, Academic Press, 1992
- 評価方法と基準  
達成目標に対する評価の重みは同等。口頭発表(50点)、レポート(30点)及びそれに対する質疑応答・討論(20点)にて目標達成度を総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応  
セミナー時に対応する。  
担当教員連絡先：北 hkita@nuce.nagoya-u.ac.jp, 棚橋 mtana@numse.nagoya-u.ac.jp

無機材料設計セミナー 2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	応用化学分野 分子化学工学分野 材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期1	2年後期 2年後期 2年後期 2年後期
教員	薩摩 篤 教授 沢邊 恭一 講師 大山 順也 助教

●本講座の目的およびねらい  
目的 無機の機能性材料である固体触媒、ガスセンサ、単結晶表面における材料設計、構造解析およびその周辺分野を対象として、関連する文献を調査および総括し発表する。独立した研究者として当該分野の基礎および理論をマスターし、かつ研究動向をスピーディーに捉える実力を養う。  
ねらい 次の実力を身につける。  
1. 情報収集・整理力  
2. 科学の基礎力と応用力  
3. 読解力  
4. 論理的思考力  
5. 論文作成力  
この講義を通して、これまでの学習の基礎力を確認し、固体触媒に関する応用力を身につけながら総合的に理解する。課題により数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力、考え抜く力、知識・技能・態度等を総合的に活用する能力、自主的な課題解決する能力が必要とされる。

●バックグラウンドとなる科目  
触媒・表面化学、反応速度論、熱力学、量子化学、構造化学、および化学全領域の基礎

●授業内容  
講義はセミナー形式で進める。題材は最新の科学の動向と、各自の研究の進展状況により適宜決定する。受講者の研究テーマおよび将来問題となると予想される触媒、表面、センサおよび関連分野に関する諸問題の中からテーマを選定する。学位論文の背景となる研究分野の歴史的背景と科学的なバックグラウンドをまとめる。

●教科書  
関連する学術論文、総説、成書をテキストとする最新の学術論文ないしは当該分野の総説が望ましい

●参考書  
関連する学術論文、総説、成書を参考にすること

●評価方法と基準  
セミナーにおける口頭発表(50%)とそれに対する質疑応答(50%)により評価する。  
平成23年度以降入学者  
100～90点：S、89～80点：A、79～70点：B、69～60点：C、59点以下：F  
平成22年度以前入学者  
100～80点：A、79～70点：B、69～60点：C、59点以下：D

●履修条件・注意事項  
●質問への対応  
質問への対応：講義終了時口頭または下記に連絡。  
薩摩 篤 4608 satsuna@apchem.nagoya-u.ac.jp  
沢邊恭一 2610 sawabe@apchem.nagoya-u.ac.jp

無機材料設計セミナー 2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	応用化学分野 分子化学工学分野 材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期1	2年後期 2年後期 2年後期 2年後期
教員	北 英紀 教授 棚橋 満 講師

●本講座の目的およびねらい  
【担当：北】  
無機微粒子を原料とする材料やプロセスについて基礎知識を習得するとともに、それらを活用した製品やその使用方法を創造できる応用力・総合力を養う。また高機能だけでなく、製品のライフサイクルを俯瞰し、環境負荷や資源消費が少ない環境調和型のプロセスや評価指標について理解を深める。

【担当：棚橋】  
微粒子制御およびその技術の機能材料設計・開発への応用に関する科学分野および産業界における課題の中から博士論文に関連する小テーマを選定する。その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。

達成目標  
1. 関連分野を包含する幅広い分野の情報収集能力を身につける。  
2. 関連分野を包含する幅広い分野の科学的基礎と応用力を身につける。  
3. 将来指導的立場になった際に必要な他者に対する説明力および論理的思考を身につける。

●バックグラウンドとなる科目  
物理化学、材料界面工学、機能開発工学特論、無機材料設計特別実験及び演習、物質制御工学総合プロジェクト1、物質制御工学総合プロジェクト2

●授業内容  
【担当：北】  
関連文献の読み合わせ、議論によって理解を深める

【担当：棚橋】  
受講者の博士論文のテーマおよび微粒子制御およびその技術の機能材料開発への応用に関する分野の諸問題の中から小テーマを選定する。

●教科書  
教科書は特に定めなし。輪読する文献は、セミナーの進行に合わせて適宜選択し、配布する。

●参考書  
例えば、J. N. Israelachvili: Intermolecular and Surface Forces, Second Edition: With Applications to Colloidal and Biological Systems, Academic Press, 1992

●評価方法と基準  
達成目標に対する評価の重みは同等。口頭発表(50点)、レポート(30点)及びそれに対する質疑応答・討論(20点)にて目標達成度を総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。

●履修条件・注意事項  
●質問への対応  
セミナー時に対応する。  
担当教員連絡先：北 hkita@nuce.nagoya-u.ac.jp、棚橋 atana@nunse.nagoya-u.ac.jp

無機材料設計セミナー 2E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	応用化学分野 分子化学工学分野 材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期1	3年前期 3年前期 3年前期 3年前期
教員	薩摩 篤 教授 沢邊 恭一 講師 大山 順也 助教

●本講座の目的およびねらい  
目的 無機の機能性材料である固体触媒、ガスセンサ、単結晶表面における材料設計、構造解析およびその周辺分野を対象として、関連する文献を調査および総括し発表する。独立した研究者として当該分野の基礎および理論をマスターし、かつ研究動向をスピーディーに捉える実力を養う。  
ねらい 次の実力を身につける。  
1. 情報収集・整理力  
2. 科学の基礎力と応用力  
3. 読解力  
4. 論理的思考力  
5. 論文作成力  
この講義を通して、これまでの学習の基礎力を確認し、固体触媒に関する応用力を身につけながら総合的に理解する。課題により数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力、考え抜く力、知識・技能・態度等を総合的に活用する能力、自主的な課題解決する能力が必要とされる。

●バックグラウンドとなる科目  
触媒・表面化学、反応速度論、熱力学、量子化学、構造化学、および化学全領域の基礎

●授業内容  
講義はセミナー形式で進める。題材は最新の科学の動向と、各自の研究の進展状況により適宜決定する。受講者の研究テーマおよび将来問題となると予想される触媒、表面、センサおよび関連分野に関する諸問題の中からテーマを選定する。学位論文の背景となる研究分野の最新情報をまとめる。

●教科書  
関連する学術論文、総説、成書をテキストとする 最新の学術論文ないしは当該分野の総説が望ましい

●参考書  
関連する学術論文、総説、成書を参考にすること

●評価方法と基準  
セミナーにおける口頭発表(50%)とそれに対する質疑応答(50%)により評価する。  
平成23年度以降入学者  
100～90点：S、89～80点：A、79～70点：B、69～60点：C、59点以下：F  
平成22年度以前入学者  
100～80点：A、79～70点：B、69～60点：C、59点以下：D

●履修条件・注意事項  
●質問への対応  
質問への対応：講義終了時口頭または下記に連絡。  
薩摩 篤 4608 satsuna@apchem.nagoya-u.ac.jp  
沢邊恭一 2610 sawabe@apchem.nagoya-u.ac.jp

無機材料設計セミナー 2E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	応用化学分野 分子化学工学分野 材料工学分野 物質制御工学専攻
開講時期1	3年前期 3年前期 3年前期 3年前期
教員	北 英紀 教授 棚橋 満 講師

●本講座の目的およびねらい  
【担当：北】  
無機微粒子を原料とする材料やプロセスについて基礎知識を習得するとともに、それらを活用した製品やその使用方法を創造できる応用力・総合力を養う。また高機能だけでなく、製品のライフサイクルを俯瞰し、環境負荷や資源消費が少ない環境調和型のプロセスや評価指標について理解を深める。

【担当：棚橋】  
微粒子制御およびその技術の機能材料設計・開発への応用に関する科学分野および産業界における課題の中から博士論文に関連する小テーマを選定する。その解答を独自で作成することによって、学問の構築と独創性を発揮させる訓練を行う。

達成目標  
1. 関連分野を包含する幅広い分野の情報収集能力を身につける。  
2. 関連分野を包含する幅広い分野の科学的基礎と応用力を身につける。  
3. 将来指導的立場になった際に必要な他者に対する説明力および論理的思考を身につける。

●バックグラウンドとなる科目  
物理化学、材料界面工学、機能開発工学特論、無機材料設計特別実験及び演習、物質制御工学総合プロジェクト1、物質制御工学総合プロジェクト2

●授業内容  
【担当：北】  
関連文献の読み合わせ、議論によって理解を深める

【担当：棚橋】  
受講者の博士論文のテーマおよび微粒子制御およびその技術の機能材料開発への応用に関する分野の諸問題の中から小テーマを選定する。

●教科書  
教科書は特に定めなし。輪読する文献は、セミナーの進行に合わせて適宜選択し、配布する。

●参考書  
例えば、J. N. Israelachvili: Intermolecular and Surface Forces, Second Edition: With Applications to Colloidal and Biological Systems, Academic Press, 1992

●評価方法と基準  
達成目標に対する評価の重みは同等。口頭発表(50点)、レポート(30点)及びそれに対する質疑応答・討論(20点)にて目標達成度を総合的に評価し、全体で60%以上のポイントを獲得した学生に単位を認定する。

●履修条件・注意事項  
●質問への対応  
セミナー時に対応する。  
担当教員連絡先：北 hkita@nuce.nagoya-u.ac.jp、棚橋 atana@nunse.nagoya-u.ac.jp

実験指導体験実習 1 (1.0単位)

科目区分	総合工科学目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期 1	1年前後期
開講時期 2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授

●本講座の目的およびねらい  
高度総合工学創造実験において、企業からのDirecting Professorと学部及び前期課程の学生の間に立ち、指導の体験を通して、後期課程の学生の教育と研究及び指導者としての養成に役立つ。

●バックグラウンドとなる科目  
特になし。

●授業内容  
高度総合工学創造実験において、実験結果の解釈、とりまとめ、発表・展示の指導をDirecting Professorの指導の元におこなう。

●教科書  
特になし。

●参考書  
特になし。

ただし、授業時に適宜参考となる文献・資料を紹介する。

●評価方法と基準  
とりまとめと指導性により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
授業時に対応する。

実験指導体験実習 2 (1.0単位)

科目区分	総合工科学目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期 1	1年前後期
開講時期 2	2年前後期
教員	永野 修作 准教授

●本講座の目的およびねらい  
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー等の最先端理工学実験において、後期課程学生が実験指導を行うことを目的とする。この研究指導を通じて、研究・教育及び指導者としての総合的な役割を果たすとともに、自身の指導者としての実践的な養成に役立つ。

●バックグラウンドとなる科目  
特になし。

●授業内容  
最先端理工学実験において、担当教員のもと、課題研究および独創研究の指導を行う。成果のまとめ方（レポート作成指導）、発表に至るまで担当の学生の指導者的役割を担う。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準  
実験・演習のとりまとめと指導性(70%)、面接(30%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

研究インターンシップ2 (2.0単位)

科目区分	総合工科学目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期 1	1年前後期
開講時期 2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授

●本講座の目的およびねらい  
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材の育成を目指す。

●バックグラウンドとなる科目  
「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。

●授業内容  
・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。

●教科書  
特になし。

●参考書  
特になし。

●評価方法と基準  
企業において研究インターンシップに従事した総日数20日以下のものに与えられる。

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

研究インターンシップ2 (3.0単位)

科目区分	総合工科学目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期 1	1年前後期
開講時期 2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授

●本講座の目的およびねらい  
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材の育成を目指す。

●バックグラウンドとなる科目  
「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。

●授業内容  
・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。

●教科書  
特になし。

●参考書  
特になし。

●評価方法と基準  
企業において研究インターンシップに従事した総日数21日以上40日以下のものに与えられる。

●履修条件・注意事項

●質問への対応  
研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

研究インターンシップ2 (4.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材の育成を目指す。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論1」または「同 11」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数41日以上60日以下のものに与えられる</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフが随時対応。</p>	

研究インターンシップ2 (6.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材の育成を目指す。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論1」または「同 11」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数61日以上80日以下のものに与えられる</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p>	

研究インターンシップ2 (8.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材の育成を目指す。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論1」または「同 11」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数81日以上のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p>	